

東北大学出版会

図書目録

Tohoku University Press, Sendai

目次

TUP 叢書	1
東北大学教養教育院叢書 大学と教養	3
今を生きる ー東日本大震災から明日へ！ 復興と再生への提言ー	5
東北大学出版会ブックレット	7
総記	9
哲学・心理・倫理・宗教	15
歴史・地理・伝記	23
社会・民俗	27
法律・経済・経営	33
教育	39
高等教育ライブラリ	48
自然科学	53
医学	65
工学・工業・産業	75
芸術・スポーツ	84
語学・文学	87
東北大学出版会若手研究者出版助成刊行書籍	93
人文社会科学講演シリーズ	107
人文社会科学ライブラリー	110
東北アジア学術読本	111
ジェンダー法・政策研究叢書	114
The 21st Century COE Program International COE of Flow Dynamics Lecture Series	118
書名索引	122
著訳編者名索引	129
品切図書	135



ISBN978-4-925085-04-5
C1322(1997年9月)

1 歴史学の遠近

西村貞二 著 四六判 236頁 定価1,760円(本体1,600円+税)

歴史家である著者が歴史とは何かについて、歴史の見方、歴史書の読み方、歴史家の姿勢等の視点から思索したものをまとめた。二部構成からなり、第一部は歴史についての所感をまとめ、第二部は、マキアヴェリ、ブルクハルト、ホイジンガ、トインビー、マイネッケ、トレルチら歴史家の事跡を著書・思想・主張から論じている。



ISBN978-4-925085-05-2
C1398(1997年9月)

2 放浪文学論 ジャン・ジュネの余白に

梅木達郎 著 四六判 248頁 定価1,760円(本体1,600円+税)

人生において、放浪とは何か。著者は、出発点をもたず、到達点を持たぬことと定義し、それはどこから来たのか分からず、ひたすら通過することだとする。はたして人間においてこの定義に該当する「放浪者」がいるのであろうか。ところが、ジャン・ジュネがいたのだ。本書は、この放浪者の「放浪」の背景を克明に論じている。



ISBN978-4-925085-16-8
C1395(1999年1月)

3 父 阿部次郎

大平千枝子 著 四六判 370頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

戦前・戦後の青年たちの必読書『三太郎の日記』などで著名な阿部次郎先生は、東北帝国大学を代表する教授の一人で、思想史や哲学・美学、日本文化史の研究に大きな足跡を残されました。先生の三女大平千枝子さん(文学部美学科卒)はエッセイストとして活躍されました。1961年の日本エッセイストクラブ賞に輝いた幻の名著『父 阿部次郎』が、東北大学出版会叢書の3点目として、増補復刊されました。

娘の視点から、父の「語り部」として、主に家庭人としての、とくに敗戦直後の時代を背景に最晩年の阿部先生を描いたものです。家庭内でも理想主義を貫徹しようとする精神的にも肉体的にも強い父の姿。その父の老いとのがらい。日々勝る死の影。衰微していく肉体と精神。阿部先生とご家族が、老いと死をどのように受け入れていったのか。愛惜のまなざしと透徹した観察力と筆力によって紡ぎ出します。



ISBN978-4-925085-41-0
C3070(2001年10月)

7 線描の芸術—西欧初期中世の写本を見る—

越宏一 著 四六判 230頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

本書は初期中世写本の傑作《ユトレヒト詩編》を詳細に論じ、線描画こそ近・現代ヨーロッパ絵画の根幹をなす重要なファクターであることを明らかにする。この斬新な主張、そしてそれを支える著者の美意識、畢竟それは線の濃やかさに敏感な日本人の伝統的な鑑識眼に繋がっている。これによって、遠く霧がかかったような初期中世世界と現代の日本とが急に隣りあわせにあるかのような親近感を抱かせてくれる。本書は、西洋の写本芸術に関する総見に溢れているが、図版を豊富に用いて、平易な語り口で「線描の芸術」へと読者を誘う。待望の書である。



ISBN978-4-86163-003-3
C0025(2005年3月)

9 津波の恐怖—三陸津波伝承録—

山下文男 著 四六判 250頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

三陸津波史の特徴は、猛烈なパワーによる大量死の恐怖と多くの遺体の海の藻屑化、加えて体験の風化による悲劇の繰り返しであった。その津波海岸に生まれて長いあいだ津波防災に取り組んできた著者が、津波の危険が予告されている列島動乱の時代を迎えて世に贈る、津波から我が身と地域を守るための心得と提言がここに集大成!

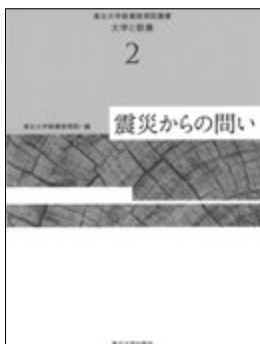


ISBN978-4-86163-303-4
C0000(2018年3月)

1 教養と学問 東北大学教養教育院 編

A 5判 220頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

教養教育は、学問の根幹である。東北大学教養教育院による叢書「大学と教養」の第1巻。第一部では教養教育の歴史やその実践課程を大学の制度設計の中で振り返り、第二部では専門教育との関係を研究者たちが語る。「教養」の意味を問い直し、これからの時代に求められる「教養」の意義を模索する、横断的な議論の論考集。執筆者：花輪高雄（海洋物理学）、森田康夫（数学）、木島明博（海洋生物学）、浅川照夫（英語学）、柳父罔近（西洋政治思想史）、海老沢丕道（物性物理学）、工藤昭彦（農業経済学）、野家啓一（科学哲学）

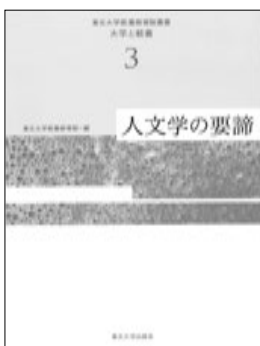


ISBN978-4-86163-304-1
C0000(2018年3月)

2 震災からの問い 東北大学教養教育院 編

A 5判 224頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

「3.11」以後に果たす、教養の役割とは…。東北大学教養教育院による叢書「大学と教養」の第2巻。第一部では東日本大震災が大学に問うたことを科学技術や教養教育の視点から浮き彫りにし、第二部では複数の専門知をとおして「教養」がなすべき役割を照射する。人間は、社会は、科学は、災害にどう向き合っていくべきなのか。その根底を支える「教養の力」を被災地から発信する。執筆者：執筆者：花輪高雄（海洋物理学）、森田康夫（数学）、木島明博（海洋生物学）、野家啓一（科学哲学）、前忠彦（植物栄養生理学）、佐藤健（防災教育）、小林隆（方言学）、座小田豊（西洋近代哲学）、工藤昭彦（農業経済学）

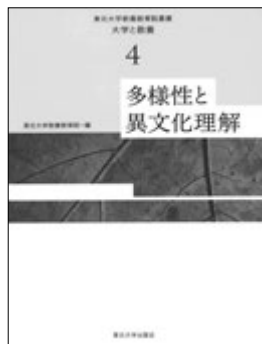


ISBN978-4-86163-344-7
C0000(2020年3月)

3 人文学の要諦 東北大学教養教育院 編

A 5判 248頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

人文学 Human Sciences は、西洋に発する大学教育の基礎に位置づけられてきた。大学において、何よりもまず「人間」が問われ、多方面から多様に探究されるが、人間の学である人文学がその根幹に置かれるべきだと考えられたのである。たしかに、人間を問わずして人間であることは難しいだろう。しかし、ことは簡単ではない。自問し始めればすぐに分かることだが、「人間」は、何よりも厄介な問いの対象だからである。各分野の先達がそれぞれの専門的な関心から「人間」に向けた温かな眼差しが提示されている本書を、是非玩読いただきたい。

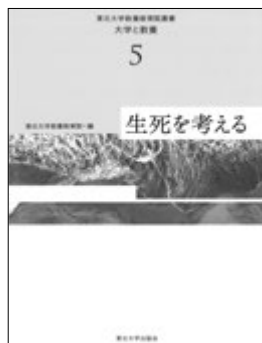


ISBN978-4-86163-358-4
C0000(2021年3月)

4 多様性と異文化理解 東北大学教養教育院 編

A5判 234頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

人類は群を作って共同生活を行い、身の回りの自然を変えて快適な生活を実現しながらその文明を進歩させてきた。こうした歴史の背後では、群れが多様な個により構成されてきたことが有効に作用してきたのであろう。しかし反面、そうした多様性は異質性として受け止められ、区別・差別の対象となってきたことも否定できない。本書では、そうした人間の多様性を、進化生物学・行動科学・哲学といった個別学問分野の視点から再考すると共に、教養教育院に関わる教員の異文化体験を手掛かりに、多様性を踏まえた異文化理解のあり方を展望する。

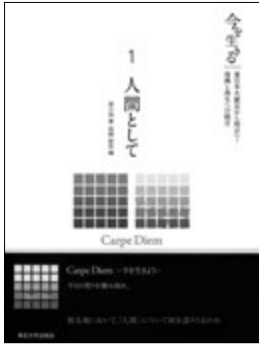


ISBN978-4-86163-371-3
C0000(2022年3月)

5 生死を考える 東北大学教養教育院 編

A5判 216頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

他者の死に遭遇することにより、多くの人間は何れ訪れる自己の死を意識し、「死とは何か」「死へ向けてどう生きるか」を考えながら「死生観」を形成してきた。社会変化の荒波の中、現代人の「死生観」は、伝統社会のそれと比較して、多様化し個人化する傾向にある。かかる時代ゆえ、自己の「死生観」の確立は、老若男女、現代人の誰にとっても喫緊の課題である。生死のさまざまな局面に対峙して発信している、本書に収録された研究者たちによる先端的情報は、読者が自己の生死を見つめて「死生観」を考える上で、大きな指針を提供しよう。



ISBN978-4-86163-192-4
C1300(2012年3月)

1 人間として 座小田豊・尾崎彰宏 編

A 5判 232頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

被災地において、なおも「文化」について、「人間」について何を語りうるのか、また何が語られるべきなのか。私たちは一個の「人間として」何を、どのように提示しようのだろうか。被災の現場を眼前にして、語るべき言葉を失った、もしくは、語るべき言葉をもちえないというのが当然であろう。しかしそれでもなお、語るべき何事かが私たちを突き動かす。その何事かとはたしかに、私たちの心のうちに抱かれた「哀しみ」ではなかっただろうか。この「哀しみ」を表出することの可能性を尋ねること、それがいま私たちに求められている。

東北大学文学研究科の研究者が、それぞれにこの問いに対峙した、その答えの一つひとつがここに提示されている。亡くなられた方たちをはじめ、被災された方々に、どのようにして寄り添うことができるのか、「生きる」方途を改めてどのように考えることができるのか、哀しみをどのように表現しようのかという視点から、各分野それぞれに相応しい主題について考え抜かれた文章がここに収められている。



ISBN978-4-86163-196-2
C1300(2012年9月)

2 教育と文化 水原克敏・関内隆 編

A 5判 316頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

今回の東日本大震災で驚かされたのは、学校が襲われ壊滅的な被害を受けたことである。学校は、本来は安全な場所、その多くは住民の避難場所として指定されてきた。今までは、その役割を十分に果たしてきたので、私たちはすっかり信頼していた。しかし、今回の大震災では、その信頼が裏目に出るなど、信じられないほどに深刻な被害を受けることになった。本書では、そうした学校を中心に、教育と文化をめぐる厳しい現実を記録するとともに、そこから得られる教訓を糧に将来への展望を得るために編集した。それぞれの学校がどのような状況に追い込まれながら、住民の避難場所としてどれほど奮闘したのか、残された課題も含めて見ていただきたい。

他方、学校と地域を支えた文部科学省と教育委員会の行政的対応、学会による調査と改善策の提案、さらには文化財の被災と保存の在り方、そして根本的な文化と人間の在り方の考察についても収録し、深く「教育と文化」について問題提起をするように編集した。



ISBN978-4-86163-203-7
C1300(2012年12月)

3 法と経済 稲葉馨・高田敏文 編

A 5判 362頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

第1部「法と政治編」では、災害復興のための法学・政治学の課題について、東北大学大学院法学研究科と公共政策大学院の研究者が現状分析と提言を行う。今回の大震災で私たちは政府や自治体の活動に大いに助けられた。特に災害復旧、人命救助に当たられた自衛隊、警察、政府・自治体の職員の方々には、本当に心からの感謝を申し上げたい。その一方で、政府・自治体の機能が一部不全であったことも事実である。第1部では、そのような視点からの現状分析と提言を内容としている。

第2部「経済と経営編」は、人々の暮らし、生活の復興に軸足を置き、専門家や地域の企業、産業界が復興支援についてのアイデアを出し合ったシンポジウム、トークインを基としている。東北大学大学院経済学研究科と会計大学院は、これまでも地域の産業界との間で多様な連携事業を実施してきた。また、会計大学院協会は、新日本有限責任監査法人の支援を受け、震災復興シンポジウムを仙台で開催し、東北大学会計大学院がその運営を担当した。

被災地の人々は、いま力強く前進している。本書は、そういう人々へのエールであり、被災地の人々とともに、この災害を乗り越えていくことの決意のあらわれである。多くの方々にご高覧いただければ幸いである。



ISBN978-4-86163-206-8
C1300(2013年2月)

4 医療と福祉 久道茂・鴨池治 編

A 5判 410頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

東日本大震災は、甚大な被害を広範囲にもたらした大規模災害で、現在までに約二万人も及ぶ死者・行方不明者を数える。本書の四巻目となる「4 医療と福祉」では、災害により危機にさらされた「命」と「生」をテーマに、医療福祉関係者からの言説を集めた。

津波被害を受けながらも災害救急医療の最前線として機能した宮城県石巻市の病院関係者や、発災直後から緊急体制を敷き、被災地の医療機関の支援・バックアップに努めた東北大学病院、地元宮城県の医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会の対応は、有事の医療体制の教訓となる。また、遺体確認に奔走した歯科医師や、勤務先の病院で自身も被災した医師の証言からは、被災の厳しい現実が浮かび上がる。福祉の面からは、被害を受けた福祉施設の復旧活動や、ボランティア活動、炊き出し支援の現場からの報告、さらに原発事故による避難者の現状等についても、当事者たちからの声を集めた。



ISBN978-4-86163-207-5
C1300(2013年2月)

5 自然と科学 吉野博・日野正輝 編

A 5判 358頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

叢書シリーズの最終巻にあたる本書は、東北大学に主に所属する理学・工学・農学分野の研究者による論考をまとめ、東日本大震災の実情と今後の復興への道筋を提言する。

第I部では今回の地震・津波・原発禍のメカニズムと被害を、各分野の第一人者の研究者が論じる。各論考は、図版や写真を多く掲載し、また専門用語を用いる場合には註釈を充実させるなど、広く読まれ理解されるように努めた。第II部では、被災地の復興に向けた各種プロジェクトの紹介や、「震災後」を見据えたスマートシステムの例を示す。

震災後、執筆者の多くが感じた「何かをしなければ」という科学者としての使命感が、どの論考からも感じ取れる。本書は、被災地の科学者によるゼロからの復興・再生への現時点での回答書でもある。



ISBN978-4-86163-264-8
C0340(2015年11月)

001 若き研究者の皆さんへ

—青葉の杜からのメッセージ—

花輪公雄 著 A 5判 104頁 定価990円(本体900円+税)

「研究とは自分で問題を作り、自分で解答を書くことである」。海洋物理学の専門家によるエッセイ集。自身の研究分野にかんするトピックやこぼれ話、教育現場で感じる喜びと課題、さらには日常生活で出会う様々な事柄などをとおし、これからの時代の最前線を担う若き研究者たちへの問いかけや提言を軽快な筆致でつづる。『お粗末な科学』と『不正直な科学』、「イメージトレーニングの勧め」、「アマらしい問題設定を」、「グループ研究におけるハーモニー」、「ビル建設と誤差関数」、「辞書は読むもの」、「研究テーマの競合について」など、広く深い話題が満載。1994年4月から2006年3月までの間、ウェブサイトに掲載した91編のエッセイを収めた。

ブック
レット



ISBN978-4-86163-275-4
C0340(2016年12月)

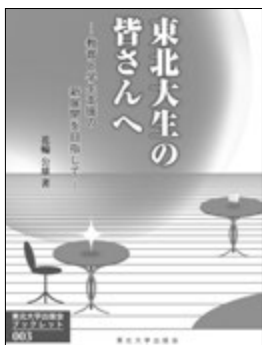
002 続 若き研究者の皆さんへ

—青葉の杜からのメッセージ—

花輪公雄 著 A 5判 110頁 定価990円(本体900円+税)

好評のエッセイ集の続編。2006年4月から2012年3月までの6年間にウェブサイトに掲載した93編のエッセイを収めた。専門研究のおもしろさや幅広い読書の効用、日常生活の様々な気づきのほか、東日本大震災を境にした科学と歴史の転換など、多方面にわたる鋭い観察眼から言葉をつなぐ。『研究は「後出しジャンケン」なのだが…』、『ヘルベルトによる23の問題』、『好きなもの、それは仮説を思いつくること』、『収入の1~2割は本代に使わなくちゃ』、『出でて人は決まるのか』、『ときにはエィヤーと』、『これもセレンディピティ』、『回り道の効用』、『思う』や『思われる』という表現

このほか、ひろく深い話題が満載。



ISBN978-4-86163-324-9
C0340(2019年4月)

003 東北大生の皆さんへ

—教育と学生支援の新展開を目指して—

花輪公雄 著 A 5判 118頁 定価990円(本体900円+税)

講義、課外活動、読書、留学…。大学における学びの場面をとおり、東北大学理事(教育・学生支援・教育国際交流担当)として学生たちに語りかける日記風エッセイ54編を収めた。『学びの転換を』、『課外活動の勧め』、『Windnauts 連覇なる』、『読書の勧め』、『ピア・サポート制度』、『失敗とはなんだ!』、『美術館や博物館のキャンパスメンバーズ制度』、『「ぼっち席」は必要?』、『大学図書館の新しい機能』、『津波襲来を「想定内」の出来事にしたヨット部』、『コピペはカンニング』、『留学の勧め』、『The great teacher inspires』、『ジョージ・タケイ氏講演会』ほか。



ISBN978-4-86163-325-6
C0340(2019年10月)

004 続 東北大生の皆さんへ

—教育と学生支援の新展開を目指して—

花輪公雄 著 A 5 判 112頁 定価990円(本体900円+税)

既刊『東北大生の皆さんへ—教育と学生支援の新展開を目指して』の続編となる本書は、著者が東北大学理事を務めていた期間にウェブサイトに関連していたエッセイを収録したものである。著者の学生へ向けた、心温まるメッセージが満載。

「古典芸能に触れる」、「七大戦、三連覇成る」、「短時間の発表ほど周到な準備を」、「読書を人生の伴侶に」、「書く力を身につけるためには?」、「平成時代の名著50冊」、「失敗を恐れずに、失敗で学ぶ」、「学生諸君へ新聞購読の勧め」など、53編のエッセイが取められている。



ISBN978-4-925085-62-5
C0000(2002年10月)

情報技術と社会

中村維男 編著
A 5判 192頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

情報技術に基づいた情報化社会は、インターネットを介して世界中に広がりを見せている。その中で、情報技術と人間社会の関わりは、電子商取引やネット金融といったビジネスを中心として最近非常に興味もたれている。併せて、情報技術の活用は、経済界のみでなく、医学の分野での電子カルテのような分野にも及んでいる。おのずと、そのような情報化社会の中でのセキュリティの在り方、犯罪とその刑罰、さらに著作権の問題等が必要にして生じてくる。本書は、このような分野を、まず情報技術の基本を論じた上で詳細にわかりやすく解説している。



ISBN978-4-925085-63-2
C0000(2002年10月)

まなびの杜〈東北大学〉知的探検のススメ

「まなびの杜」編集委員会 編
A 5判 248頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

『まなびの杜』は、市民の方々に東北大学をもっと知っていただくことをねらいにした季刊情報誌であるが、この本は、平成10年1月発行の創刊号から平成14年3月発行の第18号までを読みやすく再編集したものである。最先端の研究紹介や暮らしの中のなるほど学をはじめ、キャンパスや施設のガイドなど、バラエティ豊かな読み物をふんだんに盛り込んでいる。また、簡略ながらできるだけ執筆者の紹介を心がけているので、研究成果とともに研究者にもふれることができる。知的探検を楽しむ一助として、さらに東北大学をのぞく窓として、本書をお薦めしたい。



ISBN978-4-86163-029-3
C0000(2006年3月)

まなびの杜〈東北大学〉知的探検のススメ Vol. II

「まなびの杜」編集委員会 編
A 5判 246頁 定価1,760円(本体1,600円+税)

『まなびの杜』は、市民の皆様へ東北大学をもっと知っていただくことをねらいにした季刊情報誌で、この本は、1巻目(創刊号～第18号の合本)に引き続き、2002年6月発行の19号から2005年12月発行の34号までを読みやすく再編集したものである。最先端の研究レジメや暮らしの中の考察をはじめ、キャンパスや施設のガイドなど、バラエティ豊かな読み物を盛り込んでいる。簡略ながらできるだけ執筆者の紹介を心がけているので、研究成果とともに研究者にもふれることができる。知的探検を楽しんでいた一助として、東北大学をのぞく窓としてお薦めの書。



ISBN978-4-925085-70-0
C0000(2003年3月)

知の地平 大学におけるマルチリテラシーと応用倫理

栗原隆 編 A 5 判 332頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

多様化し、同時に高度に専門分化した大学にあって、今ほど自然科学系と人文科学系を通底する共通の知のリテラシーが必要とされる時はない。大学が専門分野の単なる寄り合い所帯に陥ることがないように、知の総合性や普遍性を形成する文理融合のリテラシー教育が求められている。本書は、「情報倫理」や「メディア・リテラシー」、「コミュニケーションの作法」から「生物のストラテジー」、そして「景観工学のコスモロジー」まで、さらには「モノづくりの倫理」や「生命倫理」をも含めて、「倫理」の側面を際立たせながら、大学で学ぶ上での必須の文法を分かりやすく、領域融合的に明らかにする先駆的な試みである。

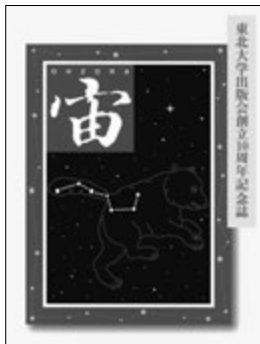


ISBN978-4-86163-013-2
C1000(2005年5月)

大学における共通知のありか

栗原隆・濱口哲 編
A 5 判 288頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

教養課程が廃止された多くの大学では、学問分野が細分化され、しかも先端化した今日、知識の狭隘化を避けるため、旧来の教養教育を超えた形での共通教育の必要性が認識されつつある。文理融合の知のありかを示すだけではない、人文・社会・自然・医歯系に共通の根源的な問題を明らかにすることこそ、憶える〈学習〉から、大学での課題探求型の〈学問・研究〉への転換に必要である。本書は、〈知〉に内在する問題の枠組みを分析的に明らかにすることを通して、大学での学問分野の〈研究〉にとって必須の、共通知の基礎を明らかにしている。



ISBN978-4-86163-042-2
C0000(2006年11月)

東北大学出版会創立10周年記念誌「宙」

東北大学出版会 編
A 5 判 324頁 定価1,100円(本体1,000円+税)

刊行物や活動をPRするメディアとして刊行されている、東北大学出版会会報誌「宙(おおぞら)」の創刊号から19号までを、当会創立10周年を記念して合本編集した。東北大学のシンボルマークであり、本出版会のロゴマークでもある北斗七星の7つの星にちなみ、毎回7人の筆者が登場するという趣向になっている。東北大学内外の関係者の方々を中心に、ひろく各界の人びとにご執筆いただいた珠玉のエッセイは本出版会の読者のオアシスといえる。

【日本図書館協会選定図書】



ISBN978-4-86163-074-3
C0000(2008年3月)

東北大学 100年 学び究めて

河北新報社編集局 編著
A 5判 252頁 定価1,980円(本体1,800円+税)

2007年に創立100周年を迎えた東北大学を主要な研究、教育、文化、環境、生活など多方面から紹介する。河北新報に掲載されたコラムを編集し、写真も追加、世界にはばたく東北大学の雄姿をこの一冊で読み取ることができる。



ISBN978-4-86163-106-1
C0000(2009年1月)

ものがたり 東北大学の至宝

『ものがたり 東北大学の至宝』編集委員会 編
A 5判変型 150頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

一世紀以上にわたる東北大学の歴史は、文系・理系を問わず、多くの学術研究の発展を支えた貴重な資料を学内に集めてきた。国宝や重要文化財をも含むそれらは、知の創造を重ねてきた東北大学の「至宝」と呼ぶに相応しいものばかりだ。本書は2007年開催の「東北大学の至宝？資料が語る1世紀」で記念展示したコレクションを、それにまつわる人々の「ものがたり」とあわせて紹介することを目的としたものである。研究への熱意、教育への信念がかたちとなって残る一つひとつの宝から、東北大学が試みてきた「知の創造」のあとが浮かび上がる。

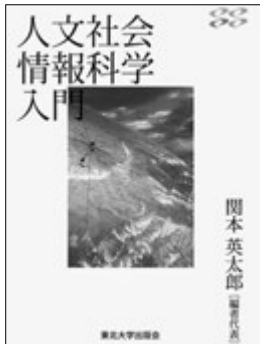


ISBN978-4-86163-118-4
C1000(2009年3月)

人文学の生まれるところ

栗原隆 編 A 5判 366頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

心理学・社会学・倫理学といった人文学に包括される17の分野を、従来の哲・史・文ではなく、「第I部 身体を軸に」「第II部 交わりを織り成し」「第III部 物語を紡いで生きる」という新たなカテゴリーに分類。「ヒトの心は進化したのか」「私たちはなぜ“思いこみ”にとらわれるのか」「私たちは本当のことを語らねばならないのか」など、それぞれの分野で中心的な、あるいは典型的な問いから始まる探求の道筋を示す。その道筋は、人文学という一つの学問の全容を展望する「知の喜び」へと通じている。



ISBN978-4-86163-113-9
C3004(2009年4月)

人文社会情報科学入門

関本英太郎 (編集代表)

A 5判 300頁 定価2,530円(本体2,300円+税)

情報や情報科学を人文科学から見たら、どう概念化されるだろうか。デジタルネットワーク社会の進展が人間の行為や社会生活に関する思慮の深化に必ずしもつながらず、むしろ技術に翻弄される日常を招いているとさえ見える今日、人文科学的知の意義が見直され、問い直されるべきであろう。本書は、主に東北大学大学院情報科学研究科で文学・芸術、政治・社会・法、言語、教育・心理、哲学などを担当する研究者が集まって、各分野の基礎をふまえながら今日の課題への応答を試み、理工学の学生にもわかりやすく著述した講義テキストである。



ISBN978-4-86163-158-0
C0060(2011年2月)

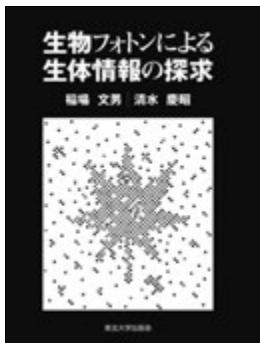
東北における産学官連携

—二十一世紀の東北を考える懇談会の軌跡—

佐藤利三郎・本村昌文・吉葉恭行 編著

四六判 270頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

「二十一世紀の東北を考える懇談会」とは、宮城県、仙台市、東北経済連合会、日本学術会議同友会東北部会を主要メンバーとする産学官連携組織であり、昭和57年の発足から平成17年に至るまで毎年開催されてきた。この懇談会は、仙台国際センターの建設、東北インテリジェント・コスモス構想の実現に寄与するなど、産学官の連携をはかる場として重要な役割を果たした。本書は、この先駆的な懇談会の足跡と歴史的意義について明らかにし、東北における産学官連携を展望したものである。



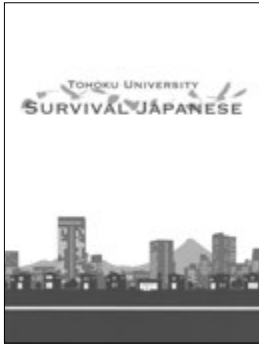
ISBN978-4-86163-165-8
C3004(2011年9月)

生物フォトンによる生体情報の探求

稲場文男・清水慶昭 著

A 5判 264頁 定価4,950円(本体4,500円+税)

本書は、生物フォトンに関する世界初の国家プロジェクト「稲場生物フォトンプロジェクト(新技術開発事業団 現在の独立行政法人科学技術振興機構)」における成果をまとめたものである。生物フォトン現象の特徴やメカニズムを対話形式でわかりやすく解説し、生物学・医学分野への様々な応用の可能性を示す。ヒトだけでなく、広範な動植物などの計測・診断・治療、また環境保全などへのブレークスルーが今後ますます期待される生物フォトン研究の、これまでの歩みと興味の中心、さらに今後の発展がわかる一冊である。



ISBN978-4-86163-301-0
C2000(2017年12月)

TOHOKU UNIVERSITY SURVIVAL JAPANESE

島崎薫・渡部留美 著

A4判 40頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

東北大学では、留学生が日本で生活や東北大学での大学生活にスムーズに適應できるように、生活をする上で最低限必要な日本語や、緊急時に必要な日本が学べる「Tohoku University Survival Japanese Program (TUSJ)」を2016年度より実施している。本書はその教材である。

総記



ISBN978-4-86163-313-3
C3300(2019年1月)

百科繚覧—若手研究者が挑む学際フロンティア—Vol.1

東北大学学際科学フロンティア研究所『百科繚覧』編集委員会 編
A5判 182頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

東北大学学際科学フロンティア研究所の若手研究者と東北大学学際高等教育院の教育院生たちの論集。自らの専門研究の魅力と融合研究の可能性を語る。

序 佐藤正明

プロローグ 現代の研究に生きる学際的姿勢 富真賢二

第1章 宇宙の明るさを測る—木星からの天文観測を目指して 津村耕司

第2章 人口減少期の交通デザイン 山口裕通

第3章 曲面の平面地図を描く—擬等角写像とその応用 島内宏和

第4章 歴史から展望する農業の未来—微生物を利用した持続可能な農業を目指して 小西範幸

第5章 人間的(脳型)コンピューティングによる安全で快適な暮らしの実現に向けて 鬼沢直哉

第6章 分野の垣根を越えた融合に向けて—リサーチアドミニストレーター視点から 藤村維子

エピローグ 青木英恵

百科繚覧—若手研究者が挑む学際フロンティア—Vol.2

東北大学学際科学フロンティア研究所『百科繚覧』編集委員会 編
A5判 160頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

序 山谷知行

プロローグ 若手研究者による異分野融合の試み 津村耕司

第1章 鳥類の遺伝子改変技術がもたらすもの—生殖細胞の不思議な世界の紹介とともに 齋藤大介

第2章 海が変われば天気が変わる? 杉本周作

第3章 宇宙をひも解く—われわれはモノをどのように見ているか? 村木久祥

第4章 レーザー光を用いてナノ分子における化学反応の動画を「撮る」 山崎 馨

第5章 どうしてヒトは国家を創造したのか—人類・社会の未来を過去から考える 有松 唯

第6章 ナノテクで神経細胞の回路を作る 山本英明
エピローグ 藤村維子



ISBN978-4-86163-329-4
C3300(2020年1月)



ISBN978-4-86163-335-5
C3000(2020年12月)

斎藤報恩会と東北帝国大学 財団設立の理念と学術研究助成の実際

吉葉恭行・米澤晋彦 著
A 5判 266頁 定価3,520円(本体3,200円+税)

本書は、八木秀次、本多光太郎ら数々の研究者による卓越した業績を支えるなど、大正末期から昭和戦前期の東北帝国大学の学術研究に多大な貢献を果たした斎藤報恩会について、その設立理念と学術研究助成の実際を貴重な一次史料の解説により丁寧に描き出したものである。



ISBN978-4-86163-357-7
C3000(2021年3月)

東日本大震災からのスタート 災害を考える51のアプローチ

東北大学災害科学国際研究所 編
B 5判 234頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

東日本大震災から10年の経過を契機とし、最新の知見と研究成果から得られる「災害」への取り組みを多角的に論じる。

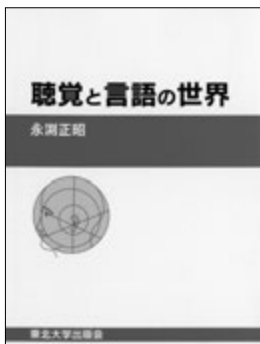


ISBN978-4-86163-372-0
C0000(2022年3月)

人文社会科学の未来へ 東北大学文学部の実践

東北大学文学部 編
A 5判 408頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

東北大学文学部で学べる26の学問分野について、担当教官自らがその奥深さや魅力を紹介する。人文社会科学の未来を担う人への1冊。



ISBN978-4-925085-01-4
C1011(1997年4月)

聴覚と言語の世界 [改訂版]

永渕正昭 著
A 5判 224頁 定価2,640円(本体2,400円+税)

音の性質をあげ、次に聴覚と言語の仕組みを説明し、正常な言語発達について解説がなされるとともに、言語障害としての難聴、失語、吃音(どもり)が、聴覚・言語中枢・発語という三つの関連性で解説されている。12歳頃までの聴覚が母語の発音の安定に必要なこと、聴覚で発語障害を治すことなど、多くの事例を中心に解説されている。

哲学・
心理
倫理・
宗教



ISBN978-4-925085-32-8
C3011(2001年1月)

全人的心理学 仏教理論に学ぶ

北村晴朗 著
A 5判 312頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

人間の個々の行動を、それぞれの脈絡を併せ考えることによって、全体的に解明することは、全体的心理学の課題である。しかし、そこには、人間の煩惱や善の心の働きによる迷いとか迷いを超脱する修業といった問題は含まれていない。本書はその萌芽にあたる部分を語るとともに、全人的心理学の一典型とも言える唯識心理学の主要問題を追究するものである。一般心理学の問題点や仏教心理学の提起した問題点を全人的心理学の立場から分析する。



ISBN978-4-925085-37-3
C1012(2001年3月)

共生のリテラシー—環境の哲学と倫理—

加藤尚武 編 A 5判 226頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

地球温暖化、オゾン層破壊、砂漠化、森林破壊、資源枯渇、人口爆発など「環境問題」は個々の領域の問題が複雑に絡み合ったまま20世紀から引き継がれた、全人類にとって存亡を賭けた文明的な問題である。遅まきながらも確かに、次世代エネルギーの開発など「環境にやさしい」技術の開発が進められてきてはいる。しかし、技術的な対処だけでは問題はけっして解決されることはない。むしろ文明のあり方そのものが根底から問われていることを忘れてはならない。本書は、環境問題を引き起こすに到った私たちの生き方に、哲学・倫理学の立場から「自然」「権利・平等という思想」「正義」をテーマにして反省と分析を加え「共生」という新たな絆となる思想を織りだそうとする試みである。編者による「環境倫理学」の総括とともに「21世紀に生きる人間の使命」が次世代へ向けて訴えられる。大学でのテキストとしても好適の書である。



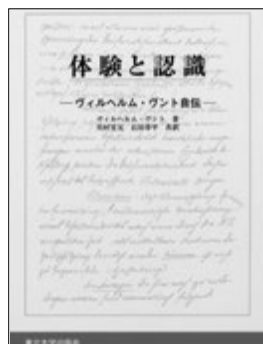
ISBN978-4-925085-43-4
C3011(2001年11月)

人間における悪 カントとシェリングをめぐる

諸岡道比古 著

A 5判 290頁 定価4,730円(本体4,300円+税)

人はなぜ悪をなすのか。悪とは何なのか。古来人間はおのれの生と「悪」との関わりに悩み傷つき、この問いを自問し続けてきた。ドイツ観念論の哲学者たちも、近代という時代においてこの問いに積極的な意味を見い出そうとしたのである。著者は、主に宗教学的関心に導かれて、カントとシェリングという二人の哲学者の思想およびその展開を丹念に跡づけ、ドイツ観念論における悪の根拠・根源、そしてその克服に関する諸問題に明晰な光を投げかける。それゆえ本書はまた現代の混沌とした時代状況にも大いなる示唆を与えるであろう。



ISBN978-4-925085-58-8
C3011(2002年9月)

体験と認識—ヴィルヘルム・ヴント自伝—

ヴィルヘルム・ヴント 著／川村宣元・石田幸平 共訳

A 5判 426頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

実験心理学の創始者、碩学ヴントの自伝。待望の邦訳なる。1830年代の幼少期から1910年代の第一次世界大戦後に至るまでの著者の「体験」とその「認識」が開陳される。広範な関心と旺盛な知的好奇心の持ち主であった著者ならではの多様な体験と深い認識が、読む者を19世紀後半の発展の息高いドイツ、ヨーロッパへと誘う。家庭や社会の人間模様、政治をめぐる時代状況に関する、そしてとくに学問の世界での生き方についての深い洞察は、今なお新鮮で貴重である。問いかける者につねに新たな示唆を与えてくれる書である。



ISBN978-4-86163-004-0
C1016(2005年3月)

信じることと知ること—新しいキリスト教概説—

原口尚彰 著 A 5判 198頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

本書は、大学のキリスト教学の授業でキリスト教を学ぶ人たちや、キリスト教に関心を持ち、体系的な知識を持ちたいと考えている一般の人々を対象にして、キリスト教の基本を解説することを目的にしている。キリスト教を学ぶことの意義は、キリスト教という一つの宗教を学ぶことを通して、様々な問いを立て、自分なりの答えを考へてみながら、神と世界と人間についての認識を深めることにある。本書の意義はキリスト教に関する完成した解答を与えるよりも、様々な問いや答えの可能性に目を向け共に思索することへと読者を招くことにある。



ISBN978-4-86163-017-0
C3014(2006年2月)

放牧と敷き草刈り

—Yajurveda-Samhita 冒頭の mantra 集成とその brāhmaṇa の研究—

西村直子 著 B5判 350頁箱入 定価5,940円(本体5,400円+税)

古代インドの文献「ヴェーダ」の中、祭式の実務を司る祭司用の祝詞(マントラ)とその意義付け(ブラーフマナ)を集めた文献「ヤジュルヴェーダ」(B.C.1000~700頃)の冒頭には、穀物祭前日の「放牧」と「敷き草刈り」用の祝詞が集められている。本書はそれらを神学的解釈部分とともに精密に解明した。ヴェーダ文献学、インド・イラン学、印欧語比較言語学の150年以上に亘る蓄積が祝詞の理解から出発する研究を初めて可能にしたものであり、待望の本格的研究の第一歩を画す労作である。宗教学、思想史、言語研究など隣接分野にも信頼できる資料を提供する。

哲学・
心理学
宗教



ISBN978-4-86163-037-8
C3014(2006年11月)

近代日本の民衆キリスト教

—初期ホーリネスの宗教学的研究—

池上良正 著 A5判 292頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

中田重治を中心とするホーリネス運動は、明治末から昭和初期にかけて、聖霊の直接的な体験や、病気の癒し、差し迫ったキリストの再臨などを説くことによって、エリートではない庶民層にまで勢力を伸ばした。本書は「宗教学」の視点に立ち、従来の研究史の中で空白になっていた彼らの活動の実態を、当時の機関紙などの資料から丹念に描き出した、初めての本格的な研究書である。キリスト教研究の分野だけでなく、広く近代の宗教史や民衆運動、世界宗教の土着化の問題などに興味をもつ読者にも、大きな示唆を与える一書。



ISBN978-4-86163-059-0
C3010(2007年3月)

芸術の始まる時、尽きる時

栗原隆 編 A5判 480頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

必要な何かを作ることと作品を制作することとは同じか、芸術作品とは何か、どこから芸術作品と言えて、どこまでは芸術ではないのか。芸術作品に込められた意味をどう分析するのか、ジャンルとしての芸術はどのようにしていつ自立したのか、芸術を総括したり分析したりする営みは芸術をどのように超え出るのか、そうした芸術の存立機制について、ヘーゲルの「芸術終焉論」を射程に収めながら、哲学、美学、美術史、文学、表象文化論、歴史学などの視座から、多角的に分析する試み。素材を超えたところに芸術の美が生まれることを解明した。



ISBN978-4-86163-066-8
C3010(2008年2月)

ハイデガーにおける循環と転回

—他なるものの声—

後藤嘉也 著 A 5判 366頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

20世紀哲学の最高峰とも言うべきハイデガーの思考の歩みに循環と転回という視点から接近し、他の哲学者たちとも対話しつつ、その歩みから他なるものの声への呼応を浮き彫りにした、長年にわたる著者の哲学研究の結晶。ハイデガー哲学をあくまでも可能性として受け取る本書がハイデガーの循環の存在論と転回の思考から引き出す他なるものの声への呼応とは、隠されたありさまでしばし存在するもの（他人でも、自己でも、人間以外のものでもありうる）による、「ありのままのものであらしめよ」というひそかな呼びかけへの、つねにすでに立ち遅れた応答である。



ISBN978-4-86163-167-2
C3010(2011年4月)

共感と感応—人間学の新たな地平—

栗原隆 編 A 5判 382頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

私たち人間を、知性を具え、言葉を操る理性的な生き物として捉える見方は、人間という存在のどれだけの内容を照射するものであろうか？「共感する心」「感応する身体」「共鳴する空間、融合する地平」「表現学への回廊」の4部構成で、哲学・実験心理学・表象文化論・文学・美術史・宗教美術史・社会学・倫理学などの研究者による14の論考を収録。

人間の感情の美しい沃野を求めて、私たちの心情に組み込まれている「共感」と「感応」の水脈を掘り起こしながら、「哲学の人間学」を探索する。人文学の魅力が凝縮された一冊。



ISBN978-4-86163-231-0
C3010(2013年12月)

成蹊大学アジア太平洋研究センター叢書

カントからヘルダーリンへ

—ドイツ近代思想の輝きと翳り

瀬戸一夫 著 A 5判 376頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

カントは哲学にコペルニクス革命をもたらした。従来の研究は、そのように評価しつつも、カントの哲学革命を整合的に解釈できていない。しかし、今日まで見逃されてきたコペルニクスの奇抜な着想を正確に理解すると、難解さで有名なカントの「超越論的演繹」と「原則論」が、独自の理論的設定で見事に成功していたという真相に気づかされる。しかも、その絶大なる成果は、フィヒテによって継承され、拡大・深化されたにもかかわらず、ロマン主義の先駆者とされるヘルダーリンには継承されず、むしろ忘却されていった。本書は、こうした思想史の実像を「ドイツ近代思想の輝きと翳り」として描き出している。



ISBN978-4-86163-232-7
C3010(2013年12月)

細谷貞雄 ニーチェ特殊講義

杉田泰一・輪田稔 編

A 5判 396頁 定価3,300円(3,000円+税)

本書は、細谷貞雄先生が昭和39年から3年間にわたって東北大学で講義された「ニーチェ研究」を、先生の遺された講義ノートに基づいて再現したものである。本講義で先生は、ニーチェの精神の鼓動を、いわば聴診器を当てるようにして丹念にききとり、ニーチェの精神の核心にあるものを探りあてる。そしてニーチェがニーチェになっていく様子を浮き彫りにしていく。そこに、「実存の思想」とよばれるようなニーチェの思想の地平がひらかれてくる。ニーチェを真に理解しようとする人たちのための書である。

哲学・心
教理



ISBN978-4-86163-246-4
C3010(2014年4月)

感性学 触れ合う心・感じる身体

栗原隆 編 A 5判 326頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

知の根底を支える感性の働きを、文学、社会学、実験心理学、言語学、哲学、表象文化論など多様な研究領域から思考する論集。「心なき時代」にあっても、心温まる、心あふれる生き方をするための「想像力」と「身体」の処し方を示す14の論考から、「感性の復権」を目指す。



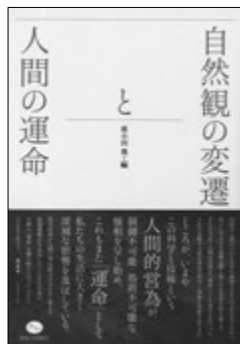
ISBN978-4-86163-260-0
C3010(2015年3月)

生の倫理と世界の論理

座小田豊・栗原隆 編

A 5判 362頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

「共感」と「感覚」を手がかりに、「生」の実相と「世界」の成り立ちを、テキストという豊饒の沃野のなかに読み解こうとする共同研究の集大成。アリストテレスの共通感覚論からカントの美的意識論へ、ジョルダン・ブルーノの一者論からヘーゲルの生の弁証法へ、モリヌー問題から認知科学へ、神の死から「現在という精神の真昼」へ、思想史を貫く理路が縦横自在に織り成されることによって、まさしく絢爛たる思想史のタペストリーを本書は供覧している。



ISBN978-4-86163-261-7
C3010(2015年11月)

自然観の変遷と人間の運命

座小田豊 編 A 5判 304頁 定価3,080円 (本体2,800円+税)

自然は人間のいのちを育み涵養するものであるはずながら、時として人々を悲嘆の淵に追いやる災害を引き起こす。それを含めて人間は自然を「運命」として受け止めつつも、それを克服する術を求めて科学と技術を発展させてきた。ところが、いまやこの科学と技術という人間の営為が、制御不可能・処置不可能な様相を呈し始め、これもまた「運命」として私たちの生活に大きく深刻な影響を及ぼしている。科学技術が人間の対応能力をはるかに超える核廃棄物を生み出したことそれ自身が、人類の「運命」の鍵を握るに至ったのだと言えるであろう。「まえがき」より)

哲学・倫理学を中心に、自然と人間とのかかわりの根本を問う 11本の論考集。

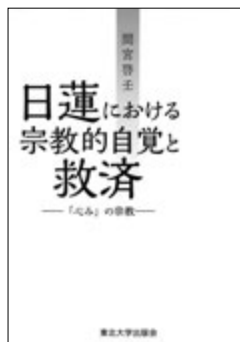


ISBN978-4-86163-273-0
C3010(2016年12月)

トマス・アクィナスにおける神の似像論

三谷鳩子 著 A 5判 226頁 定価3,080円 (本体2,800円+税)

『創世記』では人間が「神の似像」として造られたと言う。またアウグスティヌスは、人間精神の中の「記憶・知解・意志」が神の三位一体構造を形成し、それが「神の似像」であると述べている。しかしトマスは、アリストテレスの靈魂論をもってそれらを分析し、その中から「記憶」を削除した。さらにトマスは、人間が「言葉と愛」を発することが三位一体の神の「言と愛の発出」を写し出す「似像」として動的に捉えた。人間は「神の似像」として造られ、神の恩寵を得てそれを完成させ、最終的には全き「似像」として神に戻って行く存在である、と筆者は考えた。



ISBN978-4-86163-277-8
C3015(2017年11月)

日蓮における宗教的自覚と救済「心み」の宗教

間宮啓壬 著 A 5判 536頁 定価7,700円 (本体7,000円+税)

「仏法をこころみる」。日蓮自身の言葉です。仏教經典に込められた「仏の御心」、つまり釈尊の真意を探り出し、体得していこうとする。そうした理論的・実践的「こころみ=心み」の中で、日蓮はついに、一介の凡夫・愚者なればこそ、

「仏の御心」を実現していく「仏の使い(如来使)」たり得ることを見出し、独自の仕方でも実践するに至りました。本書は、日蓮のこうした歩みと、それに伴って生み出された救済論を、日蓮自身に能う限り寄り添おうとする独自の視点から、伝統的教学や思想史学とは異なった方法により描き出そうとするものです。



ISBN978-4-86163-319-5
C3015(2019年1月)

道元『正法眼蔵』現成公案 略解

早川祥賢 著 A5判 78頁 定価2,640円(本体2,400円+税)

『正法眼蔵』は古来難解をもって知られている。そのあまりの難解さのため、従来の注釈の多くは「道元の言葉はそもそも論理的に理解できるものではない」という暗黙の前提に立ち、テキストの各段落をばらばらに切り離してそれぞれの段落に恣意的な解釈を行ってきた。こうした従来の解釈には道元のテキストの中に自分自身の「宗教体験」を安易に読み込んでしまっているものも多いが、言うまでもなく彼らの「体験」が道元のものと同じである保証はどこにもない。本書は『正法眼蔵』冒頭の「現成公案」巻全体をひとつの一貫したテキストととらえ、テキストの論理的構造に基づいて道元の意図を明らかにする。

哲学・
宗教学

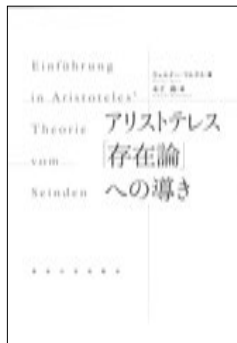


ISBN978-4-86163-337-9
C3010(2020年9月)

現象学入門 歴史的観点から

セッポ・サ ज्याマ / マッティ・カンピネン 著 / 木下喬 訳
A5判 194頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

本書はフッサールの現象学の基本概念である指向性に焦点を当てた入門書である。その特徴は何よりも、この概念の歴史的背景を、アリストテレスに遡り、中世哲学を経てイギリス経験論の哲学などを渉猟して幅広く解明している点にある。また、19世紀末からのブレンターノ、フレーゲとフッサールの考えが、「内容理論」と「対象理論」の対比を軸にわかりやすく述べられる。さらに、第二部において、ノエマ、射映、地平を中心としたフッサールの考えが、「内容理論」との関連で、豊富な例とともにわかりやすく説明されており、こうした点でも現象学への格好の「歴史的」入門書たりえていると言えるだろう。



ISBN978-4-86163-336-2
C3010(2020年12月)

アリストテレス「存在論」への導き

ウェルナー・マルクス 著 / 木下喬 訳
A5判 114頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

本書で試みられているのは、ただ一つのテーマ、すなわち、アリストテレス哲学における〈あるというかぎりでのあるもの〉(on hei on)の学問へと「導くこと」である。すなわち、いわゆる「存在論」と言われてきた、ヘーゲルに至るまでの西洋の伝統的な哲学的思索を決定的に規定してきた学問とは何であったのかを、アリストテレスの『形而上学』に基づいて明らかにし、まさにその哲学的基礎づけの作業へと至る明確な道筋を、私たちに指し示すことである。こうして、その学問が同時に「ウーシア(実体・本質)の学」と呼ばれ、さらに「神の学」とも呼ばれる根本的な理由が解き明かされる。それゆえ本書は、類書を抜いて、西洋哲学思想への最良の本格的な手引きとなるであろう。



ISBN978-4-86163-354-6
C3010(2021年3月)

質的知覚論の研究

世界に彩りを取り戻すための試論

佐藤透 著 A 5判 250頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

本書は、人が生きる質と彩りに満ちた世界と、科学的世界像とを融和させる試みである。近代以降の知覚論は、外界に物理的性質のみを帰属させ、色や音などの質的・感覚的性質を知覚者の脳内で発生するものとした。その結果、周囲世界が質と彩りに満ちていると信じる私たちの生は絵空事となり、また脳内での意識の発生という奇跡が要請されることになった。こうした問題点は一部の科学者によっても指摘されたが、哲学者たちが議論を重ねてきた難問であった。本書は、これまでの議論を振り返りつつ、独自の視点から問題解決を図るものである。



ISBN978-4-86163-367-6
C3010(2022年1月)

戦争の哲学 自由・理念・講和

横地徳広 著 A 5判 268頁 定価3,960円(本体3,600円+税)

「世界政策を推進する強力な中央は、公然の戦争あるいは不可視の戦争にパルチザンを動員し、とはいえ、ときに切り捨てる」(C・シュミット)。生まれ育った場所に根づくパルチザンではない、グローバル・パルチザンのことである。その彼ら彼女らは、シロアリのように侵入して国家や地域社会を蝕み、家庭をも蝕む。富や命、名を奪い、子までを奪う。……これは、ナチス親衛隊の「全体主義」から「テロとの戦い」へと連なる政治的系譜の一齣ではなかったか。本書はその系譜に抗して、戦争は正規兵がなすべき、ささやかでも講和を重ねるべきことを論じた。



ISBN978-4-925085-75-5
C3025(2003年12月)

山菜採りの社会誌 資源利用とテリトリー

池谷和信 著 A 5判 216頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

東北日本の日本海側の山間部は、最深積雪2メートルを超える世界でも有数の多雪地帯である。著者は、この多雪地帯で、生業として行われてきたゼンマイ採集の実態を、地元の山菜採りに弟子入りして採集活動に参加することで詳細に観察・記録した。本書の特徴は、緻密なフィールドワークによる山菜採りの生き生きとした描写と、自然資源の持続的な配分を可能とするテリトリー制の動態をポリティカルエコロジーの視点から解明した点にある。環境と人間との関係に関心のある地理学、人類学、社会学などの読者にとって必読の書である。

【日本地理学会賞(優秀賞)受賞図書】

伝記
歴史
地理



ISBN978-4-925085-95-3
C0023(2004年10月)

東北大学留学百周年

魯迅と仙台 [増補改訂版]

魯迅・東北大学留学百周年史編集委員会 編
B 5判 246頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

本書では、魯迅が学生周樹人として仙台医学専門学校に在籍していた当時、藤野巖九郎から受けた薫陶の数々が、この間新たに発掘された貴重な諸文書や、同窓生の証言記録、写真、新聞雑誌記事など、多様な第一次資料に基づいて詳細に跡付けられている。圧巻は、作品『藤野先生』で夙に著名な藤野による学生周樹人の解剖学ノートへの添削が翻刻され、一般読者に、作品『藤野先生』の背景をなす魯迅の藤野に対する畏敬の源泉を追体験することが可能となったことである。

仙台高等工業学校創立百周年記念誌

—青雲の遠きを仰ぎて—

SKK 同窓会仙台高等工業学校創立百周年記念誌編集委員会 編
A 4判 338頁 定価4,950円(本体4,500円+税)

仙台高等工業学校創立から閉校までの歴史を、創立百周年を記念して刊行。数多くの写真とともに、その歴史をたどる。



ISBN978-4-86163-027-9
C3021(2006年10月)



ISBN978-4-86163-084-2
C1020(2008年6月)

東北大学の学風を創った人々

新田義之 著 四六判 288頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

東北大学の前身である東北帝国大学には、他の大学では感じられない暖かいブネウマのようなものが、学内の隅々までを満たしていた。それは理科系文科系を問わず、教える側と学ぶ側の区別もなく、常に保たれつつ絶え間なく生み出されていく生命体のようなものであった。この「学風」とも「学統」とも呼ばれている生命体が、どのようにして形成され伝承されたのかを、澤柳政太郎、小川正孝、林鶴一、日下部一郎、石原純、太田正雄、河野与一・多麻夫妻、小宮豊隆を中心とする文人教授グループの面々などの人間像を辿りながら描きだしている。大学教育の本質を問い直す一書である。

伝記
歴史
地理



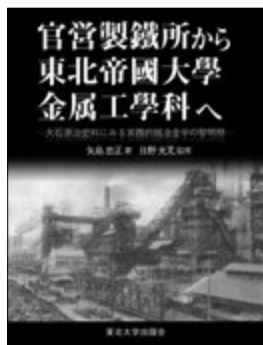
ISBN978-4-86163-124-5
C0020(2009年12月)

朝風にオールをとりて

—明治期の旧制第二高等学校尚志会端艇部—

谷澤直人 著 B 5 判 522頁 定価6,600円(本体6,000円+税)

本書は、学生ボート界の強豪として知られる東北大漕艇部のルーツを、旧制二高の校友会雑誌に探ったものである。明治年間に発行された94冊の「尚志会雑誌」からボートに関する記事を集め、読み易くするために仮名遣いを改めるなど手を加えた上で、テーマ別に編集している。一般市民をも熱狂させたボート大会を挙行し、天下の絶美と謳われる松島を遊漕し、北上川や阿武隈川を漕ぎ廻った当時の二高生の愉楽が伝わってくる。明治期の高校生活が活き活きと描き出されており、ボートのみならず旧制高校に関心がある方にも興味深いものであろう。



ISBN978-4-86163-130-6
C3020(2010年03月)

官営製鐵所から東北帝國大學金属工學科へ

—大石源治史料にみる実践的鐵冶金学の黎明期—

矢島忠正 著／日野光元 監修
B 5 判 518頁 定価4,950円(本体4,500円+税)

本書は東北大学初代金属工学科主任教授、鐵冶金学担当の大石源治先生(1887~1933)が遺された貴重な史料(書籍150冊余、製鐵所研究報告、論文等300点余)に基づき明治末期より昭和初期の日本における鉄鋼産業の変遷と創成期の金属工学科の一面を紹介している。

先生は東京帝国大学採鐵冶金学科で俄国一先生に師事、明治44年官営「(八幡)製鐵所」に入社、研究所で製鉄、製鋼を担当、第一次大戦中の英国留学後、大正13年以降製鐵所「技師」兼東北帝国大学金属工学科「主任教授」として鐵冶金学を担当された。

全10章より成り、俄先生が学ばれた「フライベルグ鉱山大学」、「レーデプール鐵冶金学」、大正初期の「製鐵所と研究報告」、「留学中の調査、研究」、「特殊鋼の進歩」、「東北大学における研究、講義」等、補遺調査を交えて記し、製鋼技術史としても貴重な資料である。



ISBN978-4-86163-157-3
C3025(2011年2月)

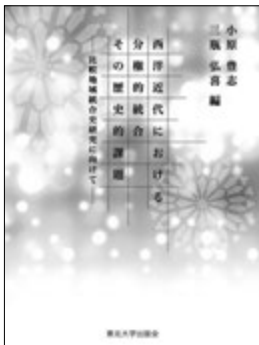
山の民の地域システム

—タンザニア農村の場所・世帯・共同性—

上田元 著 A 5判 448頁 定価3,960円(本体3,600円+税)

タンザニア北部、メル山地域の農民は、斜面に点在するさまざまな場所を結んでヒトとモノを行き来させてきた。本書は、詳細な臨地調査に基づくボトムアップの地域システム論によって、そうした場所のネットワークが人々の生活を支え、彼らの活動によって変化し、またそれぞれの場所で経済自由化への多様な対処戦略を生み出してきたことを明らかにする。そして、地域システムの実態を踏まえ、灌漑水・家畜・森林をめぐる世帯間の共同性にも留意することによって、個別の世帯や村に焦点を絞って貧困削減策を考えがちな農村開発論に対して新たな視点を提供する。

伝記
歴史
地理



ISBN978-4-86163-204-4
C3022(2013年3月)

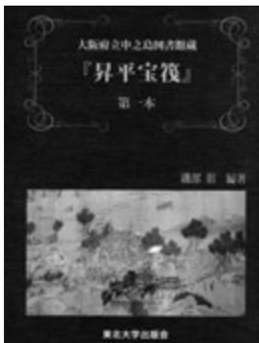
西洋近代における分権的統合

その歴史的課題—比較地域統合史研究に向けて

小原豊志・三瓶弘喜 編

A 5判 390頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

グローバリゼーションという名のもとに激化した国際的競争の結果、現代世界は貧富の差の拡大や地方の疲弊に象徴される格差社会への道を急速に突き進んでいる。こうした新自由主義的趨勢に対して歴史学はいかなる対抗軸を提示することができるだろうか。本書はヨーロッパにおける「地域主権」意識に着目し、ヨーロッパの地域統合の特質をアメリカ的地域統合および自由主義的世界市場統合を比較の座標軸として対置させながら歴史的に照射し、グローバリゼーションの論理とは異なるオルタナティブな地域形成・地域統合のあり方を展望する試みである。



ISBN978-4-86163-209-9
C3322(2013年3月)

大阪府立中之島図書館蔵

『昇平宝筏』

磯部彰 編著 「第一本」～「第十本」 A 4判

定価110,000円(本体100,000円+税)(10冊セット販売のみ)

「昇平宝筏」は、明代および清代の「西遊記」の戯曲・小説をもとに改編増補を加えた戯曲。大阪府立中之島図書館所蔵の貴重な“大阪本昇平宝筏”をカラー複写し、全十巻にまとめた。「第一本」に解題と英文要旨、「第二本」に梗概を収録し、中国文学、中国美術史、東アジア出版文化史等、多分野の研究に資するものとした。



ISBN978-4-86163-309-6
C0023(2018年4月)

オイゲン・ヘリゲル小伝

弓道による禪の追求

池沢幹彦 著 四六判 120頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

オイゲン・ヘリゲルは『弓と禪』の著者としてのみ広く知られている。本書ではドイツのハイデルベルクで哲学教師として天野貞祐や三木清などの日本人留学生を指導した様子や日本の禅仏教との出会いの経緯、来日して1920年代の日本哲学会と交流した様子、弓の修行をした時代の日本の弓道界の背景などについて述べてある。さらに、『弓と禪』が、欧米の人々に与えた初期の影響と、それが反響して日本に帰ってきた様子、また、鎌倉円覚寺に奉納してあるヘリゲルの弓は、彼の弓の修業が人並み外れた熱心さで行われたことを象徴するかのようになり、並外れた強弓であることが述べられている。



ISBN978-4-86163-315-7
C3022(2019年3月)

ヨーロッパワイン文化史

銘醸地フランスの歴史を中心に

野村啓介 著 A5判 242頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

「ワインという飲料を切り口に、ヨーロッパ文化の諸相を歴史的に考察し、またそのような作業をつうじて歴史的考察力を養うことが可能になるのではないか」(「はじめに」より)。この観点から、本書は古代から現代にいたる欧州史をワインを軸に駆けめぐり、歴史的背景をおさえながらヨーロッパ文化の真髄ともいえるワイン文化のダイナミックな展開に迫るユニークな歴史の書である。初学者の理解に資する工夫が凝らされつつも、最新の研究成果に裏づけられた解説も要所に散りばめられる。ワイン愛好家のみならず、欧州史学徒にとっても必読の書である。



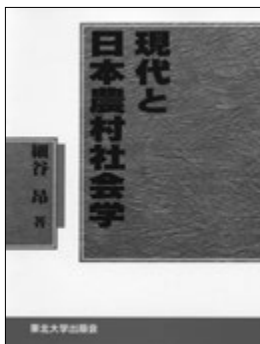
ISBN978-4-86163-377-5
C3021(2022年3月)

学都仙台の近代 高等教育機関とその建築

野村俊一・加藤諭・菅野智則 編

A5判 128頁 定価990円(本体900円+税)

仙台市青葉区の東北大学片平キャンパス・川内キャンパスは、近代から現代まで様々な土地利用がなされてきた。管理主体や使用目的を変えながらも現在まで利用され続けている建造物の姿や、門戸開放の大学理念にもとづき地域社会と世界に開かれてきた場としての価値は、「学都」と呼ばれ親しまれる仙台の大きな礎の一つとなっている。豊富な文献資料と実物資料をもとに、文化財や学術資料のあり方にも触れながら、両キャンパスを主とする営みの記憶をたどり将来を考える視座を提供する。



ISBN978-4-925085-07-6
C3036(1998年2月)

現代と日本農村社会学

樋谷昂 著 A 5判 536頁 定価5,500円(本体5,000円+税)

日本農村社会学は、日本の社会と文化の根底にひそむものを探りながら、その変化の相のなかから、そのときどきの「現代」を映しだしてきた。第一部では、鈴木榮太郎、有賀喜左右衛門ら昭和前期の巨匠から戦後期の福武直らにいたる学説史を追いながら、第二部では1960年代から現時点にいたる筆者自身の実証研究の成果を紹介しながら「現代」の課題を照射する。

そして今、日本の永い歴史を生きぬいてきた「家」と「村」のとらえなおしの必要性を説く。



ISBN978-4-925085-33-5
C1036(2000年11月)

「家族」と「個人」の相克—平等再考—

樋口晟子 著 A 5判 300頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

この本の主題は、家族との関わりの中で男女の平等とは何かを問うことにある。女性は、家庭では、主婦と母親の二つの役割をもち、外で働く場合には一人三役の役割を担うこととなる。家庭内の女性の仕事は、外で富を生み出す生産活動に対する私的な奉仕活動となり、一段と低い位置に位置づけられるに至った。これに対し、様々な観点から主婦論争が展開されているが、それらに対して著者は疑問を抱く。性的役割分業、家事労働といった家族の中の男女の平等のありようを辿ったその先に生ずるのが個人の尊厳という問題である。全てが同じであることによる平等ではなく、個々人の尊厳を守ることに於いて平等であることが求められるなければならない、と著者は語る。ジェンダー問題に関心をもつ人々にとって必読の書。



ISBN978-4-925085-45-8
C3036(2002年1月)

都市機能の高度化と地域対応

八戸市の「開発」と「場所の個性」>

高橋英博・佐藤利明・今野裕昭・武笠俊一・佐藤直由・武田共治 著 A 5判 230頁 定価4,950円(本体4,500円+税)

本書は、青森県八戸市を事例の対象として、日本の地方中小都市が、自ら発展するための条件を見い出そうとするものである。八戸市における工業構造の高度化と都市機能の発展の関係や、八戸市が抱えてきた都市・地域問題が検討されると共に、そこでの地域特性・地域資源の果たす役割が「場所の個性」>に着目する観点から分析されている。地域開発や都市経済学の研究者ばかりでなく、地方の振興に携わる公務員、さらには地方に生きる地域住民にとっても必読の書である。



ISBN978-4-925085-89-2
C3036(2004年8月)

グローバル経済と東北の工業社会

—場所の個性・場所への意図・場所の思想—

高橋英博 著 A 5判 252頁 定価4,191円(本体3,810円+税)

地方中小都市のいわば戦後史問題と今後の行く末を、「場所の個性」「場所への意図」「場所の思想」という三つの「場所」概念から解き明かす。経済のグローバル化がすすむ東北地方の6つの工業都市を扱った詳細な事例研究。都市や地域にかかわる地理学や経済学、そして社会学を専攻する研究者や学生、また、地域振興の現場で活躍する行政や企業関係者の方々にお薦めの一冊。



ISBN978-4-86163-036-1
C3036(2006年11月)

G・H・ミードの社会理論

—再帰的な市民実践に向けて—

徳川直人 著 A 5判 412頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

種々の単純な話が流布する昨今、「声と耳」を豊かに保ち社会認識につきそう社会学を再構想することはできないか。古典と現在との間で「私」にできることは何か。本書は、ミード研究に内在してきた著者が、原典と史料をいっそう丹念に読むと同時に、シンボリック相互行為論と読書会の論理との接合をはかった研究書である。



ISBN978-4-86163-119-1
C1030(2009年3月)

女性百年

—教育・結婚・職業— いかにかきたか、いかに生きるか

「女性百年」刊行委員会 編

A 5判 176頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

国立大学の中で最も早く女子学生を受け入れた東北大学。その門戸開放の理念と歴史を振り返り、現在社会の中で女性が置かれている位置について考える。平成19年に開催された東北大学創立百周年記念国際シンポジウムでの、各界で活躍する女性6人の講演録と、女性の教育・結婚・職業をテーマとした4人の研究者の書き下ろし論文を収録。



ISBN978-4-86163-146-7
C3036(2010年3月)

東北大学グローバル COE プログラム
「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」
ジェンダー平等と多文化共生
複合差別を超えて

辻村みよ子・大沢真理 編
A 5 264頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

GCOE「多文化共生社会のジェンダー平等」研究プロジェクトの成果として、2009年8月開催の「国際セミナー2009」参加者や研究協力者の論文を中心に編集。本GCOEが追求する「ジェンダー平等」と「多文化共生」の視点を交錯させ、複合差別を超えるという観点から現代の諸課題に迫る意欲的な学際的共著。

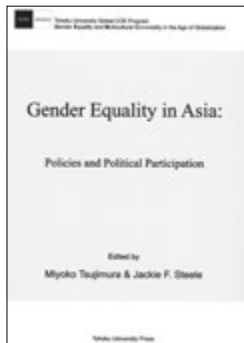


ISBN978-4-86163-135-1
C3036(2010年3月)

Tohoku University Global COE Program
Gender Equality and Multicultural Conviviality in the Age of Globalization
Gender Equality in Multicultural Societies:
Gender, Diversity, and Conviviality in the Age of Globalization

辻村みよ子・大沢真理 編
A 5 判変型 292頁 英文 定価3,300円(本体3,000円+税)

GCOE「多文化共生社会のジェンダー平等」プロジェクトに参加したオタワ大学、UCLA、東京大学等の内外の研究者14名の共著。2009年8月の「国際セミナー2009」参加者の論文を中心に、現代の多文化共生社会におけるジェンダー平等問題を法学・社会学など広範な視座から追求した学際的な共同研究の成果。



ISBN978-4-86163-161-0
C3036(2011年3月)

Tohoku University Global COE Program
Gender Equality and Multicultural Conviviality in the Age of Globalization
Gender Equality in Asia:
Policies and Political Participation

辻村みよ子・ジャッキー スティール 編
A 5 判変型 298頁 英文 定価4,400円(本体4,000円+税)

本書は、GCOE「アジアのジェンダー平等政策と課題」研究プロジェクトの成果として、また、国際的研究ネットワーク「アジアにおける女性と政策」と「現代インド地域研究」からの論文を中心に編集。ジェンダーと民主化、クオータ制、法改正、政策実行等の実態に迫る議論を展開しながら、民主主義的制度の中にあるアジアにおけるジェンダーの主流化へ向けた現代の課題を明らかにする。



ISBN978-4-86163-185-6
C3036(2012年3月)

東北大学グローバル COE プログラム
「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」
アジアにおけるジェンダー平等—政策と政治参画

辻村みよ子・スティール若希 編
A 5判 354頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

「アジアのジェンダー平等政策」研究プロジェクトの成果として、2009年・2010年の GCOE 秋セミナー、ドイツ・ヒルデスハイム大学主催シンポジウム、東京外国語大学現代インド地域研究拠点共催国際ワークショップでの報告をもとに編集。M.Tsujimura & J.F. Steele (eds.), Gender Equality in Asia, Politics and Political Participation, Tohoku University Press, 2011掲載論文のほか、新たな論文の翻訳も掲載。韓国、中国、インド、フィリピン等のジェンダー平等政策の現状と課題を紹介した貴重な共著である。

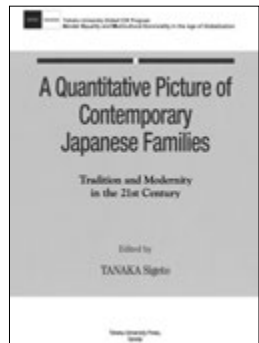


ISBN978-4-86163-179-5
C3039(2012年2月)

つながりの文化人類学

高谷紀夫・沼崎一郎 編
A 5判 340頁 定価5,500円(本体5,000円+税)

本書は、欧米人類学の親族理論や社会ネットワーク理論、日本における様々な「縁」の人類学的研究が提起する諸問題を受け止めつつ、漢族社会、沖縄、ルーマニアの親族、ラオスの出産、モロッコ移民や在日韓国女性のネットワーク、ナイジェリア・イボ社会の「伝統的」王やアラスカ先住民ユピックの「伝統的」ダンスなどをテーマとして、人々は、何に「つながり」を見出し、どのように「つながり」を生きているかをエミックに描くことで、「つながりの文化」の多様性と可変性の民族誌を提供し、「つながり」の比較文化研究を展望する。



ISBN978-4-86163-226-6
C3036(2013年3月)

A Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families: Tradition and Modernity in the 21st Century

田中重人 著
A 5判変型 英文 388頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

本書は、東北大学大学院法学研究科の GCOE プログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」における研究プロジェクト「少子高齢化社会の家族変動」の5年間にわたる研究成果をまとめたものである。第1部は日本社会における直系家族制とその変容、第2部は家事・育児・介護など世帯内の無償労働、第3部は雇用の女性化が家族に与えた影響、第4部は学歴や経済的地位の不平等と家族のかかわりについて論じる。

本書の中心は社会学的な計量研究であり、現代日本の家族に関する諸問題について実証的な根拠のある最新の知見を提供するものであるが、同時に、法制度や政策についての専門家を配して、制度的・政策研究的な面からそれらの知見を位置づけるための枠組を解説する。現代日本の家族に関する実証的な研究の英文書はすくなく、このテーマに興味を持つ海外の研究者がまず参照すべき文献となると同時に、国際的な場で研究発表をおこなう際の基本的なリファレンスとなることが期待できる。



ISBN978-4-86163-229-7
C3031(2013年6月)

被災地から考える日本の選挙

—情報技術活用の可能性を中心に—

河村和徳・湯浅壘道・高選圭 編著

A 5判 164頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

「目の前に投票所があるのに投票できない」「選挙期間になっても連呼の声が聞こえない」2011年秋に行われた被災地での統一地方選挙の風景は、被災者の県外避難なども手伝って、普段みる地方選挙の風景とは大きく異なるものになっていた。本書では、著しくマンパワーが失われた被災地で選挙が行えた理由を被災地でのインタビュー調査等から考察するとともに、私たちがより投票しやすい環境をつくる上で情報技術はどのように活用できるのか、ポータルマッチシステム開発や韓国の電子選挙システム構築の経験から考える。



ISBN978-4-86163-235-8
C3036(2014年2月)

新聞原典史料『アヴィーン』『レラツィオン』

—新聞発達史上の午前0時について—

大友展也 著 A 5判 208頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

今日、私達は何気なく手に取る新聞。毎朝、家庭で通勤電車の中で読まれる薄い紙の束。日常当たり前の風景として定着している人々と紙のつながり。だが、現代の新聞の基準をすべて満たしている新聞がいつ頃誕生したのかあまり知られていないようである。実はその誕生した年はほぼ特定できる。その時を新聞発達史上の“午前0時”という。現存する印刷された週刊新聞に記された年、1609年だと言われている。本書は、現代紙の卵たる『アヴィーン』紙と『レラツィオン』紙が発行された経緯や当時の新聞事情、また紙面の内容や言語上の形式について紹介する。



ISBN978-4-86163-290-7
C3031(2017年12月)

アリストテレスの時間論

篠澤和久 編 A 5判 348頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

「時間とは何か」——この問いは誕生から死までの〈時間〉を生きる人間を根本的な探究へといざなう。アリストテレスの『自然学』は時間論の原型のひとつを提示したといわれる。本書では、その自然学的時間論の豊かな可能性と射程をより広範な視点から見定めることを試みる。着目するのは、『アリストテレス全集』の論稿群で点描的に主題化される〈時制〉〈様相〉〈アスペクト〉〈物語〉といった時間的相貌をもつ諸概念である。これらの補完的連関の探索によって、アリストテレスが見出した人間学的な時間的存在論の地平を照射したい。



ISBN978-4-86163-311-9
C3039(2018年4月)

柳田國男と東北大学

鈴木岩弓・小林隆 編

A 5判 308頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

「日本民俗学」の生誕地は、仙台だった…。昭和12年、柳田國男は自身初の「日本民俗学」と題した講義を、東北帝国大学法文学部で行なった。この機縁を手がかりに、東北大学の人文学の研究者たちが柳田の思想を再考する。東北大学大学院文学研究科主催のシンポジウム「柳田國男と東北大学」での講演をもとに、哲学・宗教学・歴史学・文学・言語学・教育学・倫理学といった学問領域から逆照射する「柳田の学問」とは？

〈執筆者：野家啓一、鈴木岩弓、柳原敏昭、鈴木道男、佐倉由泰、小林隆、後藤斉、水原克敏、戸島貴代志 特別寄稿：柳田富美子〉



ISBN978-4-86163-332-4
C3036(2020年1月)

白いスタジアムと「生活の論理」

スポーツ化する社会への警鐘

松村和則・前田和司・石岡丈昇 編

A 5判 360頁 定価5,500円(本体5,000円+税)

「東京2020」の喧騒の中でジョギングや軽スポーツで汗を流す人々、国際舞台で活躍しようとひたすら練習に打ち込む競技者、輝くことなく地域へ戻り子供たちを育もうとしているかつてのオリンピックたちの存在も私たちは知っている。こうした人びとの日常的な営為とスポーツを手段として「力」の行使を実践しようとする手触り感のない「社会」との狭間でわたしたちは何を主張し、何を改変していけばいいのだろう。

視覚中心のメディアに翻弄される現代社会の中でスポーツを語る時、社会学的「生活論」とその「実践」論が一つの回答を引き出してくれた。



ISBN978-4-925085-54-0
C3032(2002年8月)

血痕鑑定と刑事裁判

東北三大再審無罪事件の誤判原因

田中輝和 著 A 5判 252頁 定価2,090円(本体1,900円+税)

血痕鑑定、体液鑑定は、東北の三大再審無罪事件(弘前、青森、松山の各事件)に共通して問題となる誤判原因である。しかし、それらがいかなる意味で誤判原因か(血痕ねつ造か、誤鑑定かなど)は、国賠訴訟を経ても必ずしも解明されていない。この問題は刑事訴訟法学と法医学の交錯する領域にあるため、従来本格的な研究がなされてこなかった。本書は法学の側からはじめてこの問題に正面から取り組み、血痕鑑定などと捜査機関の嘱託鑑定書の問題性を深く掘り下げ、捜査機関の嘱託血痕鑑定などの証拠能力判断および証明力評価の注意則案を提言する。およそ科学的証拠の取り扱いに際して基礎になる研究である裁判員制度が行われている今、一般市民にも参照の書。



ISBN978-4-925085-77-9
C1033(2003年12月)

我が航跡 国際経済論探究の旅

木下悦二 著 四六判 246頁 定価1,870円(本体1,700円+税)

戦後日本の国際経済学研究をリードしてきた著者の学問的自伝。60年余の研究生活の時々当面した課題とは何であったか、そしてそれにどう取り組み、理論をまた現状分析を組み立ててきたのかを、自ら体系的に語る。

国際価値論(貿易論)、国際通貨論の理論的・体系的な展開、日本の貿易、戦後世界経済、中国経済に関する独自の理論化と歴史を見据えた根底的な性格付けを特徴としている。

これらの理論的、実証的分野に関心をもつ人々に今日なお貴重な示唆を与える。

豊
津
巖



ISBN978-4-925085-80-9
C3033(2004年4月)

『資本論』第Ⅱ部の成立と新メガ

エンゲルス編集原稿(1884-1885年・未公表)を中心に

早坂啓造 著 A 5判 336頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

『マルクス・エンゲルス全集(MEGA)』の編纂はいま、第Ⅱ部門『『資本論』および準備労作』全15巻24分冊の刊行が最終段階にある。本書は、『資本論』第Ⅱ部のエンゲルス手書き稿(MEGA2 II/12所収)の刊行を担当する日本人グループに属する著者による、作業の最前線から中間報告と問題提起である。編集の諸段階の確定、編集協力者アイゼンガルテンの塑像の掘り起こし、二重のページづけの解明、予想を遥か超えるエンゲルスの書き込み・訂正・削除・組み替えの一覧化等々、全行程に新たな光が当てられ、「マルクス-エンゲルス問題」にも言及する。



ISBN978-4-86163-032-3
C3032(2006年10月)

明治期民事裁判の近代化

林屋礼二 著 A 5判 476頁 定価5,500円(本体5,000円+税)

明治以来の民事事件の判決書は、最近、廃棄寸前で無事保存されることになったので、本書は、これまで裁判所の倉庫に眠っていた貴重な判決原本などを使用して、明治期の日本の民事裁判がフランス法やドイツ法の影響を受けつつどのようにして近代化してきたかを実証的に研究している。明治期の社会で起こった興味ある数々の事件の裁判を取り上げているが、文語調の判決文もすべて現代語訳し、判決などの資料もカラーの図版で紹介している。また、当時の裁判統計を利用するとともに裁判原理もわかりやすく解説しているので、法律の専門以外の人にも理解しやすい内容となっている。

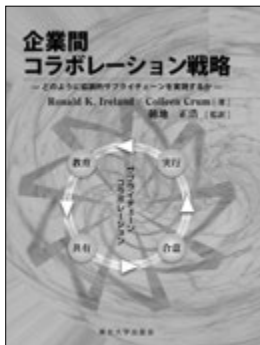


ISBN978-4-86163-051-4
C3033(2007年5月)

日本における地域間計量モデル分析の系譜 交通投資の社会経済効果測定のために

佐々木公明・国久荘太郎 著
A 5判 240頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

1国あるいは1地域を対象とした計量モデルの場合とは異なり、空間を考慮した計量モデルの場合は未開拓の分野が多い。輸送量、輸送人員、輸送距離、輸送手段などに関する交通活動は通常のマクロ計量モデルでは扱われることがない。特に、経済モデルによって決定される“価値額”と交通モデルによって決定される“輸送量”を統合する部門は空間的計量モデルの根幹をなす。しかし、現実には“経済”と“交通”のデータは互いに独立に収集・加工されているので2つの部門の統合には困難が伴う。本書はその困難に直面してきた著者達の30数年に渡る試行錯誤の系譜である。



ISBN978-4-86163-098-9
C3034(2008年8月)

企業間コラボレーション戦略

—どのように協調的サプライチェーンを実現するか—

Ronald K. Ireland/Colleen Crum 著/樋地正浩 監訳
A 5判 252頁 定価2,860円(本体2,600円+税)

サプライチェーン・コラボレーションという企業間協業のテーマは欧米の製販業界の競争力確保の重要な手段と認識され、その導入が重要な課題となっている。本書は、このサプライチェーン・コラボレーションへの正しい理解と完成度の高い導入プロセスを紹介することにより、このような社会の要請に経営、ITの両面から応えている。著者のロン・アイルランドは、ウォールマート社のシステム部門を統括し、サプライチェーン・コラボレーションの導入をシステム面で実現してきた当事者であり、経験に裏打ちされた豊富な知識を持っている。また、本書の取り組みにより SAPICS (南アフリカ生産在庫管理学会) から最も優れたイノベーションに与えられる“トヨタ賞”を授与されているこの分野の先駆者である。

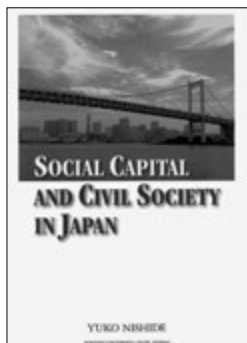


ISBN978-4-86163-091-0
C3032(2008年12月)

ドイツ法理論との対話

青井秀夫・陶久利彦 編
A 5判 488頁 定価5,500円(本体5,000円+税)

現代法思想はどこからきてどこへいくのか。アレクシーはじめ第一線の日独米法理学者が共同で、危機に立つ法・法学の根拠を問い直し、今後の針路を照らす。混迷のさなかで定点を模索する現代人にとって不可欠の羅針盤。ドイツ近世以来の法・法律家のあり方を歴史的に回顧し、自由法学・ラートブルフ・ケルゼン・法律学的解釈学・カウフマン・ルーマンなど、前世紀以降の代表的潮流を批判的に総括した上で、人間の尊厳・人権・寛容・リスク社会など、法哲学の最重要テーマについて、世界の学界をリードするドイツ法理論との真摯な対話を繰り返す。



ISBN978-4-86163-105-4
C3033(2009年2月)

SOCIAL CAPITAL AND CIVIL SOCIETY IN JAPAN

西出優子 著
A 5判変型 210頁 英文 定価3,740円(本体3,400円+税)

人と人とのつながりをさす「ソーシャル・キャピタル」と、自発的に地域の問題解決や社会的価値の創出に取り組む「市民社会」とは、どのような関係にあるのか。本書は、日本におけるソーシャル・キャピタルの概念や動向を市民社会の様々な視点から論じている。また、政策と実践において、ソーシャル・キャピタルを創出し活用すべく提言が行われている。ソーシャル・キャピタルという視点で日本社会を見つめ直し、人と人や地域がつながる力を再生させ、市民社会を成熟させるための示唆をえられる、貴重な一冊である。

【第8回「日本NPO学会優秀賞」受賞図書】



ISBN978-4-86163-122-1
C3033(2009年7月)

産地組織のマネジメント

ー「コミュニティ」と「リーダー」が創り出す新たな地域農業ー

大谷尚之 著 A 5判 172頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

「博多万能ねぎ」が全国的に知られる小ねぎ。元々の生産地は西日本であったが、20年ほど前に宮城県にも産地が生まれた。本書では、宮城県の小ねぎ産地を主たるフィールドとして、農業者の組織形成や協働といった視点から、地域づくりについて考える。何ひとつノウハウを持たず、ゼロから出発した農業者たちはいかにして数々の困難を乗り越えてきたのか。そして、いかにして新しい組織と産地を創り出してきたのか。これからの地域農業に1つの手がかりを与える書。



ISBN978-4-86163-151-1
C3030(2010年10月)

環境制約下におけるイノベーション —力を持ち始めた環境ニーズ—

古川柳蔵 著 A5判 184頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

環境問題解決に貢献したいという漠然とした生活者のニーズがイノベーションに影響を与えるほど力を持つようになった、というのが本書の主張です。人間活動の肥大化とともに、我々の活動に影響をおよぼす環境制約がいよいよ表面化してきました。もはや、環境負荷を直接与えている生産者と生活者に対してだけでなく、イノベーション・プロセスに対しても影響を与えています。環境制約下において、どのようなプロセスで環境負荷を低減するイノベーションが起こり、そのプロセスがどのように変化し始めているのでしょうか。国内外のエネルギー多消費機器とリサイクル関連技術のイノベーション事例を分析し、環境イノベーションの促進策を検討します。



ISBN978-4-86163-152-8
C3033(2010年11月)

アダム・スミスの資本主義の精神から —理論経済学徒の思い—

芳賀半次郎 著 四六判 224頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

アダム・スミスが用いた「self-interest = 利己心」という言葉の真意は、エゴイストを思わせるものではなく、「自己愛」と訳されるべきものである・・・。スミスの思想から現代の市場社会を見た「第一章 いまの「市場競争主義」はほんとうのものだろうか」をはじめ、映画「独裁者」の一場面を題材に平和を考える「第二章 チャップリンの平和思想と日本国憲法」、戦争と国家像を思索する「第三章 平和への願いと命の尊厳」、桑島治三郎氏へのオマージュを込めた「第四章 大学における障がい者問題」の全4編を収録。著者ならではの視点・論点から世情と人心を評するエッセイ集。



ISBN978-4-86163-202-0
C3033(2013年11月)

現代農政の財政分析 —財政調整からみた日本とドイツ—

小嶋大造 著 A5判 272頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

農業政策の関係経費は、しばしばときの政治の手段として用いられてきた。しかし、それは、農業政策の目指す方向と一致し、現実の農業問題に対処するものであったか。本書は、農業政策の政策理念に照らして、政策手段の一つである農業財政の果たしてきた役割が適切であったかどうかを明らかにする。また、EUと連動するドイツの農業政策との比較を通して、日本の農業財政への教訓を引き出す。農林水産省や在ドイツ大使館での勤務経験をもつ若手財務官僚が、農政学と財政学の両者を視野に入れつつ、現代の農業財政をみる座標軸を提示する労作。豊富な図表も掲載。

【2014年度日本農業経済学会奨励賞(日本農業経済学会)受賞】
【第14回日本地方財政学会佐藤賞(日本地方財政学会)受賞】

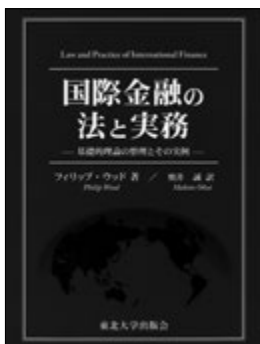


ISBN978-4-86163-245-7
C3032(2014年3月)

国防保安法の歴史的考察と 特定秘密保護法の現代的意義

小田中聰樹 著 四六判 472頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

1941年に制定された国防保安法と改正治安維持法は、国家による国民の抑圧を可能にし、やがて我が国を戦禍へと導いた。同じように2013年制定の特定秘密保護法は、「憲法改正」への動きと相俟って再び国家による国民統制の危険を孕み、過去のあやまちの繰り返しにつながるものが懸念される法律である。本書は、国防保安法の歴史的教訓を踏まえ、かつての国家秘密法案の批判的検討を経ながら、特定秘密保護法がいかなる矛盾を抱え、その運用がいかに危険なものであるかを解明しようとするものである。刑事法や法制史の研究者のみならず、多くの市民を対象とし、「国家と秘密」「秘密と戦争」の歴史的・現実的な深い関連を明らかにして、我が国の危機に警鐘を鳴らすことを目的としている。



ISBN978-4-86163-237-2
C3033(2014年12月)

国際金融の法と実務

—基礎的理論の整理とその実例—

フィリップ・ウッド 著 / 奥井誠 訳
B5判 638頁 定価6,600円(本体6,000円+税)

「国際金融は、エキサイティングでロマンティックなトピックである」。担保法制と公示制度、資本市場、規制法、決済メカニズム、デリバティブ、証券化、国際私法など、多種多様な国際金融分野の法と実務の全体像を、詳細な解説と豊富な判例をとおして比較法の視点から描く。

オックスフォード、ケンブリッジ等、英国の名門大学でテキストとして使用される『Law and Practice of International Finance - University Edition』(Philip Wood/Sweet&Mavwell)の日本語訳。



ISBN978-4-86163-349-2
C3033(2021年2月)

農地政策と地域農業創生

参加型改革の原点を探る

工藤昭彦・角田毅 編著
A5判 334頁 定価4,290円(本体3,900円+税)

農業・農村の衰退が加速する中、競争力重視の選別的農地政策は転換を迫られている。本書では戦後過程における農地政策の限界を検証し、併せて国内外の事例分析を通して「農業の持続的発展」、「農地資源の維持管理」、「コミュニティの再生」を分権的・一体的に推進する取り組みを紹介した。ローカリズムを推進力として拡がりをもせる「暮らしの拠点づくり」、「社会の持続性確保」に徹底する取り組みである。その先駆けとなる「社会企業的農業経営体」の創設を動機づける制度的枠組として「農地資源共同信託組合」の設立を提案した。

養
津
葉



ISBN978-4-86163-348-5
C3032(2021年3月)

株式会社法の基礎理論 その体系的性質と任務

新山雄三 著 A5判 316頁 定価5,500円(本体5,000円+税)

本書は、株式会社法の所有権法としての体系的性質と、株主保護という法としての任務を理論的に究明しつつ、株式会社内部組織における監査役(会)制度を、私的自治の株式会社法の変容としての、“株主によるガバナンス”に必須不可欠の機関として位置づける。コーポレート・ガバナンスの意義と働きを解明しつつ、資本の論理と人間の論理との衝突の場でもある株式会社法における両者のあるべき調整の在り方を指し示す。



ISBN978-4-86163-379-9
C3030(2022年10月)

人口減少社会に対応したまちづくり法制 —東北大学公共政策大学院ワークショップの研究—

島田明夫 編著 B5判 278頁 定価6,380円(本体5,800円+税)

東北大学公共政策大学院では、修士1年に、指導教員と7、8名程度の院生とのグループ研究として1年間のワークショップを必修としている。本書は、2018年度及び2020年度に編著者と「人口減少社会に対応したまちづくり法制の研究」を行った院生たちがまとめた同報告書をベースとして、東北地方の人口減少都市の実地ヒアリング調査に基づいた政策を提言したものである。本書が、全国の公共政策大学院の院生たちのリサーチペーパーや本学のワークショップ報告書の作成、まちづくりに従事する自治体等職員の方々の参考になれば幸いである。



ISBN978-4-925085-46-5
C0037(2001年12月)

自分Ⅰ—私がわたしを創る—

水原克敏 著 A5判 288頁 定価1,100円(本体1,000円+税)

本書は、東北大学1年生を対象とした教養教育「自分ゼミ」(2001年4月～7月)の記録である。先輩等の話題提供と受講生の感想文や意見文から成っている。この「自分ゼミ」を通して、私たちは、自分とは、「私がわたしを創る」ことにあるという共通理解を持つことができた。私は「わたしであること」の基点を確認し、「わたし」の挫折や願いを深く受けとめ、そこから「新しいわたし」を創り出す、この営みが自分である。大事なことは、説教の受け売りではなく、自問自答によって学ぶことである。自分について悩んでいる青年たちにぜひ読んでほしい。



ISBN978-4-925085-66-3
C0037(2003年1月)

自分Ⅱ—わたしを拓く—

水原克敏 著 A5判 352頁 定価1,100円(本体1,000円+税)

本書は、東北大学1年生を対象とした教養教育「自分ゼミ」(2002年4月～7月)の記録である。ゼミと言っても、受講生は前10学部の240名に及び、上級生や他大学生も受講しており、かつ、学内外から話題提供者を入れて討論するなど、通常の授業とは違ったゼミである。本書は、その話題提供と討論を通じて、学生達がいかに自分を拓いていったのか、そして、どのように自分を再構築しようとしていたのか、その迷いの様が見えるように編集した。ぜひ多くの青年たちに読んでいただき、人生の糧にしてほしいと願っている。



ISBN978-4-925085-91-5
C0037(2004年7月)

自分Ⅲ—わたしから私たちへ—

水原克敏 監修 渡利夏子・八木美保子・渡邊紀子 編著
A5判 342頁 定価1,100円(本体1,000円+税)

本書は、東北大学1年生を対象とした全学教育「自分」ゼミ(2003年)の記録で、各回の話題提供者による自己形成史と、それに対する質疑応答、感想文、そしてレポートを中心として構成されている。なお、同授業は2003年度の東北大学総長教育賞を受賞している。本書を通して、話題提供者である大学生・大学院生・社会人の人生とそれに対する理解が分かるのはもちろんのこと、東北大学生の人生・学問・大学に対する見解や、学生生活を送る中で抱える数々の不安・批判等もうかがい知ることができる。



ISBN978-4-925085-74-8
C3037(2003年12月)

大学における授業の改善をめざして —教職科目「生活科教材研究」の実践—

岩崎哲郎・伏見陽児 著
四六判 262頁 定価2,090円(本体1,900円+税)

ここでいう授業の改善は、「このような教材をとり上げたら、学生たちはこんな反応、こんな感想を示したよ」という事実の報告をもとにして、授業改善の方策を探るものである。授業改善を実質的なものにするには、なによりもまず実践報告が豊富になされなくてはならない。豊富な事実が報告されてはじめて具体性のある議論ができる。そのような考えのもとに1992年以來およそ10年間にわたり、クラスサイズを50人程度にし、しかも2人教員制の授業を試みた大学における一教職科目「生活科教材研究」の実践報告である。



ISBN978-4-86163-002-6
C3037(2005年10月)

夢の行方 高校生の教育・職業アスピレーションの変容

片瀬一男 著 A5判 326頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

本書は、1986年度から99年度に仙台都市圏で4回にわたって行われた「高校生調査」のデータ分析をもとに、教育・職業アスピレーションの変容を跡づける。そして、「失われた10年」とされる90年代において若年労働市場が逼迫したために、彼らがかつてのように明確なアスピレーションを抱き、進路を決定しにくくなったこと、さらに「新自由主義教育」が高校生の自己決定能力を育成しないまま、進路選択を迫るという倒錯した教育政策をとってきたことを指摘し、「表出的教養主義」による「しなやかな自我」を形成するという学校の本来性の回復を求める。



ISBN978-4-86163-281-5
C0037(2017年3月)

学校を考えるとおもしろい!!

教養としての教育学-TAと共に創るアクティブ・ラーニングの大規模授業(増補改訂版)

水原克敏・足立佳菜・鈴木学 編著
A5判 360頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

黒板にも給食にも生徒会にもランドセルにも歴史があり意味があります。そして「学校」そのものも時代によって大きく変化してきています。本書では、時代ごとの教育課題と学校の変化の意味を写真やグラフなど豊富な資料を駆使して分かり易く解き明かします。それは学校にとどまらず私たち日本人のダイナミックな物語でもあることが分かります。また学生たちの「そぼくな疑問」や「感想」を満載していますが、それは単に疑問・感想にとどまらず、「学校」に対する解釈が、実は、一つではなく多様にありうることを教えてくれます。2006年に刊行された同名書籍の増補改訂版。



ISBN978-4-86163-057-6
C3037(2007年3月)

大学における初年次少人数教育と「学びの転換」 特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)東北大学シンポジウム

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5判 196頁 定価1,320円(本体1,200円+税)

平成18年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP)の採択を受け、東北大学が企画したシンポジウムの記録集。東北大学に加え北海道大学、名古屋大学、京都大学、長崎大学の基礎ゼミ、教養セミナー等の取組についてその成果と課題を展望する。さらに、東京大学、広島大学、神戸大学、大阪大学の取組も紹介し、わが国の主要国立大学で実践されている初年次少人数教育の現状と将来展望について「学びの転換」の視点から多角的に考察した初めての書。



ISBN978-4-86163-093-4
C3037(2008年3月)

大学における学生相談・ハラスメント相談・キャリア支援 学生相談体制・キャリア支援体制をどう整備・充実させるか

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5判 220頁 定価1,540円(本体1,400円+税)

学生相談、ハラスメント相談、キャリア支援の体制整備という全国の大学の重要課題へのモデルを示した書。学生の多様化、就業構造の変化、進行する大学改革の中で、学生相談やハラスメント相談、キャリア支援それぞれの体制を如何に整備・充実化していくか?本書は全国の大学にとって重要課題となっているこうしたテーマについて、東北大学の近年の取組の事例に、イリノイ大学、カリフォルニア大学アーバイン校の先進事例も加えて、議論と検討の素材を全国の大学関係者に提供している。



ISBN978-4-86163-095-8
C3037(2008年3月)

研究・教育のシナジーとFDの将来

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5判 170頁 定価1,100円(本体1,000円+税)

大学における教員の能力開発(ファカルティ・ディベロップメント:FD)が、大学・政府双方で重要視され、強化されている。しかし、個性的で研究志向の強い教員が集まる大学では、強制ではなく教員の主体的な関与がなければ、FDは実質的な機能を果たさない。東北大学、スタンフォード大学、京都大学、愛媛大学などの取り組みや、文部科学省からの提言を取り上げながら、FDを大学教員のキャリアや人生の形成にいかに対応させ、研究と教育との相乗効果をどのように生みだしていくのかという本質論に、徹底的な討論を通じて迫る。



ISBN978-4-86163-096-5
C3037(2008年3月)

大学における「学びの転換」とは何か

—特色ある大学教育支援プログラム (特色 GP) 東北大学シンポジウムII—

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5判 152頁 定価1,100円 (本体1,000円+税)

本書は、シンポジウム『大学における「学びの転換」とは何か』の成果を取りまとめたもので、『大学における初年次少人数教育と「学びの転換』(既刊)に続く第2弾。初年次教育を学士課程カリキュラムの中でどう位置づけ、カリキュラム全体としてどのように転換を図り、どのような知的発達を促すのか、という視点から、各学問領域での「学びの転換」の現状とその問題点を整理し、今後の展望を探る。わが国全体や世界の動向をも踏まえつつ活発な議論が展開される本書は、大学教育全体の今後の展望を考察し、教育改善を図る上で格好の一冊。



ISBN978-4-86163-100-9
C3037(2008年6月)

イギリス国民教育に関わる国家関与の構造

松井一麿 著 A 5判 316頁 定価3,850円 (本体3,500円+税)

近代先進国家は、いずれの国でも、遅かれ早かれ、国家が関与して公教育制度を構築し、国民教育の振興を図ってきた。その中で特徴的なのは、議会政治の最先進国といわれるイギリスが、国家関与の具体化に最も遅れたばかりか、その実態形態も議会主義本来の法律制定という方式ではなく、枢密院令という国王大権に基づいた勅令によって措置していった事実である。本書は、度重なる立法企画の挫折の背後に潜む経緯が、枢密院令に基づく国家関与に変転していく構造を明らかにする。

【日本図書館協会選定図書】



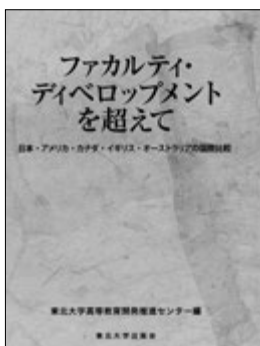
ISBN978-4-86163-116-0
C3037(2009年3月)

大学における「学びの転換」と言語・思考・表現

特色ある大学教育支援プログラム (特色GP) 東北大学国際シンポジウム

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5判 172頁 定価1,760円 (本体1,600円+税)

本書は、東北大学国際シンポジウム『「学びの転換」と言語・思考・表現』の成果をまとめたもので、大学初年次教育における「学びの転換」シリーズの第3弾。学生の言語力を高めるために、大学におけることばの教育はどのように行われ、そして、思考する力、書き表す力、議論する力へと、どうつなげていったらよいか。ことばの教育を通して、学問に対する意識転換を図るような授業とはどうあるべきか。日本、韓国、アメリカの教育の現状を比較しながら熱い議論が繰り広げられている本書は、これからの日本の初年次教育のあり方を考える上で大いに参考となる。



ISBN978-4-86163-117-7
C3037(2009年3月)

ファカルティ・ディベロップメントを超えて 日本・アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリアの国際比較

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5 判 180頁 定価1,760円(本体1,600円+税)

今やファカルティ・ディベロップメント (FD) という言葉を知らない大学教員はいない。しかし、FD という用語は北アメリカだけで使われ、今はなるべく使わないようにしていることを、あなたは知っていただろうか。FD は教員研修と呼ばれ、上から押し付けられるイメージがあるが、大学教員が自分の専門性を高める義務を持ち、それを保障するための権利として FD 活動があり、サバティカルも FD であることをあなたは知っていただろうか。本書は通俗的な FD 概念を乗り越えるための 1冊である。



ISBN978-4-86163-110-8
C3037(2009年4月)

仙台基督教教育院史からよむ 育兒院と学校

田澤薫 著 A 5 判 190頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

年齢期の子どもたちは、家庭と学校を居場所としながら育っていく。家庭は個々に応じて様々であり等しく与えられるものではないが、義務教育はどの子も等しく享受できるのだろうか。家庭に替わる施設で暮らす子どもたちは、生活よりもむしろ教育の面で不遇を託つ歴史を経験してきた。仙台基督教教育院史を紐解くと、施設が、独自には護れない学校教育を苦心して子どもたちに保障し、かつ更なる教育を生活の希望として積極的に取り込もうとした事実が驚かされる。施設資料を丹念に掘り起こし、関係者の聞き取りも手がかりとして施設における教育の営みに光をあてた本書は、子どもの生活にとって学校がもつ意味を鮮やかに浮かび上がらせている。



ISBN978-4-86163-144-3
C3037(2010年03月)

学生による授業評価の現在

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5 判 260頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

現在の日本において多くの大学で実施している学生による授業評価アンケート。この取り組みを真に教育の改善に結びつけるためには、何が必要でどのような活用方法が求められているのであろうか。本書には授業評価研究の専門家、米谷・大塚・井下 3氏による現状分析とそれを踏まえた提言、東北大学で行われた調査研究の成果、そして東北地域の各国立大学における多彩な取り組みの事例を掲載している。授業評価アンケートをめぐる現状と課題を確認しその展望を探るうえで、大学関係者必読といえる好個の一書。



ISBN978-4-86163-145-0
C3037(2010年3月)

大学における「学びの転換」と学士課程教育の将来

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5判 172頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

特色GPに採択された東北大学「基礎ゼミ」の総括シンポジウム報告とともに、東北大学での「学びの転換」取り組みの成果分析を中心に編集。大学教育関係学界の第一線で活躍する論者による「大学での学び」構築に関する貴重な論稿を掲載し、さらに「学士課程教育の構築」という視点から初年次教育、学士力、教養教育と専門教育との関わり等をめぐるシンポジウムの活発な議論もここに再現されている。「大学での学び」のあり方を再検討し、学士課程教育全体の構築を目指すうえで必読の一書。



ISBN978-4-86163-317-1
C3037(2018年8月)

新訂 学習指導要領は国民形成の設計書 その能力感と人間像の歴史の変遷

水原克敏・高田文字・遠藤宏美・八木美保子 編著
A 5判 344頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

第4次産業革命の到来など、時代が急転していっそう不確定で見通しのきかない時代に入りましたが、私たちは、未来に向けて、学校教育をどのように計画すべきでしょうか。これを明らかにするために、現在を相対化する歴史的方法は有効な方法であると考えます。本書では、明治以来2018年現在までの「教育課程の基準」を歴史的に総括することで、学校教育はいかにあるべきかを考察します。とりわけ、それぞれの時代に即して、その能力観と期待される人間像を浮き彫りにし、構成されたカリキュラムについて考察します。



ISBN978-4-86163-175-7
C3037(2011年12月)

History of National Curriculum Standards Reform in Japan: Blueprint of Japanese citizen character formation

水原克敏 著
A 5判変型 354頁 英文 定価6,930円(本体6,300円+税)

近代国家を建設した明治期から現在まで、私たちの日本は、どのような国民像を理想として教育してきたのか。学習指導要領の分析を通してそれを明らかにし、教育の未来に向けて歴史的に見通す力を提供する。

『学習指導要領は国民形成設計書』(2010年、東北大学出版会)の翻訳版です。明治以降の文部省が出版した英文文献を調査することで、教科名、法律名(条文)そして説明の原文を確定しました。ぜひ外国向けの論文作成や講演、あるいは留学生・院生への指導に使ってください。



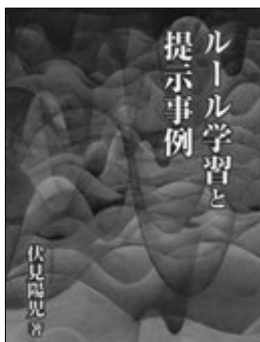
ISBN978-4-86163-180-1
C3037(2011年11月)

高度情報化時代の「学び」と教育

渡部信一 監修／東北大学大学院教育情報学研究所 編
A 5判 334頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

21世紀はじめの10年は、テクノロジーと人間の関係が急速に変化した時代だった。特に、デジタルテクノロジーが人間の「学び」や教育に与えた影響は、これまでの歴史にないほど大きなものだった。

本書は、東北大学大学院教育情報学研究所・教育部創設10周年の節目として企画・編集されたものである。多くの実践を基に「eラーニングの理論と実践」「テクノロジーを活用した大学講義の実践」「テクノロジーを活用した障害児者支援」などを理解しやすく解説する。次の10年に向けた新たな「テクノロジーと人間の関係」について、いま探求が始まろうとしている。



ISBN978-4-86163-224-2
C3037(2013年5月)

ルール学習と提示事例

伏見陽児 著 四六判 306頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

科学ルールを教えようとする際、学習者は当該ルールについて誤った知識を持ってしまっていることが多い。そのような事態では、どのような事例に即してルール教えるのかによって学習効果が大きく異なる。本書は、科学ルールを教える際に用いる提示事例の違い、事例の提示順序の違いが学習にどんな影響を及ぼすか、豊富な実験例と詳細な分析から、学習者の「誤り修正の構図」を追究したものである。単なる実験集録ではなく、その時々著者の「思い」や教育・研究生活も垣間みることができる本となっている。

教育



ISBN978-4-86163-251-8
C3037(2015年2月)

戦時下の帝国大学における研究体制の形成過程

—科学技術動員と大学院特別研究生制度 東北帝国大学を事例として

吉葉恭行 著 A 5判 364頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

太平洋戦争下の日本において、帝国大学の大学院学生はどのように位置づけられていたのか？ そして当時の大学院学生は、どんな学問分野を、何のために研究していたのか？

新制大学院制度の基礎となり、また現代の共同研究やビッグプロジェクト研究の嚆矢とも評される戦時科学技術動員体制での大学院特別研究生制度を総合的に検証。行政文書・個人文書の分析と、当事者に対する聞き取り調査を手がかりに、戦時下の大学院制度の全体像を大学史・科学史・科学技術政策史の切り口から明らかにする試み。



ISBN978-4-86163-289-1
C3037(2017年11月)

キャリア形成支援の方法論と実践

菅原良・松下慶太・木村拓也・渡部昌平・神崎秀嗣 編著
A 5判 342頁 定価3,630円(本体3,300円+税)

大学におけるキャリア教育は、いま、何を問われているのか。加加速度的に変化する社会背景の影響を受け、迅速かつ持続的な対応が急務となっている大学でのキャリア教育。現場を知る20名のスペシャリストたちが、多様な論点・視点からキャリア教育のいまを検証。

高等学校での指導と大学におけるキャリア教育の「接続」、大学でのキャリア教育と専門教育の「交流」、大学から社会への「移行」の3つをキーワードに、新しい時代に即応できる新たなキャリア教育のかたちを提言する。



ISBN978-4-86163-286-0
C3037(2018年2月)

韓国道徳科教育の研究

—教科原理とカリキュラム—

関根明伸 著 A 5判 606頁 定価7,700円(本体7,000円+税)

2015年3月27日、わが国の小・中学校の「道徳の時間」は教科化によって「特別の教科 道徳」＝道徳科へと昇格し、歴史的な再スタートが切られた。だが、隣国の韓国では教科化は既に1973年の時点で実現されたトピックであった。ともに戦前は修身科教育を経験し、戦後は米国経験主義教育の影響を強く受けた両国だが、なぜ韓国では1970年代に教科化されたのか。そして道徳科とは如何なる教科原理とカリキュラムを有する教科として登場したのか。解放から1970年代までの膨大かつ歴史的な一次資料(国語科、公民科、道徳科等のカリキュラムと国定教科書)の綿密な分析をもとに、新たな切り口で韓国道徳科教育の本質究明を試みた意欲作である。



ISBN978-4-86163-307-2
C3037(2018年3月)

グローバル社会における高度教養教育を求めて

羽田貴史 著 A 5判 368頁 定価4,180円(本体3,800円+税)

新たな教養教育の姿を描くためには、現在の大学教育パラダイム、すなわち、①教養と専門の二項対立観、②教授者及び知識中心主義の教育観、③教養/専門科目の前期・後期課程配置の大学カリキュラム、④狭い研究訓練を中心とする大学院教育、の4つを構造的に変化する必要がある。東北大学高度教養教育・学生支援機構に所属する研究者13名(歴史学・数学・体育学・教育学・高等教育論・比較教育学)と、学外の高等教育研究者6名(比較教育学・教育社会学・高等教育政策・高等教育論)の計19名による研究成果から、グローバル社会に求められる高度教養教育を問う。



ISBN978-4-86163-316-4
C3037(2019年2月)

多文化共生社会の構築と大学教育

高橋美能 著 A 5判 252頁 定価5,720円(本体5,200円+税)

本書は、グローバル化が進む日本社会の中で、多文化共生を促進する大学教育のあり方について実践的な知見を詳細かつ多角的に検証します。そして、事例分析を通じて、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まる多文化クラス内に、多文化共生を実現するために必要、且つ有効な学習環境、運営、学習テーマを提案します。



ISBN978-4-86163-350-8
C3037(2021年1月)

東日本大震災後の子ども支援 震災子ども支援室(“S-チル”)の10年

加藤道代・一條玲香 編著
A 5判 182頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

本書は、震災子ども支援室(“S-チル”)の2011年度から2020年度までの10年間の活動をまとめたものである。相談支援、学習支援、里親サロンなどの当事者支援事業、専門職や支援者に対する支援事業、そして調査・研究事業を取り上げ、事業概要を紹介し、成果と課題について検討している。個々の活動では、実施に至るまでのプロセス、具体的な運営方法を取り上げ、支援活動の組み立てについて記している。震災支援の長期的記録としてのみならず、今後の支援活動にお役立ていただきたい。



ISBN978-4-86163-365-2
C3037(2022年3月)

知的障害者とともに大学で学ぶ

東北大学オープンカレッジ「杜のまなびや」の取り組み

田中真理・川住隆一・野崎義和・横田晋務 編
A 5判 254頁 定価3,520円(本体3,200円+税)

知的障害者の生涯学習教育場として開催された公開講座をもとに、その準備や概要、構成員の学び合いの成果等を振り返る。



ISBN978-4-86163-163-4
C3037(2011年3月)

高等教育ライブラリ 1 教育・学習過程の検証と大学教育改革

東北大学高等教育開発推進センター 編
A 5判 212頁 定価1,870円(本体1,700円+税)

どのような教育がいかなる学習を惹起し、その成果へと結びつくのか。日本の大学では長らく等閑視されてきたこの問いは、18歳人口の減少やグローバル化という環境の変化の中で、近年鋭く問われるようになってきている。本書は、経験的なデータに基づいた研究の中から、この問題を考える上で手懸りとなり得る理論と実践を集約したものである。「教育関係共同利用拠点」に「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」として認定された東北大学高等教育開発推進センターが新たにまとめた「高等教育ライブラリ」待望の初巻。

高等教育ライブラリ 2

高大接続関係のパラダイム転換と再構築

東北大学高等教育開発推進センター 編 A 5判 218頁 定価1,870円(本体1,700円+税)
ISBN978-4-86163-164-1 C3037(2011年3月)

かつて高校と大学の教育は大学入試の一点で結ばれていたが、大学が大衆化した現在、高大接続は時間軸に沿って広がりを持つようになった。大学入試もかつての単なる選抜装置としての機能から、日本の教育を支える要の役割を担っている。高大接続関係が大きく転換しつつある現在、新たなパラダイムが胎動しつつある。一方、現場では限られた条件で最善を模索しなければならない。高大接続関係の再構築に向けて、今、教育に携わる当事者ができることは何か。本書は多様な実践事例とその検証を背景に新たな高大接続モデルを提示する試みである。

高等教育ライブラリ 3

東日本大震災と大学教育の使命

東北大学高等教育開発推進センター 編 A 5判 232頁 定価1,870円(本体1,700円+税)
ISBN978-4-86163-187-0 C3037(2012年3月)

東日本大震災は、科学技術のこれからのあり方、危機管理のあるべき姿、人間関係や地域社会の再構築など、将来目指すべき人間・社会・自然のかかわりをめぐる根本的な問いを私たちに投げかけた。大学はこうした事態を前に、どのような人材を養成すべきか。また、これからの大学教育は如何にあるべきであろうか。前半の高成田亨(メディア)、吉岡斉(科学技術史)、野家啓一(科学哲学)の3氏によるそれぞれの専門分野からの議論を受けて、後半では東北地域各大学の復興支援活動の現況と今後の人材育成にもたらす展望を掲載。大震災後の大学教育の将来展望を探る待望の書である。

高等教育ライブラリ 4

高等学校学習指導要領 vs 大学入試

東北大学高等教育開発推進センター 編 A 5判 218頁 定価1,870円 (本体1,700円+税)
ISBN978-4-86163-188-7 C3037(2012年3月)

高等教育を実質的に規定している要因とは何か。大学の入学基準はどのように担保されているのか。そして、学習指導要領、大学入試センター試験、個別試験の相互関係とは。大学全入時代と言われる現在、大学入試が激戦だった頃の常識はもはや通じない。学力試験は、教育を支える「要」なのか、それとも単なる「形式」に過ぎないのか。大学入試制度は慎重に改善すべきなのか、あるいは一気に変えるべきなのか。そして、大学と高校の“役割分担”は……。立場の異なる執筆者たちによる主張の交差から、日本の教育の近未来像を描く果敢な試み。

高等教育ライブラリ 5

植民地時代の文化と教育—朝鮮・台湾と日本—

東北大学高等教育開発推進センター 編 A 5判 194頁 定価1,870円 (本体1,700円+税)
ISBN978-4-86163-221-1 C3037(2013年3月)

本書は、韓国植民地化から100年にあたる2010年に、東北大学高等教育開発推進センターによって企画・実施された国際シンポジウム「植民地時代の文化と教育」等の成果をまとめた論集である。アジアにおける過去の歴史的経験をみつめ、新たな関係構築の基礎とすることを目指し、日本・韓国・台湾の8名の研究者が最新の成果を寄稿している。第I部では植民地時代の教育・演劇・文学をめぐる新たな側面を、第II部では当該時期の帝国大学の持っていた諸機能を多面的に論じる。教育史、大学史そして比較文化の視点からの学際的な取り組み。

高等教育
ライブラリ

高等教育ライブラリ 6

大学入試と高校現場—進学指導の教育的意義—

東北大学高等教育開発推進センター 編 A 5判 240頁 定価2,200円 (本体2,000円+税)
ISBN978-4-86163-222-8 C3037(2013年3月)

大学入学者選抜制度の改革が、その意図に反し結果的に「改悪」と受け止められてしまうのは何故なのか。その謎を解くカギを高校教育の現場に探す。多様な環境下にある現代の高校において、進学指導の「真の目的」は如何なるものなのか。そして大学入試はどのような機能を果たしているのか。大学・高校双方の視点から埋め込まれた文脈の掘り起こしを試み、その過程で見えてきた「受験は団体戦」ということばの意味を、人間形成への影響も視野に入れながら検討する。2012年5月18日開催の東北大学高等教育フォーラム「進路指導と受験生心理」をもとにしたレポートと考察。

高等教育ライブラリ 7

大学教員の能力—形成から開発へ—

東北大学高等教育開発推進センター 編 A 5判 210頁 定価2,200円 (本体2,000円+税)
ISBN978-4-86163-223-5 C3037(2013年3月)

高等教育の構造的変動のもとで、伝統的専門職である大学教員の地位も変動にさらされている。こうした変動の中で大学教員はいかにそのスキルとキャリアを進化・発展させているのか。教育と研究の二項対立的な大学教員観を超え、専門性開発の視点から大学教員の多面的な能力とその発達に注目する。最新の調査結果から得られたデータをもとに、日本の大学教員研究における新たな展開を指し示すとともに、各大学における教員の人的資源開発政策の策定といった実践的課題にも応えうる意欲的著作。

高等教育ライブラリ 8

「書く力」を伸ばす—高大接続における取組みと課題—

東北大学高等教育開発推進センター 編 A 5判 228頁 定価2,200円 (本体2,000円+税)
ISBN978-4-86163-243-3 C3037(2014年3月)

「書く力」とは何だろうか。それは高校教育や大学教育の中でどのように育てられているのか。育てられるべきなのか。高校の「国語」の時間では相当な時間数を「書くこと」に当てることになっているが、実現は難しい。むしろ、大学入試の小論文指導の中で「書く力」は鍛えられている。「読むこと」は「書くこと」の前提条件なのか。それとも両者はトレード・オフの関係なのか。大学入試で「書く力」はどこまで伸ばせるのか。変わりゆく大学教育で「書く力」の育成はどこまで可能なのか。「対話力」をキーワードに現実的に可能な解決策を探る。

高等教育ライブラリ 9

研究倫理の確立を目指して—国際動向と日本の課題—

東北大学高度教養教育・学生支援機構 編 A 5判 198頁 定価2,200円 (本体2,000円+税)
ISBN978-4-86163-259-4 C3037(2015年3月)

「研究における誠実性」はどう扱われるべきなのか？ 責任ある学術研究のために不可欠な、倫理の確立と不正の防止・対応策。問題の整理と現場の実情をふまえ、大学における研究教育の「信頼性」の維持を多角的に問う試み。

アメリカ・イギリス・ドイツ・中国・オーストラリアの事例を手がかりに、我が国の今後のかたちを模索する。

高等教育ライブラリ 10

高大接続改革にどう向き合うか

東北大学高度教養教育・学生支援機構 編 A 5判 254頁 定価2,200円(本体2,000円+税)
ISBN978-4-86163-269-3 C3037(2016年5月)

高等学校教育と大学入試の改革の中核で、何が起こってきたのか？ 高校教育、大学教育、そして大学入試を一体的にとらえて抜本的な改革を迫る「高大接続改革」のプランは、平成25年に突如現れ、中央教育審議会とその後継の会議の議論を巻き込みながら進んでいる。しかしながら、現在まで提案されている具体的方法論は、実現可能性を欠く非現実的な空論との評価が定着している。様々な課題を抱えた中で進む改革に高校と大学の現場からどのように取り組むべきなのか。高校、大学、そして大学入試にかかわる現場の識者の論考から、現在進行の問題を整理し対応の手がかりを提示する。

高等教育ライブラリ 11

責任ある研究のための発表倫理を考える

東北大学高度教養教育・学生支援機構 編 A 5判 170頁 定価2,200円(本体2,000円+税)
ISBN978-4-86163-278-5 C3037(2017年3月)

盗用、不適切なオーサiership、二重投稿…。責任ある研究を遂行するためには、研究成果の発表も誠実に行う必要がある。本書は、研究倫理のなかでも「発表倫理」に着目したものである。第I部では、当分野の第一人者である山崎茂明氏、生命科学分野の大隅典子氏、人文社会科学分野の羽田貴史氏が、発表倫理にまつわる制度化の課題やオーサiership、査読システム等の問題を議論する。第II部では教育面に焦点を絞り、石井怜子氏、鎌田美千子氏、吉村富美子氏が、言語教育の専門家としての立場から盗用防止策を提案。

高等教育
ライブラリ

高等教育ライブラリ 12

大学入試における共通試験

東北大学高度教養教育・学生支援機構 編 A 5判 226頁 定価2,310円(本体2,100円+税)
ISBN978-4-86163-279-2 C3037(2017年3月)

大学入試における新共通テストの実施は、高大接続にどのような影響をもたらすのか。「新共通テスト」が抱える課題とは何か？研究者、高校現場、諸外国の事例から検討する。

十分な検証がなされないまま大学入試センター試験が廃止され、新たな共通テストが実施されようとしている。これまでの大学入試の制度改革を多面的に検討し、その影響を問う。

高等教育ライブラリ 13

数理科学教育の現代的展開

東北大学高度教養教育・学生支援機構 編 A 5判 216頁 定価2,310円(本体2,100円+税)
ISBN978-4-86163-305-8 C3037(2018年3月)

現代に生きるすべての市民と専門家に必須な教養として、数理科学教育の構築を提案する野心的な一書。日本人の数理科学能力を問い、文系・理系区分のもとで歪められてきた数理科学教育の姿を洗い直し、ビッグ・データを扱う能力をはじめとする現代的教養論を大学人に捧げる。

高等教育ライブラリ 14

個別大学の入試改革

東北大学高度教養教育・学生支援機構 編 A 5判 306頁 定価3,520円 (本体3,200円+税)
ISBN978-4-86163-306-5 C3037(2018年3月)

個別大学の入試はどう変わるのか? 大学教員、高校教員、海外事例から検討する。高大接続改革が進む中、個別大学には「大学入学共通テストの活用」と「多面的・総合的な評価への転換」が突きつけられている。それらの問題点と解決の糸口を多様な視点から探る。

高等教育ライブラリ 15

大学入試における「主体性」の評価—その理念と現実—

東北大学高度教養教育・学生支援機構 編 A 5判 266頁 定価2,750円 (本体2,500円+税)
ISBN978-4-86163-327-0 C3037(2019年3月)

入試制度の仕組みの中に位置付けられる「主体性」および「主体性評価」とは何か。来たるべき改革の前に、大学は、高校は、何を思うのか。大学入試における評価とその限界を多様な角度から検証し、浮かび上がる「主体性」の本質を探る。大学・高校の現場からの論考を交え、その理論を思考する。

高等教育ライブラリ 16

共生社会へ 大学における障害学生支援を考える

吉武清實・岡田有司・榊原佐和子 編 A 5判 236頁 定価2,420円 (本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-342-3 C3037(2020年3月)

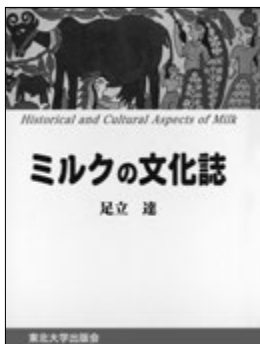
2016年の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」の施行後、障害のある学生に対しての現場対応は、どのように変化したのか。大学に求められる「合理的配慮」とは、どのようなものとなったのか。授業、学生生活、支援相談、教職員の意識と理解など、大学における様々な場面について、教員・研究者がそれぞれの領域から問題点を論じる全8章の論考集。これからの共生社会づくりへとつながる現状の課題と解決の手がかりを、現場発信の理念と具体的な事例から詳細に提示する、障害学生支援に携わる関係者必携の書。

高等教育ライブラリ 17

学士課程教育のカリキュラム研究

串本剛 編 A 5判 226頁 定価2,640円 (本体2,400円+税)
ISBN978-4-86163-366-9 C3037(2021年11月)

学士課程教育という呼称には、かつて学部教育と呼ばれていた時代の反省が込められており。そのひとつは共通教育と専門教育の分断にあった。本書では両者一体のカリキュラムを念頭に、実態の一端を悉皆調査に基づくデータセットを使って明らかにする。具体的には、卒業要件単位数に占める必修単位数の比率およびその規定要因を、人文科学系、社会科学系、理学系、工学系、農学系、教育学系、教養系、音楽系、スポーツ系の9分野にわたり比較検討することで、従来は初・中等教育が中心であったカリキュラム研究の対象を、学士課程教育にまで拡張することの可能性を探る。



ISBN978-4-925085-10-6
C0040(1998年6月)

ミルクの文化誌

尾立達 著 A 5判 294頁 定価3,300円 (本体3,000円+税)

他種の哺乳動物のミルクを、自らの食糧に利用するというヒト独自の食文化は、西アジアの一角に成立した。その成立過程とアフロユーラシア大陸への伝播。その過程において大陸の西方で進行した乳食をめぐる生存闘争と、その帰結としての獲得形質者の勝利。そして飲乳用ミルクの処理技術の史的発展を、東、中、西洋の比較という視点から、本書は初めて執筆された。



ISBN978-4-925085-22-9
C3045(1999年9月)

ゾウリムシの遺伝学

樋渡宏一 編 A 5判 168頁 定価2,200円 (本体2,000円+税)

単細胞動物ゾウリムシの遺伝はかつては生物学の教科書に必掲のトピックスであったが、現在は欧米では研究材料として絶滅し、唯一の例外は日本であると言われている。この本は、世界の第一線で活躍する日本の研究者が、それぞれの専門的立場からゾウリムシがいかに優れた材料であるかを、研究方法や研究の背景を含めて解説した最新の入門書である。



ISBN978-4-925085-48-9
C3044(2001年12月)

ガス星雲と活動銀河核の天体物理学

ドナルド E. オスターブロック 著 / 田村眞一 訳
B 5判 444頁 定価5,280円 (本体4,800円+税)

本書は D. E. Osterbrock 教授の "Astrophysics of Gaseous Nebulae and Active Galactic Nuclei" の翻訳である。これまで (AGN)2 と愛称されてきた原著版は、世界中の大学院生や研究者によって読まれ、利用されてきた。HII 領域や惑星状星雲のようなガス星雲、新星殻、超新星残骸、QSO・quasar・セイファート銀河等を含む活動銀河核の研究をはじめたばかりの初学者や、一般に宇宙における電離ガスが示す物理素過程に関心を抱く研究者にとっては、英語に煩わされることなく恰好の指針・手引きとなるはずである。本書が日本のこの分野での発展に寄与することを願っている。



ISBN978-4-925085-67-0
C1040(2003年4月)

海を学ぼう 一身近な実験と観察

日本海洋学会『海を学ぼう』編集委員会 編
A 4判 66頁 全カラー 定価1,650円(本体1,500円+税)

海は地球環境の中で大変大きい役割をしています。しかし、小学校から高等学校までの教科書にはこれまでほとんど海のことを書かれていません。本書は総合的な学習の時間や選択の時間での良い手引き書となるよう、海洋学会のメンバーが執筆しました。この本では海の水の化学、海の生物、海の物理現象の中から身近な題材を選び、この本を手にした皆さんが自主的に学習する時に利用していただくことを目的としました。全頁カラー。



ISBN978-4-925085-68-7
C3040(2003年4月)

風土が育む日本の技術知—地球社会的知への止揚—

尾坂芳夫 著 A 5判 268頁 定価2,090円(本体1,900円+税)

科学技術は、高度に発達して人類に豊かさをもたらしているが、一方で経済至上主義と共振して、近年は、環境の悪化、殺戮兵器の先鋭化などの大きい困難を突き付けている。著者は、このような困難を抑制しながら全民族の繁栄に繋がる秩序を探ろうとするときに、日本の風土に育まれた、自然親和的な忍従的な感性豊かな心性と技術知が本質的な役割を果たすに違いないとの信念を述べている。そして、長い歴史のなかに日本の技術知の本性を探り、ヨーロッパ的な理性的合理主義との止揚を図ることの必要を述べ、日本固有の文化を大切にしながら科学精神の根源に遡った教育を行なうための方法理念を説いている。



ISBN978-4-925085-65-6
C3042(2003年10月)

原子炉物理入門

平川直弘・岩崎智彦 著
B 5判 340頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

原子炉の設計において現実に用いられている計算コード・手法の基礎である「原子炉物理」についての理解と、その計算コードによる計算結果をある程度解析的に評価のできる知識の習得とを目的とした「原子炉物理」の入門書である。本書では特に、原子炉物理の根幹をなす中性子と原子核の相互作用と計算手法の結びつきがなるべく明確となるよう、取り上げるテーマやその配列に留意して解説している。また、原子炉主任技術者試験受験者の便のため過去の原子炉主任技術者試験の問題から全ての演習問題を選んだ。

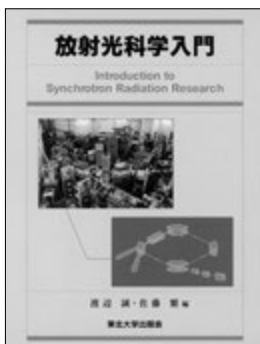


ISBN978-4-925085-71-7
C3040(2003年11月)

北上山地に日本更新世人類化石を探る —岩手県大迫町アバクチ・風穴洞穴遺跡の発掘

百々幸雄・瀧川渉・澤田純明 編
B 5判 428頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

日本列島にも旧石器文化が存在することが判明してから半世紀、現在では数千カ所に及ぶ遺跡で旧石器が確認されている。しかし依然として、旧石器を伴う確実な更新世人類化石は、我が国からは発見されていない。本書は、日本の更新世人類化石を探るべく結成されたプロジェクトチームが、6年間の歳月をかけて岩手県大迫町の石灰岩洞窟を発掘調査した、その正式研究成果報告書である。人類学、考古学、古生物学の各分野で活躍する研究者たちの飽くなき挑戦の第一歩が記されている。



ISBN978-4-86163-148-1
C3042(2004年3月)

放射光科学入門

渡辺誠・佐藤繁 編
A 5判 388頁 定価4,620円(本体4,200円+税)

「放射光」あるいは「シンクロトロン放射」は今や材料科学、生命科学において、物質の様々な機能のミクロな立場からの解明に不可欠である。この光はほぼ光速まで加速された電子が円運動や蛇行運動をする際に放出する輝度の高い光であり、真空紫外・軟X線から硬X線の領域の優れた光源である。また赤外線領域においても有用性が高い。本書は「放射光」の発生の原理から説き起こし、電子の加速装置や放射光利用技術などを概観し、次いで実際に多くの研究分野でどの様に役立っているかを分かり易く解説しており、放射光科学の初学者のための丁寧な入門書である。



ISBN978-4-86163-012-5
C3040(2005年8月)

東北大学における理化学ガラス機器の開発

(財)日本化学研究会「東北大学における理化学ガラス機器の開発」編集委員会 編 B 5判 246頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

理化学実験のためのガラス器具を製作するガラス工場は、東北大学の創立の時に眞島利行教授のもとで発足した。以来90余年、東北大学におけるガラス工作技術者は、科学技術の革命的な進歩とともに、基礎研究の基盤づくりに計り知れない研鑽と機器開発に努め、国内の機器開拓をリードしてきた。科学の進歩にあわせて開発されてきたガラス装置の数々、多くの技術者の功績をまとめた本書から、研究の最も地道な面、そして研究の鍵となった掛け替えのない技術者の貢献を読みとることができる。



ISBN978-4-86163-014-9
C3045(2005年12月)

寄生性原虫コクシジア

中井裕 編 B 5判 344頁 定価3,300円 (本体3,000円+税)

コクシジアは17世紀に顕微鏡の始祖である Antoni van Leewenhoek によって発見された最も古くから知られる微生物の一つである。この原虫（原生動物）は哺乳動物や鳥類に寄生して病原性を発現することから、多岐にわたる対策が講じられてきたが、今なお養鶏界に多大な被害を与え続けている。この本は、国内の第一線の研究者および世界の著名な研究者が、原虫生理、感染、病態、免疫、薬剤、ワクチンなど広範にわたって解説したわが国唯一のコクシジアに関するモノグラフである。



ISBN978-4-86163-028-6
C3043(2006年6月)

化学者たちのセレンディピティー

—ノーベル賞への道のり—〔増補改訂版〕

吉原賢二 著 A 5判 170頁 定価1,650円 (本体1,500円+税)

20世紀をいろどる日本の化学者たちの努力を1編の物語りとしてまとめた本はいままでなかったが、本書はそのはじめてのものである。近頃話題になるセレンディピティー（幸福な偶然）とはなにか。化学者たちの生涯と業績の中にそれを探る。読者は忘れかかった過去の光景の中に知的な興奮を見いだすことであろう。しあわせだった大正リベラリズムの中の科学の発展、その後軍国主義に傾き、戦争に突入してすべてを失った中で立ち直る化学者群像、そしてノーベル賞に輝く福井を生み出す過程、これらはまさに1編の叙事詩のようなものである。



ISBN978-4-86163-034-7
C1040(2006年8月)

ゆらぎからのメッセージ

渋谷寿 著 四六判 194頁 定価1,760円 (本体1,600円+税)

物理学の上では雑音とみられていた“ゆらぎ”には、物事の本質を示す情報が秘められている。これを明らかにしたのがフラクチュオマティクスである。ゆらぎの科学と技術を両輪とするこの学問は、現代統計科学を取り入れることで、ゆらぎからのメッセージを解説することができる。ゆらぎ現象を観測し、計測して解析、これを解釈することで、未来への予測が可能となる。平均値を基準に成り立つ従来の科学に対し、個の問題に迫ることができるこの学問は、新しいパラダイムを提供する。本書はフラクチュオマティクスを平易に解説するとともに、実践活動の具体例として、「健康問題」を取り上げて紹介する。



ISBN978-4-86163-035-4
C1040(2006年10月)

アスベスト—ミクロンサイズの静かな時限爆弾—

岩石鉱物科学編集委員会 編
A 5判 128頁 定価1,210円(本体1,100円+税)

日本では欧米に比べてアスベストの使用禁止がやや遅れ気味であった。廃棄されるアスベストが今後増加する事、関連の疾患が何十年も経て出現する事、危険を決める閾値が事実上無いという事、治療の研究がようやく始まったばかりである事など不安がいっぱいである。本書ではアスベストとその関連物質についての、商品としての見地や鉱物学的な見地、医学的な見地から現在迄わかっている事を解説した。一般の人を含め特に土木建築関係に携わる方々に理解してもらえるよう努めた。本書により不要な不安をぬぐい去ると同時に、厳重に注意しなくてはならない点を理解してもらえるようになる事を切に希望する。



ISBN978-4-86163-043-9
C3041(2007年3月)

東洋数学史への招待

—藤原松三郎数学史論文集—

藤原松三郎先生数学史論文集刊行会 編
B 5判 454頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

明治初期、我が国の学校制度発足時に数学は西欧方式のカリキュラムが採用されたため、当時世界に比肩する水準にあった東洋数学も学会・教育界から忘れ去られる運命に瀕した。これを後世に残すべく東北大学は創立時の林鶴一教授を中心として資料の調査・収集に当たった。同僚の藤原教授も日本を代表する数学者の一人であられたが晩年はこの東洋数学史の研究に没頭された。本書所載の講演録はこの方面の絶好の入門案内であり、また諸論文は東洋独自の数学的思考の発展過程を解明しており研究の基礎資料として必須のものである。(東北大学創立100周年記念出版)



ISBN978-4-86163-104-7
C1045(2008年11月)

生態システムと人間

栗原康 著 A 5判 148頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

生態システムをフラスコの中に再現させた「マイクロゾム」、多くの微生物が棲みついて草を分解している牛の反芻胃「ルーメン」、そして竹筒の溜まり水の中で繰り返されるボウフラの攻防。著者はかつて、このような、ミクロな世界を生態系として捉えることで、生態システムにおける全体と部分の統合の問題に切り込んだ。そして、今、自然環境に対する人間の無謀な介入から引き起こさせる手痛いしっぺ返しの数々は、生物をシステムとして理解しなかったことによると言う。本書は、人間と自然に関わる諸問題に取組もうとしている人たちに、生態システムの解析手法を通じて未来への指針を与えるものである。



ISBN978-4-86163-120-7
C0045(2009年4月)

青葉山植物園ガイドブック 植物園に行こう

東北大学植物園 編
A 5判 66頁 定価1,047円(本体952円+税)

国指定天然記念物「青葉山」(東北大学植物園)は、杜の都仙台の象徴ともいえる存在だ。伊達政宗の仙台北城築城以来400年の歴史を持つこの貴重な自然林は、日々多くの市民に親しまれている。この青葉山を維持管理し、一般公開を行っている東北大学植物園の50周年を記念して、待望の公式ガイドブックが製作された。本書は、青葉山の歴史、青葉山の森の特徴、園内の季節ごとの見所やおすすめ散策コースを、植物の写真満載で解説している。持ち運びを意識したコンパクトなサイズで、この1冊を片手に園内を廻れば、より深く青葉山の自然に親しみつつ、様々な新しい発見ができるに違いない。



ISBN978-4-86163-125-2
C0044(2009年10月)

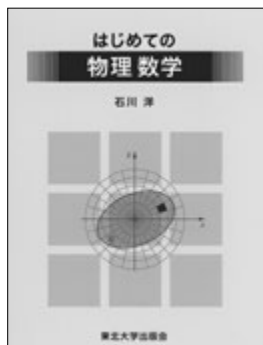
太平洋戦争史秘録 隠された大震災

山下文男 著 四六判 206頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

“地震国”と言われる日本において、死者1000人を超える大地震はここ百余年の間に11回記録されている。そのうち4回は異常にも太平洋戦争の終戦前後に軍需工場の集中する東海地方を襲っており、住民は戦禍と震災の二重の苦しみを被った。しかし、この震災の報道は政府や軍部の検閲により厳重に管理され、飛行機工場の倒壊により圧死した勤労学徒、集団疎開中に被災した子どもたちの悲劇なども国民に知らされなかった。

また、当時黎明期にあった日本の地震学も戦時下で様々な圧迫を受け、辛酸と苦難の時代を過ごすことになった。

豊富な資料と綿密な取材をもとに、隠された戦時下の大地震の実像に大胆に迫る。巻末には、戦争と地震学の歩みがわかる略年表「戦争と日本地震学辛酸の軌跡」を収録。



ISBN978-4-86163-140-5
C3042(2010年3月)

はじめての物理数学

石川洋 著 A 5判 250頁 定価1,980円(本体1,800円+税)

大学の理工系学科の学生を対象とした物理数学の入門書。初学者が無理なく学習できるように、内容を力学・電磁気学に使われる数学のうち、ごく基本的なものに限定するとともに、つまづきやすい箇所では計算過程も含めて丁寧に説明している。

各項目はできるだけ実際の物理の問題に即した形で解説を行い、数学が物理に使われる様子が自然に理解できるように配慮されている。各章末には基礎から発展的なものまで演習問題を付し、巻末に略解を取めた。



ISBN978-4-86163-149-8
C3044(2010年9月)

Channeling the Forces of Nature

—Saving the world as we know it—

石田秀輝 他 編

A 5判変型 158頁 英文 定価3,300円(本体3,000円+税)

多くの努力にも関わらず、地球環境の劣化は加速を続けています。もう一度、正面から地球環境問題に向き合ってみましょう。自然は私たちが目指している完璧な循環を最少のエネルギーで動かす社会をすでに創り上げています。私たちは、そこからテクノロジーだけではなく、社会システムや暮らし方まで多くを学ぶことが出来るのです。自然は私たちが学ぶべき宝の山かもしれません。この自然のすごさを賢く活かし、新しいものづくりや暮らし方を生み出すテクノロジー、それがネイチャー・テクノロジーです。



ISBN978-4-86163-193-1
C3041(2012年8月)

数学の苦手な人が書いた寄り道統計学

—不確実な世界を生きる知恵—

鈴木宏哉・小林敬子 著

四六判 180頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

現代社会では、「エビデンス(証拠・根拠)重視」という観点から、多様な場面において客観的なデータをもとにした説明が求められる。世の中にある様々なデータを正しく読み取り、それを正しく処理・活用するためには、統計学の基礎的な能力が不可欠である。本書は、統計学および確率の基礎について、日常にあふれる様々なものを題材に詳述している。文中では数学や計算の専門的な知識を極力排し、「見てわかる」「頭でイメージできる」ことに特に配慮した。現代社会に必須の統計リテラシーをユニークな切り口から説いた、異色の大学テキストである。



ISBN978-4-86163-199-3
C1045(2012年10月)

酵素資源余話—酵素のおもしろさを尋ねて—

一島英治 著 四六判 158頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

本書はわが国の酵素資源に着目したものである。第一編は五十年間「新酵素の探索と解析」に携わった著者の感じた酵素の魅力について。第二編は身近な酵素資源の点描として、酵素資源の宝庫「カビとバイオ産業」ならびに「酵素活用の温故知新」など、わが国の産業用酵素の歴史的な展開の一部面、意外と気がつかない「酵素資源大国日本」の姿などにふれた。第三編は「世界に誇る日本の三偉人—高峰譲吉、坂口謹一郎、赤堀四郎—」伝である。若人向けの「酵素研究のすすめ」論であり、「新酵素探索による新しいバイオ産業」育成論でもある。



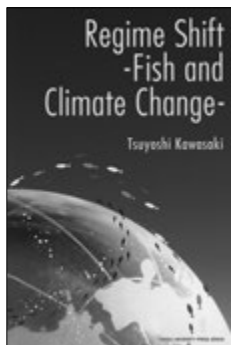
ISBN978-4-86163-219-8
C3041(2013年1月)

Topics in Finite or Infinite Dimensional Complex Analysis

松崎克彦・須川敏幸

A 5判変型 268頁 英文 定価6,050円(本体5,500円+税)

本書は、2011年12月に広島で開催された「第19回有限無限次元複素解析国際会議」の会議録(Proceedings)であり、国内外の招待講演者からオリジナル論考を集めて一冊にまとめたものである。本書で扱うトピックは、変数および多変数、または無限次元の複素解析、それらに付随する幾何学や代数学、さらにはその物理学、工学分野等への応用であり、数学を含む広範な分野にわたる。複素解析学研究の先端を紹介し、今後の動向を提示する内容となっている。



ISBN978-4-86163-205-1
C3044(2013年3月)

Regime Shift - Fish and Climate Change-

川崎健 著

A 5判変型 162頁 英文 定価3,850円(本体3,500円+税)

数十年周期でイワシやサバなどの漁獲高が変動する現象は、人間による乱獲が原因ではなく、広範囲の海でほぼ同期して起こる環境変動によるものである。詳細なデータと長期間にわたる観察から、「大気」「海洋」「海洋生物」をひとつのシステムとして捉え、新しい地球観を提示する。「レジーム・シフト」という言葉を定着させた著者による、漁業科学、地球表層学の専門学術書。



ISBN978-4-86163-247-1
C3043(2014年8月)

スイスと日本の近代化学

—スイス連邦工科大学と日本人化学者の軌跡—

堤憲太郎 著 A 5判 296頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

日本の化学の礎は、スイスにある。真島利行、朝比奈泰彦、柴田雄次、片山正夫、鈴木梅太郎…明治末期、日本から留学生として渡欧した彼らは、当時ヨーロッパで活躍した化学者たちとどんな交流を持ち、どんなことを学び、それをどのようにして日本の化学発展に活かしたのか。化学の専門的知見と若き研究者たちの人物像を巧みに織り交ぜ、日本の近代化学の歩みをひもとく。日本・スイス国交樹立150周年(2014年)を機に知る、両国間の豊かな学術交流の歴史。

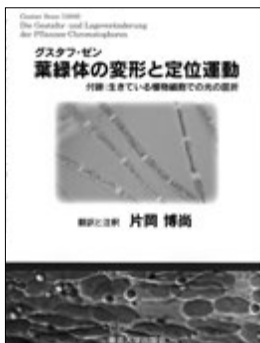


ISBN978-4-86163-234-1
C3040(2015年7月)

コンポスト科学—環境の時代の研究最前線—

中井裕・伊藤豊彰・大村道明・勝呂元 編
B 5判 290頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

コンポスト(堆肥)の現場での製造や利用の立場に立ちながら、その基礎から応用まで科学的な知見に基づいて書かれた、コンポストの科学を総合的に扱った、類を見ないモノグラフである。耕種および畜産などの農業関係者だけでなく、環境や資源循環の専門家、これらに興味を持つ人々にも、最良の書である。



ISBN978-4-86163-255-6
C3045(2015年7月)

グスタフ・ゼン 葉緑体の変形と定位運動

グスタフ・ゼン 著/片岡博尚 訳
A 5判 474頁 定価4,950円(本体4,500円+税)

葉緑体の「能動的な動き」とは? スイスの植物学者グスタフ・ゼンは、「葉緑体の多様な配置と定位運動は、細胞の形で多くは決まっている。それは細胞内を光線がどのように進むかを調べれば理解できる」と考え、それを解明する成果を著作『Die Gestalts- und Lageveränderungen der Pflanzen-Chromatophoren』に残した。

1908年にドイツで刊行された植物生理学の古典的名著の日本語訳。原著の分類別リストや模式図、図版等も忠実に再現し、丁寧な注釈とともにゼンの発見と観察の視点を解説。当時の植物学を概観する。



ISBN978-4-86163-376-9
C1042(2016年3月)

みんなの熱科学

圓山翠陵 著 A 5判 146頁 定価1,750円(本体1,500円+税)

普段の生活の中であまり気づかない、身の回りにある「熱」にかかわる現象。熱いものを冷ましてから食べたり、衣服で体温を調整したり、冬に室内の温度を高めて快適に暮らしたり、衣食住で熱を感じる場面は多いものの、熱は実在の物体として目で見ることができず、とらえどころないとも言える。熱の本質を知り、その特徴を理解できれば、普段の生活はもちろん、地球規模の事象である環境問題にも解決策が見えてくる。熱とエネルギーについての正しい知識は、日常生活や社会形成に大きく役立つものだ。半熟玉子と温泉玉子、ベットポトルロケットから、地熱発電、メタンハイドレードまで、熱とエネルギーに関する様々なトピックを軽快な筆致のエッセーで学ぶ。



ISBN978-4-86163-299-0
C3045(2018年5月)

農学の知を復興に生かす

東北大学菜の花プロジェクトのあゆみ

中井裕・西尾剛・北柴大泰・南条正巳・齋藤雅典・伊藤豊彰・大村道明・金山喜則
A 5判 226頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

東北大学大学院農学研究科による震災復興プロジェクトの記録。津波塩害農地の被害状況調査から始まり、耐塩性品種の選抜と育種、被災農地での栽培実験、収穫物の活用、農家への支援といった専門研究の社会還元、イベント開催、自治体等との連携、教育活動等を通じた社会連携を詳細に振り返り、広い視野と現場感覚からプロジェクトの全体像を示す。震災復興の成果、研究機関がかかわる再生支援のかたちの前例・好例となる、先端研究と社会連携を組み合わせた大学ならではの復興のかたちを描く。



ISBN978-4-86163-326-3
C3042(2019年3月)

力学入門

石川洋 著 A 5判 110頁 定価1,100円(本体1,000円+税)

大学の理工系・生命科学系の学生を対象とした力学の入門書。高校で物理を履修しなかった学生や大学で物理を専門としない学生が無理なく学習できるように、内容を基本的なものに限り、少ない時間で力学の基礎が身につくことを目指している。使用する数学は高校で学ぶ範囲で理解可能なものとし、数学が原因で物理の議論についていけなくなることをないように配慮している。理解の確認のため各章末に演習問題を付し、巻末には略解を収めた。



ISBN978-4-86163-343-0
C3045(2020年1月)

農学生命科学を学ぶための入門生物学〔改訂版〕

鳥山欽哉 編

B 5判 238頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

ヒトは、食料、環境、文化など多様な面で動植物と密接に関係している。農学生命科学(Agricultural Life Science)は、「ヒトと動植物」の関係を動植物サイドから遺伝子→細胞→個体→集団のレベルで研究・理解することにより、資源動植物の開発、食料増産、砂漠の緑化、疾病の防除、地球温暖化の軽減など、ひろく人類の繁栄と発展に貢献することを主眼とする。

本書(農学生命科学を学ぶための入門生物学: Introductory Biology for Agricultural Life Science)は、高校で「生物」を履修していない学生にも農学生命科学にスムーズに入れるように配慮し、読みやすく、わかりやすいをモットーに解説した農学領域ではじめての入門書である。2011年初版の改訂版。



ISBN978-4-86163-339-3
C3040(2020年2月)

グローバル二酸化炭素リサイクル 再生可能エネルギーで全世界の持続的発展を

橋本功二 著 A5判 146頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

世界は、化石燃料燃焼による二酸化炭素排出を止め温暖化を抑え、再生可能エネルギーだけで持続的発展を維持する方向に進んでいる。著者らは、再生可能エネルギーからの余剰電力を用いた水の電気分解による水素の製造と、回収した二酸化炭素と水素の反応によるメタンの製造の研究開発を1980年代から行ってきた。天然ガス発電にこのメタンを燃料として使い、再生可能エネルギーで発電した断続変動する電力を補って、二酸化炭素をリサイクルしながら、高品質の電力が供給できる。これはその背景から世界の将来迄を纏めたものである。



ISBN978-4-86163-360-7
C3045(2021年10月)

植物バイオテクノロジーの基礎知識 環境適応植物工学入門

伊藤幸博・鳥山欽哉 著
B5判 142頁 定価2,640円(本体2,400円+税)

本書の副題とした「環境適応植物工学」は、バイオテクノロジーを駆使しながら、植物の環境適応に関わる遺伝子に注目し、植物が奏でる不思議な生命現象の仕組みを解明し、それらの情報を利用して有用形質を付与した新しいバイオテクノロジー作物の開発研究を行う学問である。本書では、イネを中心とした植物バイオテクノロジーに関わる研究分野でよく使われる遺伝子解析技術、遺伝子工学技術やそれに関連した用語を図版111枚とともに優しく解説。マスコットキャラクター「おコメちゃん」と学ぶ「おコメちゃんの豆知識」コーナーもお楽しみに。

自然科学

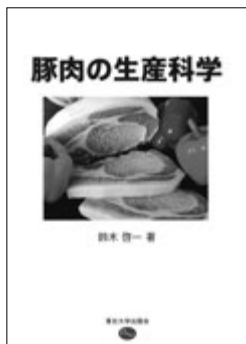


ISBN978-4-86163-347-8
C3045(2022年1月)

「環境」の基本的な考え方 持続可能な循環型社会をめざして

西野徳三 著 A5判 286頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

自然と調和し共生する社会、限られた資源やエネルギーの枯渇のない社会、環境破壊や汚染のない社会をつくるために、人類、そして私たちは何をしたら良いのだろうか。今を生きる私たちの欲求が満たされるだけでなく、将来世代の欲求をも満足させられるような、生態系を守る循環型の持続可能な社会にすることが必要である。古来より日本人は水や森の循環系を守り、ものを大切にし、土壌を重視した再生産の考え方で海や山の共生系を保ってきた。その心を持ち続けたいものである。



ISBN978-4-86163-361-4
C3045(2022年2月)

豚肉の生産科学

鈴木啓一 著 A 5判 162頁 定価2,970円(本体2,700円+税)

豚肉は料理での使用頻度が高く身近に感じられる食材だ。筋肉は運動や体の維持に重要な器官だが、死後は食肉へと変化する。量販店やスーパー等で販売される豚肉は遺伝的な影響と、給与される飼料や飼育環境の影響を受け肉質が決まる。豚の肉質を遺伝的に改良した著者の経験を踏まえ、生前での筋肉構造から死後の食肉への変化のメカニズム、さらに、おいしい豚肉質の科学的評価法、遺伝的改良や品種の違い、給与飼料内容や疾病、ストレス、さらには放牧などが肉質に及ぼす影響など、豚肉のおいしさを科学的に考えるための情報を提供する。



ISBN978-4-86163-369-0
C3040(2022年4月)

自然科学総合実験 2022

東北大学自然科学総合実験テキスト編集委員会 編
A 4判 258頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

「地球・環境」、「エネルギー」、「生命」等のテーマから、自然現象を論理的に考え、その本質を見抜き、文章で記述する力を養うことを目指す。



ISBN978-4-925085-03-8
C3047(1997年11月)

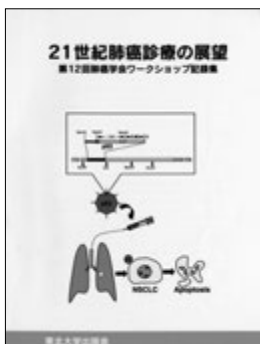
呼吸器外科学

仲田祐・藤村重文 著

A 4判 308頁 定価16,500円(本体15,000円+税)

本書は、肺・気管支の解剖、生理、呼吸器外科の検査法と手術法に続いて、部位別に呼吸器外科疾患の病態、診断法、治療法を詳述している。更に、近年のトピックである肺移植の最新の成果をまとめている。自験例のオリジナルな写真、図表を多用し、当該研究部門で行っている検査、手術法はもとより、呼吸器外科領域の基礎から最新の治療法に関する知識まで幅広く学習できるように記述している。

この意味で、本書は、学生並びに呼吸器外科学を目指す若い医師の教科書となると同時に、現在呼吸器外科に携わっている医師向けの内容となっている。



ISBN978-4-925085-09-0
C3047(1998年4月)

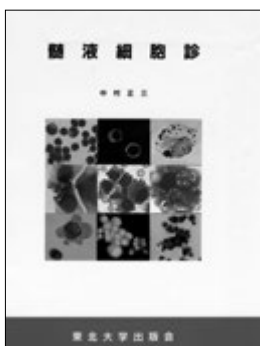
21世紀肺癌診療の展望

第12回肺癌学会ワークショップ記録集

貫和敏博・福岡正博・土屋了介 監修

B 5判 120頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

疫学集計により推測すると、肺癌は平成9年中に患者死亡数が5万人を越え、胃癌死亡総数を抜いて、文字通り最悪の癌となった。本ワークショップでは、従来の診断、外科治療、化学、放射線治療に加えて、将来的な遺伝子治療、さらには「社会医学的側面と予防医学」として、最近になり一般に認識されるようになった情報公開や社会啓蒙、禁煙運動推進、告知の問題と肺癌末期医療を取り上げ、21世紀における診療のあり方を展望している。

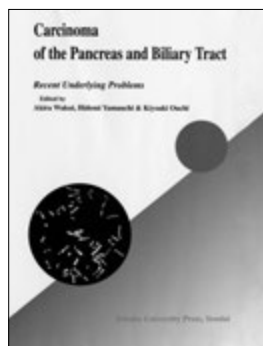


ISBN978-4-925085-11-3
C3047(1998年10月)

髄液細胞診

中村正三 著 A 4判 86頁 定価4,950円(本体4,500円+税)

細胞診を、髄液中の種々の細胞を形態のみならず機能的側面を含め観察し、そこから中枢神経系内で惹起されている病態を把握し、診断や治療効果など日常臨床に役立てる補助的検査と考えている著者が、貴重な経験の積み重ねから著した研究書。多種多様な病態における細胞診所見が克明に示されており、中枢神経疾患の病態把握及び診断の必携書。「患者は私たちに刻々変化する徴候や症状で語りかけている。髄液細胞も脳内での刻々変化する出来事を私たちに語りかけている。」(本文より)

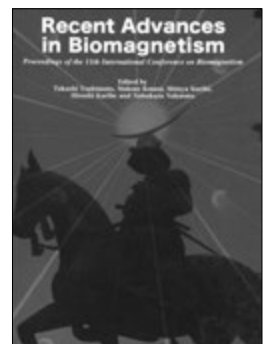


ISBN978-4-925085-17-5
C3047(1998年12月)

Carcinoma of the Pancreas and Biliary Tract: Recent Underlying Problems

涌井昭・山内英生・大内清昭 監修
A 5判変型 英文 552頁 定価5,500円(本体5,000円+税)

東北膵・胆道癌研究会(TPBICA)は10年前に、最も難治性の消化器癌である膵・胆道癌の克服を目指して設立され活動を継続中であるが、この研究会のメンバーである、内科医、外科医、放射線科医、基礎医学者によりまとめられたものである。主として臨床医を対象として診断と治療上の問題点を明らかにすることを意図しており、遺伝子学から症例報告まで、膵・胆道癌に関する幅広い内容となっている。Review Articleで全体の解説をした後、Original ArticleとCase Reportを配置した50編のモノグラフである。



ISBN978-4-925085-19-9
C3047(1999年7月)

Recent Advances in Biomagnetism

吉本高志・小谷誠・栗城眞也・刈部博・中里信和 監修
A 5判変型 1136頁 定価11,000円(本体10,000円+税) 英文

生体磁気(Biomagnetism)とは、生体の電気活動により生じる磁気である。地磁気の数億分の一と微弱ながら超伝導技術で計測可能となり、脳や心臓内部の電気活動を高い時空間分解能で診断可能である。本書は1998年仙台で開催された国際生体磁気学会で取り上げられた最新かつ広範な話題を網羅している。生体磁気シールド、SQUIDシステム、順・逆問題モデル、脳磁図(MEG)・心磁図(MCG)の基礎研究・臨床応用などに加えて、経皮磁気刺激や機能的MRIも含み、文字どおり「生体と磁気」の広範な領域をカバーする最新の書。



ISBN978-4-925085-24-3
C3047(1999年11月)

種痘法に見る医の倫理

小田泰子 著 A 5判 218頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

18世紀、ジェンナーよっての牛痘法が発見される以前に、天然痘の膿をそのまま人間に植える天然痘の予防方法一人痘法一が発見されていた。人痘法は医学的に有効か、膿を植えて人為的に病気を与えることは創造主の意図に反するのではないかなどと、イギリス・アメリカ・フランスでは約1世紀にわたって、医師・牧師・一般人を巻き込んだ激しい論争が繰り返された。本書で再現されたこれらの論争は、現在の新しい医療、臓器移植・出生前遺伝子診断・クローン技術の人への応用等をめぐってなされている論争と多くの類似点を見いだすことができる。



ISBN978-4-925085-28-1
C1047(2000年4月)

障害者のリハビリと福祉 [改訂版]

永瀬正昭 著 A5判 286頁 定価2,860円(本体2,600円+税)

本書は、著者が担当している「障害者福祉論」の講義ノートであるが、21世紀を展望した意欲的著作となっている。日進月歩の医学の発展とともに、リハビリテーション工学もめざましく進歩しており、他方で、障害者に対する社会福祉も年々充実の度合いを増している。今後の障害者福祉は、脳科学と情報工学の最新知識をとりこみ、新しい社会福祉観に基づいた広い意味でのリハビリテーションを行うこととなる。



ISBN978-4-925085-31-1
C3047(2000年7月)

公衆衛生の責任

これからの保健・医療をめざして

久道茂 著 四六判 258頁 定価1,760円(本体1,600円+税)

著者が学会等で行った講演を整理し、読者にわかりやすく著した啓蒙の書。これまでの日本の公衆衛生は、疾病予防、健康増進、母子保健、環境保健等々、人々の生活向上や保健、医療活動の中で大きな役割を果たした。しかし、現在のわが国は、高齢少子化問題、新しい感染症の発生、老人医療と福祉、環境問題など多くの課題を抱えている。執筆時、東北大学医学系研究科長であり、厚生省公衆衛生審議会長でもある著者が、自らの研究・教育を省みながら、公衆衛生の在り方を探った必読の書。

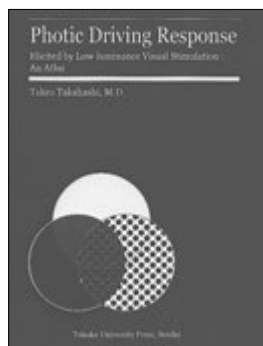


ISBN978-4-925085-39-7
C3047(2001年8月)

放射線医学臨床実習書

山田章吾 編 A4判 260頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

医学教育は今大きな変革の時にあり、コア教育、少人数教育、実習中心への変換が求められている。コンピュータと共に目覚ましい発展を遂げている放射線医学の教育分野においても、この変化への対応が迫られており、特にコアを中心とした臨床実習の充実は緊急課題である。本書は放射線診断、治療、核医学の臨床実習で学ぶべき基本的事項が中心に書かれており、QA形式で自習に適し、より一層理解が深まるように編集されている。貴重な放射線医学の臨床実習を実りあるものにするのに最適な一冊である。



ISBN978-4-86163-000-2
C3047(2005年4月)

Photic Driving Response Elicited by Low-luminance Visual Stimulation: An Atlas

高橋剛夫 著 B 5判 74頁 英文 定価2,750円(本体2,500円+税)

閃光刺激を用いた一般の脳波検査に比べ、幾何学図形、絵、赤などに点滅を加えた低輝度視覚刺激は、後頭部に高振幅の光駆動反応を誘発する。それには水玉図形の5Hz点滅刺激が特に有効である。これら一連の低輝度視覚刺激による脳波反応を周波数トポグラフィーマッピング分析し、てんかん例や精神および行動の障害例を挙げ、図説した。このような光駆動反応は視覚領の機能異常を鋭敏に反映する。新たな方法による光駆動反応の再評価に加え、その臨床的有用性の高まりを期待したい。



ISBN978-4-86163-007-1
C3047(2005年4月)

地域医療システム構築

—東北大学医学部の取り組み—

東北大学医学部「地域貢献作業班」代表 伊藤恒敏 編
B 5判 238頁 定価2,640円(本体2,400円+税)

一連の不祥事(医師の名義貸し問題、研究助成金問題)は突然(03年9月)、やって来た。慣習だという意見と、もたれ合いだという考えが対立した。

半年間におよぶ「地域貢献作業班」の議論の中で、医学部が医師養成機関として、地域医療問題の改善に対し、見解・見識をもって行政や、地域の病院や、首長も含め住民と話し合うべきだ、という共通認識ができた。本書の全ての原点である。「作業班」の最終答申・調査報告と、公開シンポジウムの記録とを併せて、東北大学医学部の地域医療に対する取り組みを世に問う異色の書である。

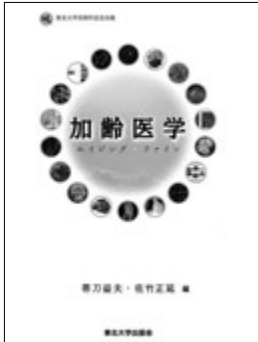


ISBN978-4-86163-018-7
C3047(2005年9月)

音韻処理の脳半球機能差

島田陸雄 著 B 5判 324頁 定価5,940円(本体5,400円+税)

本書はヒトにおける脳半球機能差の神経心理学的機序の解明を目指した著者の長年にわたる研究結果を取り纏めたものである。右利き者では、言語機能は左大脳半球に関連が深いことが知られている。この言語に関する左大脳半球優位が何故生じてくるかについては、膨大な研究がなされているにも拘らずいまだ不明である。本書ではこの問題を、1) 脳の局所的損傷に伴って生じる種々の言語機能障害に関する臨床神経心理学的研究、2) 健常者を対象とした実験神経心理学的研究、の二つの側面から検討し、「言語に関する左大脳半球優位は音声表出における同半球の優位性に基づく」ことを実証している。



ISBN978-4-86163-062-0
C1047(2007年9月)

加齢医学 エイジング・ファイナル

帯刀益夫・佐竹正延 編
A 5判 314頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

“ひと”は、誕生の直後から齢(よわい)を加えていく。幼児から小児、思春期を経て成人へと成長し、そして老い、死にゆく。この一連の過程の中で、特に老化に伴って病気に遭遇する機会が多くなるのは避けられない。しかしながら、加齢のメカニズムを遺伝子・ゲノムの言葉で理解することにより、老化関連疾患の診断や治療、さらには予防において、有効な手立てが見つけれられるかもしれない。健やかに寿命を全うするための医学「加齢医学」の発展こそが、我が国の高齢化社会の公益に資するものとなるだろう。東北大学開学100年を記念して、加齢医学研究所の教授陣が総力を挙げて世に問う渾身の一冊。



ISBN978-4-86163-090-3
C3047(2008年3月)

EEG Atlas of Photosensitive Epilepsy Studied Using Low-luminance Visual Stimulation

高橋剛夫 著 A 4判 108頁 英文 定価2,860円(本体2,600円+税)

光感受性発作の脳波診断に光突発反応 PPR の確認は欠かれない。PPR 賦活にストロボ閃光刺激が普及している現況に異を唱え、より高率に PPR を誘発する赤と図形の点滅を開眼下で与える低輝度視覚刺激 LLVS 法を我々は案出した。ストロボフィルターは LLVS 簡便法として開発されたが、それで誘発される光感受性者の PPR を本書では分かり易く図示する工夫を試みた。本法で得られる PPR は神経生理学の知見とより密接な照合を可能とし、病態生理の理解を深めるだけでなく、治療に直結する多くの情報を我々に提供する利点がある。



ISBN978-4-86163-126-9
C3047(2009年12月)

がん検診判断学

久道茂 著 A 5判 236頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

現在、日本では2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで死亡する。がん対策はわが国において重要かつ喫緊の課題であり、国家レベルの早急な対応が必要である。しかし、平成19年に「がん対策基本法」が施行されたものの、がん対策の二次予防であるがん検診についてはまだまだ不十分な面が多い。がん検診によって「がんを早く見つけて治療し、がん死を防ぐ」ことこそ、いま最も求められるがん対策の“根幹”と言える。

がん検診について精緻な科学的検証を行いながら、医学判断学の考え方をがん検診に特化して比較検討し、新たな「がん検診学」を提唱。誰もが受けられる有効性の高い対策型検診の実現を目指して、がん対策のスペシャリストが書き下ろした最新のがん対策必携書が完成!



ISBN978-4-86163-156-6
C3047(2011年5月)

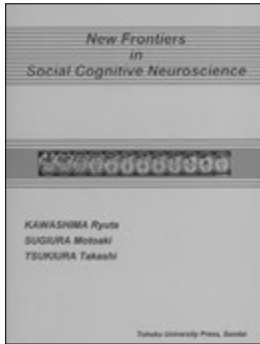
人体はすべて機械化できる？

—人工臓器医工学講座入門—

山家智之 著 A 5判 186頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

あなたは目が悪くなればメガネをかけ、耳が悪くなると補聴器をつけます。これらはすべて人工臓器です。心臓が悪くなれば人工心臓が適応になり、手や足が悪くなれば、現在はアクチュエータ付きの義手や義足があります。更には、これまでは不可能と思われていた脳神経系に関する人工臓器も開発されています。人体はすべて人工臓器で治療することが出来るのかもかもしれません。日本人工臓器学会は、世界でも最大規模の人工臓器を専門とする学術団体で、頭の高から足の先まで全ての内臓について人工臓器の可能性について研究されています。人工臓器はどこまで可能か？

これからは、倫理的にも、市民の皆様と共に、考えていかななくてはなりません。



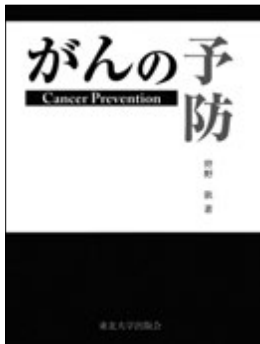
ISBN978-4-86163-162-7
C3047(2011年8月)

New Frontiers in Social Cognitive Neuroscience

川島隆太・杉浦元亮・月浦崇 編

B 5判 210頁 英文 定価4,400円(本体4,000円+税)

人と人が関わる時、脳のふるまいは人が一人の時とまったく異なる。人間の社会認知が脳でどのように実現するのか、そのメカニズムの研究が脳機能イメージングを中心に急速に進んでいる。そのインパクトとスピードはコペルニクスの転回と言っても過言ではない。今、我々の人間や心に対する見方が大きく変わろうとしている。本書では、顔認知・情動・共感・言語・記憶・自己意識・意思決定、そして文化差や病態まで、社会認知神経科学の最新線の研究者が、最新の研究成果を披露し持論を展開する。



ISBN978-4-86163-168-9
C3047(2011年9月)

がんの予防

狩野敦 著 A 5判 358頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

今日、実に日本人の2人に1人が一生のうちに「がん」に罹患し、死因の第一位となっている。がんは遺伝子の病気で、遺伝子異常の多くは不適切な生活習慣や外界因子、そして一部の感染症によりおこるため、その予防を講じることは不可能ではない。本書は、できるだけがんにならないようにする一次予防、できるだけがんを早く見つけて治す二次予防を中心に、それぞれの手法を詳しく解説。さらに、頻度順に20種類のがんについてその原因・症状・治療・予防を多くの図表で説明し、これらのがんのリスク(危険因子)とその対策を示す。がん検診の専門家による、がんの予防にすぐに役立つ一冊。



ISBN978-4-86163-194-8
C3047(2012年5月)

開業医の光感受性てんかん研究

—国際研究協力の先端に立って—

高橋剛夫 著 四六判 144頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

著者の光感受性てんかん研究は40年有余に及ぶ。その間、「電子ゲーム誘発発作」の問題が急浮上し、ついで「ポケモン事件」(平成9年)が起こる。その直中に身を置いて研究を重ねた著者が、ドラマに満ちた研究・教育の場面や人々との出会い、さらには東北大学、ジョンス・ホプキンス大学時代などに受けた学恩への感謝の気持ちをエッセー風に綴る。長期にわたる研究成果の紹介は年代順の叙述とし、理解の容易さを考慮して図表を多用。国際研究協力の場で得た貴重な経験を、次代を担う若い学徒に伝えたいという強い思いがあふれる一冊。



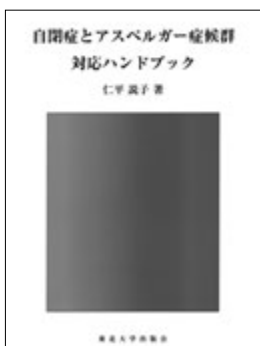
ISBN978-4-86163-265-5
C3047(2015年11月)

アイヌと縄文人の骨学的研究

骨と語り合った40年

百々幸雄 著 A5判 280頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

アイヌなしの本土日本人(和人)の人類学研究は成り立たず、和人抜きアイヌ研究もまた成り立たない。解剖学・形質人類学からのアプローチで「日本列島の人類史の復元」を試みるのに際し、その一翼を担った民族集団としてアイヌ、縄文人、本土日本人、琉球人の骨を考える。豊富な資料写真とともに、頭骨の形態小変異研究をとおした40年間にわたる骨との語り合いを振り返る。

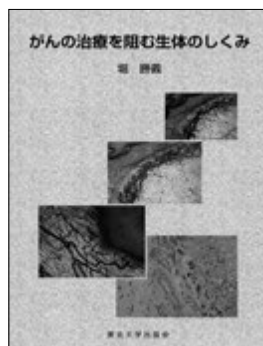


ISBN978-4-86163-302-7
C3047(2018年5月)

自閉症とアスペルガー症候群 対応ハンドブック

仁平説子 著 四六判 156頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

自閉症とアスペルガー症候群を抱える子どもたちとの関わりは、一様なものでは対応しきれない。かといって、場面ごとに専門書の文言を思い出すのも困難だ。基本となる対応方法を記憶できていれば、その場での対応の大きな手がかりになりうる。本書は、自閉症とアスペルガー症候群への基本対応を、覚えやすいフレーズの頭字語の形(アクロニム)で示し、支援の現場で活かせるハンドブックを目指した。専門職から家族まで、日々の関わりの一助となるように例を多く取り入れ、これらの障害の特質に基づいて対応方法を解説する。

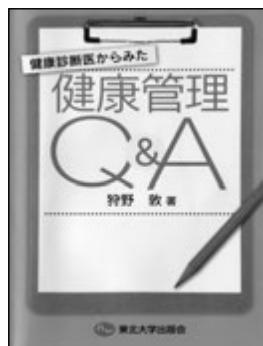


ISBN978-4-86163-318-8
C3047(2019年2月)

がんの治療を阻む生体のしくみ

堀勝義 著 A 5判 242頁 定価4,950円(本体4,500円+税)

がんの薬物療法は抗がん剤が主力であったが、近年、ターゲットを絞った分子標的薬が数多く臨床に導入されている。しかし、白血病などを除き、固形がんでは十分な成果が得られていない。本書の第1部で、腫瘍血管を含む固形がんの構造と機能自体に、治療を阻む様々な要因が存在することが明らかにされる。そこに、がん細胞を攻撃する薬の開発という視点だけでは治療には至らない理由がある。第2部で述べる腫瘍血流遮断による治療は、それらの阻害要因の制約を受けない。本書で、綿密な実験に裏打ちされた腫瘍血流遮断(兵糧攻め)の治療戦略としての価値と可能性を探る。



ISBN978-4-86163-308-9
C3047(2019年9月)

健康診断医からみた健康管理 Q & A

狩野敦 著 四六判 682頁 定価6,380円(本体5,800円+税)

病気や加齢変化が私たちの命を阻みます。しかしそれをある程度予防することが可能です。具体的には、日々の生活習慣の改善と、疾病の早期診断を目指した定期的な検診や健診です。健診医は受診者の適切な健康管理をお手伝いしなければなりません。その目的で、Q&A(質問とその回答)を書き溜めたものが本書です。Qを400項目に絞り、それに対するA(答え)として要点をまとめ、各項目ごとに「健診医からコメント」としてテーマの問題点、対応の仕方を解説しました。またAとともに窓口となる担当科を示しました。読者の健康増進に役立つものと期待します。



ISBN978-4-86163-183-2
C3047(2012年2月)

日本医学教育史

坂井建雄 編 A 5判 374頁 定価3,960円(本体3,600円+税)

現在、我が国の医学教育は国際的な交流が活発化する中で、国際化の道を歩もうとしている。しかし日本の医学教育には固有の歴史があり、その歩みは欧米の医学教育と同一のものではない。漢方を中心とした江戸時代の医学が、幕末以後に西洋医学に切り替わり体系的な医学教育が始まったことを皮切りに、明治初期の学制・医制の始まりから今日まで、学校制度と医師資格付与制度の整備・改革を繰り返しながら、数多くの医学校が設立・発展して今日の医学教育が作り上げられてきた。本書は我が国の医学教育の130年以上にわたる歴史を、細部を含めて初めて明らかにすることを試みるものである。



ISBN978-4-86163-320-1
C3047(2020年4月)

分子疫学入門 精密医療の基礎知識

栗山進一 著 A5判 224頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

次世代医療の方向性のひとつは精密医療である。精密医療は個別化医療ともよばれ、遺伝・環境相互作用の解明によってこれまで対処しがたかった病気の予防や治療を目指している。精密医療に理論的根拠を与えるのが分子疫学であり、ゲノムコホートやバイオバンクなどに関する分子疫学的素養がなければ、今後次世代医療の研究および実践を行うことはできなくなるであろう。

本書は分子疫学の入門書であり、今後疫学情報、ゲノム情報や人工知能解析技術などを活用して病気に対峙しようとするすべてのの方々にとって必携の書である。



ISBN978-4-86163-363-8
C3047(2022年2月)

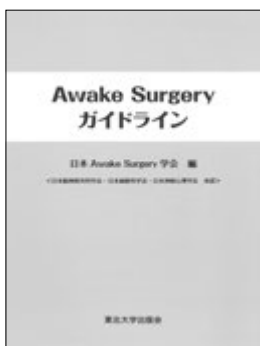
“善玉”としてのヒスタミン

花粉症から薬の作用を考える

谷内一彦 著 B5判 36頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

ヒスタミンは現代の薬理学の礎を築いたノーベル賞受賞者のHenry Daleにより発見された。アレルギー反応への関与が見出されて以来、その生理作用について多くの研究が行われている。ヒスタミンはアレルギーの起因物質として一般には「悪玉」と考えられているが、最近の研究からヒスタミンの生理作用は生体にとって有益であることが多い。生体内で「善玉」として機能している例として、覚醒レベルの維持、認知機能の亢進、抗ストレス作用、抗肥満作用などがある。春になると多くの人が悩む花粉症から薬の薬理作用を考えながら、「善玉」としてのヒスタミンの機能を紹介する。

医学



ISBN978-4-86163-368-3
C3047(2022年1月)

Awake Surgery ガイドライン

日本 Awake Surgery 学会 編
B5判 64頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

覚醒下脳手術(Awake Surgery)は、言語野近傍領域にある脳病変の切除に用いられる手技として、世界的に普及してきている。日本 Awake Surgery 学会が世界で初の「覚醒下脳手術ガイドライン」を公表してから10年余が経過した。この間、日本を含め世界から種々の知見が発表され、脳科学、言語学、認知学、麻酔学、脳腫瘍学および手術法など本手術に関係する分野で多くの進歩が認められた。今回、これらの新知見を取り入れ大幅なりニューアルが行われ「Awake Surgery ガイドライン」として出版するに至った。手術を受ける患者さんの益に寄与するとともに、関連する学問への貢献も期待されている改訂版ガイドライン。



Fusion of the West and the East, Harmony of Human and Technology

Discussion Based on Geriatric Behavioral Neurology
through the International Congress

目黒謙一 編著

B 5 判 英文 430頁 定価16,500円（本体15,000円+税）

第15回アジア認知症学会学術学会における研究成果報告集。
弱い人々が安心して暮らせる社会に向けて提言をおこなう。

ISBN978-4-86163-380-5
C3047(2022年9月)

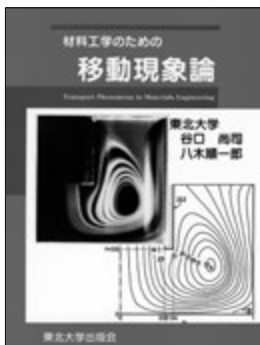


ISBN978-4-925085-18-2
C3057(1999年3月)

材料電磁プロセッシング

(社)日本鉄鋼協会
材料電磁プロセッシング研究グループ 編
A 5判 116頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

溶けた金属が宙に浮く。驚異的な電磁場の力。今、話題のニュー・メタル・プロセッシング—材料電磁プロセッシングとは。超高純度な金属、無欠陥結晶、金属の連続製造等を可能にした革新的な技術。本書が初めて紹介する材料電磁プロセッシングの世界。わかりやすい基礎(電磁気学、移動速度論、電磁流体力学、数値シミュレーション法)から最先端の実用例まで。材料プロセス工学の待望の書。



ISBN978-4-925085-44-1
C3057(2001年9月)

材料工学のための移動現象論

谷口尚司・八木順一郎 著
B 5判 112頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

本書は工学部材料系の学部学生を対象として執筆された教科書であり、著者が過去数年に亘って材料系の学部3年生を対象に行われてきた講義ノートをまとめたものである。その分量は15週の講義に丁度良く、また初学者に適した内容になっている。「材料工学のための」という但し書き通り、材料製造に関わる多くの例が引かれているとともに、内容の理解を助ける演習問題が豊富に含まれている。また、電磁力を利用した材料プロセッシングの理解に必要な電磁気学を移動現象との関連において解説していることも、本書の大きな特長となっている。



ISBN978-4-925085-50-2
C1055(2001年12月)

個性の輝くコミュニケーション—21世紀への夢—

東北大学大学院電気・情報系および電気通信研究所 編
A 5判 284頁 定価1,870円(本体1,700円+税)

電気通信の発達による情報通信の高度化は、より良い社会をもたらすと信じられて来たが、大量・高速に流通する情報のあり方が、逆に人間性の喪失、社会の不安定化などの原因にもなっている。21世紀では、個性が尊重され、すべての面で調和がとれ、夢にあふれる人間社会となることが望まれる、そのためには、あらゆる人、あらゆる社会と「こころ」が通じるコミュニケーションが不可欠である。本書は、東北大学電気・情報系が人間性豊かな「個性の輝くコミュニケーション」の実現を目指し、21世紀におけるコミュニケーションの夢を発信すべく企画したもので、2001年5月に開催したシンポジウムの講演内容を中心にまとめたものである。



ISBN978-4-925085-55-7
C3061(2002年12月)

乳製品の世界外史

世界とくにアジアにおける乳業技術の史的展開

足立達 著 A 5判 1148頁 定価10,450円(本体9,500円+税)

本書は、ミルクからチーズ等の乳製品を作る加工技術の指摘展開を試みたものである。これまでの牛乳・乳製品加工技術史のほとんどが、ヨーロッパ、アメリカ中心であるのに対し、本書では、モンゴル、インド、西アジア等、アジア地域の乳業技術に強い関心が示されている。遊牧民の消滅が現実となりつつある今、彼らの伝承した乳加工技術の行く末は予断を許さない。このような状況下で、彼らの乳業技術の歴史を記述し、それを継承する将来の技術を展望することは重要な意味を持つ。乳業技術にみる壮大な文化人類学の書でもある。



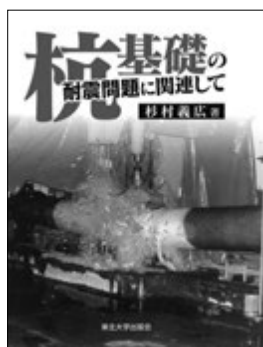
ISBN978-4-925085-87-8
C3050(2004年4月)

エネルギーを考える

東北大学工学部教務委員会 編

A 4判 114頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

普段、無意識のうちに使ってしまったエネルギーは、私たちの生活と産業・経済活動の源であり、また地球環境の保全と密接に関係している。このエネルギーの発生・変換・輸送に関わる種々の技術とエネルギーの利用法・消費形態、ならびに電子の世界や生体内でのエネルギーについて講義し、エネルギー関連技術の役割と重要性を明らかにする。



ISBN978-4-86163-049-1
C3052(2007年2月)

杭基礎の耐震問題に関連して

杉村義広 著 A 5判 128頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

建物を支持する杭の耐震設計で基本となる弾性支承上の梁の曲げ解析において、杭頭固定度とともに杭先端の境界条件も考慮した理論解が丁寧に解説されている。また、周辺地盤の杭応力への影響を表す理論解を求める荷重分布法や、既製コンクリート杭の地震被害様相、その原因追究の解析例、杭体の耐力など構造特性に関する実験も紹介され、さらにその他の耐震問題にも言及されている。本書は、杭の耐震設計が行政上で重要な問題として扱われるようになった最近の歴史的流れを知る上でも構造設計者、研究者、学生にとって良き参考書になる。



ISBN978-4-86163-128-3
C0050(2009年12月)

蒼い軌跡 東北大金属系技術者の開発夜話

異分野新素材研究会 編
A 5判 264頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

東北大学工学部の金属系研究室で学んだOBらでつくる「異分野新素材研究会」のメンバーが、雑誌「金属」に連載していた好評リレーエッセイ「材料開発シリーズ：シーズ・イノベーション物語」を単行本化。

金属材料技術の最前線にいた執筆陣が語る、新素材開発や技術革新の内側、海外赴任の現実、想定外のトラブル等々…。「科学技術立国・日本」を支えてきた技術者のエピソードから、金属材料技術の楽しさ、開発の面白さ、そして成功の秘訣が読み取れる。

現役の技術者・研究者、そして将来の技術者・研究者に贈る、17人の先達からの熱きメッセージ。



ISBN978-4-86163-153-5
C3052(2011年2月)

シックハウス症候群を防ぐには

—長期に亘る実態調査をふまえて—

吉野博・石川哲 編著
A 5判 256頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

シックハウス問題は、建築基準法の改正とその施行によって、一見解決されたような感があるが、未だに建物が原因と推定される体調不良が報告されている。本書は、シックハウスと居住者の健康状態の長期に亘る詳細な観察や膨大な計測結果を基にして、シックハウス症候群の診断方法、化学物質の健康への影響、シックハウス症候群の自己診断や改善の方法、シックハウス防除のための建築的・設備的な方法などについてまとめたものである。医学・薬学・工学・教育学の専門家が長期にわたる議論を通して共同して執筆しており、シックハウスで問題を抱えている生活者にも参考となるユニークな本である。



ISBN978-4-86163-159-7
C3053(2011年4月)

マイクロサット開発入門

東北大学超小型衛星開発チーム 著/吉田和哉 監修
A 5判 286頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

最近小型衛星の重要性が認識され、多くの大学が数kg級の超小型衛星、50kg級のマイクロサットの開発に挑戦している。しかし小型の衛星と言っても、衛星開発には多岐にわたる技術要素、ノウハウの蓄積が必要であり、一朝一夕に開発できるものではない。

筆者等が科学衛星、マイクロサット開発で得た技術・知識・経験に基づいて設計・製作・試験の基本事項、勘所、テクニックを述べ、さらに鯨生態観測衛星(WEOS)、SPRITE-SAT(雷神)等の設計から運用までの実例を交えてマイクロサットの開発方法について解説している。マイクロサット開発を目指す技術者、学生に良い指針を与える参考書である。



ISBN978-4-86163-171-9
C3055(2011年7月)

日中対照 デジタル信号処理入門

城戸健一 著 / 周立剛 編訳
A 5判 310頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

本書は、1985年に出版した同名の書物に中国語訳を付加して対訳の形にしたものである。内容は、最初に時間領域と周波数領域について論じ、波形を数列によって表してデジタル処理に入っている。そこで z 変換、デジタルフィルタ、高速フーリエ変換(FFT)とその応用に進み、さらに、フーリエ変換から離れて、巡回型デジタルフィルタおよび、音声分析の基本的方法である線形予測分析を解説している。



ISBN978-4-86163-186-3
C3052(2012年3月)

住宅における熱・空気環境の研究

—快適・健康な省エネ住宅の実現を目指して—

吉野博 編著 A 5判 486頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

現代の低酸素社会にあっては、サステナブルな建築環境の創造が求められている。住宅建築に関して言えば、快適で健康な環境を、最小のエネルギーでいかにして実現していくかということが大きな課題である。

住宅の暑さ寒さをどう凌ぐのかといった空気環境の問題、そのような環境を最小のエネルギーで実現するかを問う省エネルギー問題を根本に、住宅のエネルギー消費、断熱・気密化、気密性と換気、室内湿気環境など多方面の条件から、住宅内環境を考える。

40年間におよぶ建築環境学研究の成果をまとめた、次世代の住宅環境を考える一冊。



ISBN978-4-86163-189-4
C3052(2012年3月)

建築遺産 保存と再生の思考

災害・空間・歴史

野村俊一・是澤紀子 編
四六判 540頁 定価3,630円(本体3,300円+税)

東日本震災により歴史的建造物の多くが被災した。被災地では、保存と再生に関わる日常に潜んでいた問題が一気に噴出した。そもそも歴史的建造物は、古くて価値があれば必ずと残するという単純なものではない。さまざまな社会背景や関係者の意志が絡み合い、相矛盾する問題にまみれている。はたして、被災地では何が起きているのか?歴史的建造物の存在意義とは一体なにか?

建築史学・文化財保存学・建築論・地震工学・日本史学・日本思想史学・美術史学の専門家や建築家とともに、歴史的建造物の保存と再生に関わる問題について議論した、連続シンポジウムの記録。過去から未来へ建築と都市をデザインするための、六つのキーワード。

【日本図書館協会選定図書】



ISBN978-4-86163-208-2
C3053(2013年2月)

ロケットターボポンプの研究・開発

—35年間の思い出—

上條謙二郎 著 A5判 156頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

ロケットターボポンプは、機械工学分野の中でも特に際立つハイテク技術から成り立っている。現在も H-2A ロケットのエンジンとして改良使用されているロケットターボポンプ技術は、どのように始まり、どのように磨かれてきたのか。

わが国初の大型科学プロジェクトとなった H-1 ロケット計画や、失敗の連続で困難を極めた H-2 ロケット計画等、国産ロケットプロジェクトにエンジン (LE-5、LE-7 エンジン) の研究開発で携わった著者が、現場で経験した数々の問題発生とその克服、プレイクスルーの過程を詳細に描く。



ISBN978-4-86163-239-6
C3051(2014年2月)

地下資源文明から生命文明へ

人と地球を考えたあたらしいものづくりと暮らし方のか・た・ちーネイチャー・テクノロジー

石田秀輝・古川柳蔵 著

B5判 164頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

東日本大震災を通して、限られたエネルギーや資源で心豊かに暮らすとはどういうことなのか、私たちは今、改めて真剣に考えねばなりません。豊かであることと地球環境制約は両立するのでしょうか？ 答えはいエスです。ただ、そのためには、現状を基盤とした足し算や引き算の思考 (フォアキャストینگ思考)、から、足場そのものを変えて考える (バックキャスト思考) が求められます。そして、そんな暮らしを支えることができるテクノロジー、それが自然と決別しない産業革命 (生命文明) を生み出す「ネイチャー・テクノロジー」なのです。



ISBN978-4-86163-248-8
C3061(2014年7月)

菜の花サイエンス 津波塩害農地の復興

東北大学菜の花プロジェクト 編

A5判 130頁 定価1,750円(本体1,500円+税)

東日本大震災による津波で塩害を被った農地を、「菜の花の科学」で復興に導く。微生物学・土壤肥科学・環境影響評価・植物遺伝学・環境動態解析・育種学など多領域の研究者たちが一丸となって取り組んだ共同プロジェクトの軌跡。世界で唯一、アブラナ科植物の遺伝子銀行を持つ東北大学大学院農学研究科が、最先端の科学の領域からのアプローチで被災地復興をめざし、適性品種の選定から土壌調査、栽培・収穫、そして被災地を救う資源循環システムへの活用まで、「菜の花の力」を活かした再生への道を示す。



ISBN978-4-86163-270-9
C3062(2017年3月)

水産遺伝育種学

中嶋正道・荒井克俊・岡本信明・谷口順彦 編
B 5判 256頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

遺伝学を主として、生態学や分類学、生理学、統計学、生殖・発生生物学など多様な領域をベースにした水産分野初の入門書。はじめに日本と世界における水産生物の育種研究の歴史、遺伝学の基礎、遺伝マーカー、集団遺伝、量的遺伝など、遺伝育種学の基礎について解説し、これらの技術の応用研究と実例を紹介する。染色体操作と育種、連鎖解析とQTL、遺伝資源の利用と保全、選抜育種の実例、交雑と育種など、事例を示して述べ、おわりに最新の育種技術としてゲノム情報の育種への利用、遺伝子操作技術に触れる。水産、海洋系の大学の学部・学科等において水産遺伝育種学を志す学生を対象とし、同分野の基礎的な学習を助ける。



ISBN978-4-86163-283-9
C3052(2017年9月)

日本の省エネルギー技術の中国地域暖房への活用 日中対訳

吉野博 監修/中国地域暖房省エネルギー研究会 編著
A 5判 284頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

中国の都市住宅の省エネルギーと住宅・都市の環境改善を進めるためには、各住戸のエネルギー消費の実態及び供給システム(黄河以北は地域暖房が普及)の効率、運用実態を把握した上で、その改善策の提案が肝要である。

本書では4年にわたる中国東北地域での計測データに基づき、需要家側、供給側双方の省エネ方策を提案。エネルギー管理システム、高効率熱源システム、計量・課金システム、ESCO事業等、主に日本の技術・経験を活用した省エネ方策を提案することで、中国をはじめ東アジア諸国での事業展開について提示する。

本文および図版もすべて日中対訳形式で表すことで、日中両国の研究者・学生、実務者に訴求する内容となっている。



ISBN978-4-86163-282-2
C3062(2017年11月)

漁業科学とレジェームシフト 川崎健の研究史

川崎健・片山知史・大海原宏・二平章・渡邊良朗 編著
A 5判 534頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

漁況調査からはじまり、漁業科学、漁業政策へと幅を広げた故・川崎健の水産海洋学。半世紀以上にわたるその研究と多大な業績を克明に振り返り、人間と天然資源との関わりを思考しつづけた川崎の理論と理念を再評価する。現役研究者4名の最新研究も盛り込み、漁業科学・資源生物学研究のこれまでとこれからを描き出す。



ISBN978-4-86163-296-9
C3054(2018年6月)

超並列電子ビーム描画装置の開発 集積回路のデジタルファブ리케이션を目指して

江刺正喜・宮口裕・小島明・池上尚克・越田信義・菅田正徳・大井英之 著
A 5判 236頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

フォトマスクの転写ではなく、電子ビームでウエハ上に直接パターンを描画する方法は、集積回路の多品種少量生産や開発に適している。これは設計データから直接に試作品や製品を作る「デジタルファブ리케이션」と呼ばれる技術である。しかし集積回路の微細化・高密度化の進歩により、今では直径300mmのSiウエハ上に1兆(10¹²)個ほどのトランジスタが形成されており、このように膨大な数の描画を行う必要がある。我々は多数の電子ビームを集積回路で制御するアクティブマトリクス超並列電子ビームでこれを可能にすべく、そのプロトタイプを実現する研究を10年以上進めてきた。1万本の電子源を開発し、これを用いた超並列電子ビーム描画(Massive Parallel Electron Beam Write (MPEBW))装置を設計・試作し、そのプロトタイプによる実証実験を行った。本書はその成果をまとめたもので、将来の実用化につながることを期待する。



ISBN978-4-86163-321-8
C3050(2019年3月)

科学技術の内と外

新妻弘明 著 四六判 198頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

科学技術はこれまで社会の著しい発展を促す一方で、いろいろな災禍や弊害ももたらしてきた。科学技術の進展は科学技術の内側にいる人と外側にいる人との相互作用によって促されているが、科学技術に関する内外の認識の違いと隔たりは意外に大きいと著者は指摘している。それは外にあっては、科学技術に対する誤解と認識不足であり、内にあっては自分自身の研究開発成果や科学技術者としての自分の役割と社会的影響力に対する認識不足である。そしてそれらが様々な社会的問題を引き起こしている。このことを踏まえ、本書はさらに、研究開発の現場や科学技術教育の実態、科学技術者が置かれている現状、科学技術者の内面と犯しやすい過ちなどについて分かりやすく述べるとともに、人としての科学技術者のあり方を問い直している。



ISBN978-4-86163-312-6
C3053(2019年9月)

ロボティクスの幾何学的基礎 第2版

J. M. Selig 著/内山勝 訳
A 5判 590頁 定価9,900円(本体9,000円+税)

ロボットの運動を記述する学問について、基礎から論じる。言うまでもなく、ロボットの運動は、第1次近似として、剛体系の運動として記述される。したがって、3次元ユークリッド空間内の1個の剛体の運動が定式化の出発点となる。本書では、そのためのツールとして、リー群、リー代数を採用し、さらにスクリュー理論、クリフォード代数、およびスタディの旗多様体が詳述される。本書が目指すところは、代数幾何学と作業機械学との基礎面での結び付きであり、したがって、その主題は、まさに学際的と呼ぶに相応しい。



ISBN978-4-86163-345-4
C3058(2020年6月)

ウランの化学 (I) 基礎と応用

佐藤修彰・桐島陽・渡邊雅之 著

A 5判 190頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

福島原発事故とともに、原子力利用の是非が問われている。本書では、燃料として使われるウランの化学について、金属および各種化合物の製造、物理的・化学的性質といった基礎を丁寧に紹介する。さらに、応用として原子燃料サイクルにおけるフロントおよびバックエンド化学プロセスを、そして福島原発事故で発生した燃料デブリの性質、実用されている工業製品の性質について解説し、ウランの化学の基礎と原子力利用との関わりについて学ぶ。



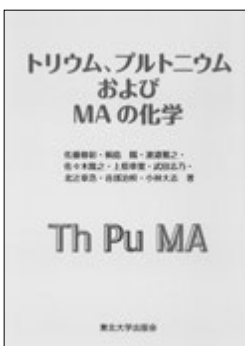
ISBN978-4-86163-356-0
C3058(2021年3月)

ウランの化学 (II) 方法と実践

佐藤修彰・桐島陽・渡邊雅之・佐々木隆之・上原章寛・武田志乃 著

A 5判 220頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

『ウランの化学 (I) 基礎と応用』(佐藤修彰、桐島陽、渡邊雅之著/2020年)の続編として、本書は方法編と実践編からなる。まず、ウランの取扱に関わる法規制や施設・設備、種々の実験方法の他、環境および生体中のウランについて紹介する。実践編では、ウランを使用する高温反応や分離精製、放射線計測などに関する実験例を紹介し、ウランの取扱や実験について学ぶ。



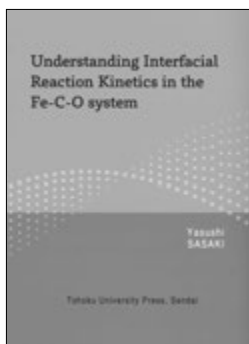
ISBN978-4-86163-370-6
C3058(2022年3月)

トリウム、プルトニウムおよび MA の化学

佐藤修彰・桐島陽・渡邊雅之・佐々木隆之・上原章寛・武田志乃・北辻章浩・菅部治幹・小林大志 著

A 5判 266頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

核燃料物質としてトリウム(第1部)やプルトニウム(第2部)の化学について、固体化学や溶液化学といった基礎から、実験方法、評価方法、燃料サイクルなど応用について詳細に述べる。さらに、第3部としてMA(Np, Am, Cm, Pa)についての固体化学や溶液化学を紹介する。本書とともに既刊のウランの化学(I)、(II)と合わせて、核燃料化学の基礎と原子力など応用や、環境との関わりについて学ぶ。



ISBN978-4-86163-376-8
C3057(2022年7月)

Understanding interfacial reaction kinetics in Fe-C-O system

佐々木康 著 A5判変型 英文 142頁
定価3,520円 (本体3,200円+税)

反応速度論は反応速度係数を求めるのが目的でなく、反応機構を知るための重要な化学分野である。界面反応の特性は、均一反応の特性とは異なるため、界面反応を研究するには特有の方法が必要である。本書は界面反応機構を速度論の観点から説明したもので、界面反応速度論の根底にある物理的意味を明らかにすることに重点を置いた。I部では界面反応速度論の基本的考え方を説明し、II部では応用例としてFe-C-O系の各種反応を取り上げ、異相反応速度論の基礎概念が実際の反応の機構解明にどのように適用されるかを示した。



ISBN978-4-925085-14-4
C3071(1999年3月)

ミケランジェロの世界像

システィナ礼拝堂天井画の研究

田中英道 著 A5判 384頁 定価3,520円(本体3,200円+税)

システィナ礼拝堂の天井に描かれたミケランジェロの宗教画に関する研究成果の集大成。天井画の製作順に7章から成り立つ。第1章では天井画全体の図像プログラムを初めて体系的に分析した。個々の人物像の特徴の形態的な関連を詳細に解き明かし、旧約聖書にもとづきながら、ミケランジェロが四大元素を中心に当時の自然観を擬人像という形で形象化させたことを明らかにしている。多年の現地調査にもとづいて、国際的評価の高い著者が、修復後初めて体系的に考察した注目の書。図版多数。



ISBN978-4-925085-47-2
C0075(2002年5月)

カシタス湖の戦い

—エクセレンスを求めた一人の男の物語—

ブラッド・アラン・ルイス 著/榊原章浩 訳
四六判 308頁 定価1,980円(本体1,800円+税)

本書は、ルイスとエンクイストという二人のアメリカ人が、1984年のロサンゼルスオリンピックのボート競技で金メダルを取るまでの修練の物語である。訳者は、東北大学ボート部に携わり、できるだけ多くのボート部員にこの感激を味わっていただきたいと考え翻訳の労をとった。何らかの目的を正確に成し遂げたときの歓喜は、一般の人々も十分共鳴を覚えるであろう。



ISBN978-4-925085-79-3
C0075(2004年2月)

エール大学対校エイト物語

ステファン・キースリング 著/榊原章浩 訳
四六判 238頁 定価1,980円(本体1,800円+税)

エール大学ボート部員であったキースリングが、卒業してまもないころに学生時代を回想して本書を執筆した。伝統を背負った対校エイトに選ばれるため、米国最古の伝統を誇るハーバード大学との定期戦に勝つために学生生活の全てを懸けて戦う。未経験者から一流選手へとクルーの仲間とともに成長していく過程が、ユーモアあふれるタッチで描かれている。ボート選手の味わう極限の痛みと無上の歓喜について、知性に対して見失われてしまった身体活動の意義について、エクセレンスの追求について哲学的考察が随所にちりばめられている。



ISBN978-4-86163-016-3
C3071(2005年11月)

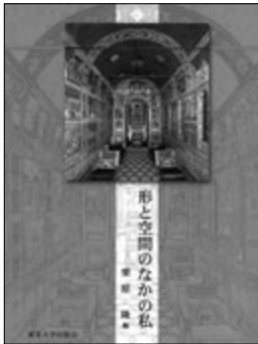
システイーナ礼拝堂天井画

—イメージとなった神の慈悲—

若山映子 著 B 5判 2分冊箱入

本篇310頁 図版・資料篇90頁 定価5,060円(本体4,600円+税)

ミケランジェロが制作したシステイーナ礼拝堂天井画に関する書籍は数限りない。しかしそれらのどれもが解明できなかった壮麗なそのフレスコ画の構想を本書は読み解く。ユリウス二世の教皇庁が模索していた全世界への布教計画と各国間の和平確立、教会の刷新による新しい黄金時代の開幕への期待と、民族、宗教、性差という垣根を越えて全人類に向けられた神の憐れみと慈しみのメッセージが、絵画のあらゆる表現手法を駆使してそこには表わされている。本書のためにヴァチカンの写真技師が撮影した十二点のカラー写真を含む図版集を伴う。



ISBN978-4-86163-101-6
C3070(2008年4月)

形と空間のなかの私

栗原隆 編 A 5判 336頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

「空間」は生活空間や都市空間、演劇空間や言説空間など多様であり、外部空間だけでなく、内部空間もある。二次元の絵画にさえ空間が想定され、空間認知は、知の成り立ちの根源でもある。「形」も、見えるものにはすべて形があり、言葉で表現できるとは限らないだけでなく、「形」の把握には、視覚はもとより触覚の働きも必要である。「空間」や「形」は、現象と理念とを繋いでいる。本書は、空間認知や形の把握を通して、「私」の成り立ちを解明し、さらには従来の主知主義的な人間像の枠を超えようとする、意欲的かつ斬新な試みである。



ISBN978-4-86163-139-9
C1070(2010年03月)

都市を描く—東西文化にみる地図と景観図—

佐々木千佳・芳賀京子 編

A 5判 284頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

古代ヨーロッパ・近世イタリア・近世日本を映し出した、自己と他者による「共同体イメージ」とは？

地図と景観図の様式と役割に着目しながら、そこに描きだされた様々なメッセージや制作者の意図を丁寧に読解。そこに、土地の景観を視覚化することで空間を象徴し、住まう人々の心を顕在化させる、地図と景観図が表わす「都市の姿」が浮かび上がる。

通常の「絵画」の領域には入りきれない特殊なジャンルを取り上げた、意欲的な論考5篇を収録。豊富に収録した図版写真を手掛かりに、古今東西の地図・景観図の世界にいざなう。

【日本図書館協会選定図書】



ISBN978-4-86163-143-6
C3070(2010年03月)

空間と形に感応する身体

栗原隆・矢萩喜従郎・辻元早苗 編
A 5判 398頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

私たちに〈身体〉があるからこそ、身体と身体の間も可能になるとともに、自らの〈身体〉や〈主体〉の枠を超えて、〈外〉だとされる〈空間〉に帰入することさえ出来る。そうした「感応」装置として、身体を捉え返した上で、たとえば、「即興」や「修行」、さらには「美の感得」などを通し、〈主体〉を超える機序が解明される。

デザイン、舞踊、彫刻、演劇などの専門家による実験的な知見に、美学・美術史、哲学の研究者による理論的な解釈を織り交ぜ、身体表現の美を総合的に捉え直す。



ISBN978-4-86163-198-6
C0075(2012年9月)

弓聖 阿波研造 [増補改訂版]

池沢幹彦 著 四六判 282頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

明治13年に宮城・石巻市に生まれ、仙台藩雪荷派弓術を学び、旧制第二高等学校・東北帝国大学で多くの弓人を育てた阿波研造範士。研造の唱えた「人間を造る」弓道は、門下の一人、ドイツ人哲学者オイリン・ヘリゲル著の「弓と禅」をとおし、弓道の世界普及への礎となった。本書は、不世出の弓道家である阿波研造の生涯と思想を、現在の視点に立って伝記に纏めたものである。附録として、研造が遺した興味深い文言を読む「阿波研造の遺文」と、仙台藩雪荷派の弓人の歴史を平塚鞆右衛門重次から記した「仙台藩雪荷派」を巻末に収録。今によみがえる“弓聖”の物語。増補改訂版では「補遺」を収録した。



ISBN978-4-86163-262-4
C0075(2015年8月)

弓道教室講話

池沢幹彦 著 四六判 252頁 定価2,970円(本体2,700円+税)

本書の内容は、我が国の弓道の歴史の概観から始まる。次に歴史的にわが国に大きい影響のあった中国の射について、昔の弓の名人の伝記と射法が述べてある。続いて日本の名人達の物語と、現在より遙かに高水準な武士の射芸の記録の一端が紹介してある。さらに、射法を教える短歌と、弓の特性に関した俳句について学ぶ。最後に、弓を引く人の心構えに関して、弓道に特有な言葉遣いや表現法と、弓道と禅仏教の関わりについて述べてある。



ISBN978-4-925085-15-1
C3098(1998年12月)

フォンターネの詩

藤田賢 著 A 5判 264頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

19世紀後半のドイツで最も重要な作家の一人、テオドール・フォンターネ。日本ではほとんど知られていない彼の主な活動分野の一つである「詩」について、訳詩・詩論を合わせ「詩人」フォンターネの全体像を解明する。時代、社会、特殊な言語表現の枠を超えて普遍的な詩境、万人共通の心情や感懐が巧みに表現されている作品の他、晩年の心境や見解を独特のトーンとリズムによって吐露した作品も紹介されている。



ISBN978-4-925085-20-5
C3098(1999年11月)

魯迅の仙台時代—魯迅の日本留学の研究—

阿部兼也 著 A 5判 414頁 定価7,150円(本体6,500円+税)

魯迅は、中国人を人種的に強化するため医学を選び、仙台医学専門学校に留学したようである。同時にそれは東京の留学生社会からの脱出であり、生身の日本に対する初めての接触でもあった。そこで魯迅は、徴兵制や凶作飢餓対策などを実見し、明治維新で一応の近代化を果たした日本の姿を体験する。藤野先生による解剖学の指導により、近代的学術の本格的な研鑽に励み、人種の強化とは誤認であり、学術とは中国よりも大きい存在であることを知った。魯迅はその世界認識を、中国民衆に知らせる使命感に燃え、医学から文学へと転身したようである。



ISBN978-4-925085-26-7
C1095(2000年1月)

文学的思考へのいざない

大河原忠蔵 著 A 5判 270頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

日常的思考の中に文学的思考を取り入れて生きることにより、ゆとりある人生を送ることができる。本書はそれを提案している。私たちが挫折したとき、人生にはこういう文学的な場面あるいはドラマもあるのだと考える。ドラマとなれば、それを成り立たせている矛盾や葛藤があるはずだ。それをそのまま受け取ればいい。これが文学的思考であり、マイナスが文学性を運びプラスに変わっていく。



ISBN978-4-925085-88-5
C1095(2004年6月)

阿部次郎とその家族—愛はかなしみを超えて—

大平千枝子 著 四六判 338頁 定価2,410円(本体2,191円+税)

「かなしみを超える愛」——父と母の隠された「真実」を追い求め、そして姉と弟の稀有な姿をとどめおくために、渾身の力を込めた畢生の書。結婚以前の父次郎と母つねを襲った忌まわしい「事件」とはなにか。家族のその後を運命づけるこの事件を中心に据え、成長する子供たちのさまざまな姿を通して、家族の「愛とかなしみ」の絆が解き明かされていく。喜び、そしてかなしむ「素顔の」阿部家のひとびとによって、人間の「真実」が浮かび上がってくるだろう。『三太郎の日記』執筆の真の動機がいまはじめて明らかになる。



ISBN978-4-86163-008-8
C3098(2005年5月)

多元的文化的論理—新たな文化学の創生へ向けて—

原研二・佐藤研一・松山雄三・笹田博通 編
A 5判 566頁 定価5,500円(本体5,000円+税)

文化研究の多様化が進む今日の状況にあって、錯綜した文化の姿を全体的・根源的に解明すべく、東北大学大学院文学研究科ドイツ文学研究室、日本ヘルダー学会、カッシーラー遺稿集研究会、十八世紀ドイツ文学研究会、仙台ゲート自然学研究会等に所属する研究者が結集し、ドイツ文学、哲学、美学、比較文化論、教育学(人間形成論)等の視点から「多元的文化的論理」を多角的・重層的に追求した論文集。様々な学問分野が「新たな文化学の創世へ向けて」連帯し、専門領域の枠を超えた学際的研究成果を公表してゆく、ひとつの画期的な試み。



ISBN978-4-86163-040-8
C3097(2007年2月)

『西遊記』資料の研究

磯部彰 著 B 5判 498頁 定価5,940円(本体5,400円+税)

『西遊記』の歴史は古く、唐初の伝説に由来する。それから約1000年、伝説から簡単な語りもの、そしてきし絵入りの長編小説と物語はふくらみ、人々を魅了しつつづけて来た。『西遊記』誕生まで、各時代の密接した関係を持つ資料や作品を、宋代から明末清初まで時代順にならべ、それぞれの資料や作品を持つ特徴を導き出したのが本書である。敦煌出土絵画や絵巻、または屋根の飾り瓦まで見すえ、研究者も見たことがないような資料を紹介しつつ、豊富な図版によって絵画的視点から『西遊記』発展のあしあとをたどった研究書と言える。



ISBN978-4-86163-056-9
C0095(2007年7月)

回想 東北帝国大学—戦中戦後の文科の学生の記—

原田隆吉・原田夏子 著

四六判 264頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

戦中戦後の激動期に東北帝国大学学生として過ごした二人の著者の勉学の様子、有名教授や中国人留学生との人間的交流など、当時の学生生活をヴィヴィッドに描いた回想記を中心に臨場感豊かに綴られている。混乱期の帝国大学に籍を置いた学生達の豊かな精神生活の軌跡、内面的向上心の清々しい雰囲気横溢しており、それがゆえに、今日の大学で学問を目指す多くの学生のみならず、物質的な豊かさには事欠かない現代を生きる読者にとっても時代を超えた大切な何かを語りかける一書である。



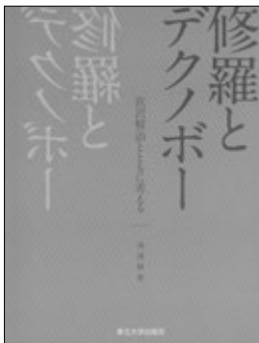
ISBN978-4-86163-087-3
C3090(2008年3月)

ポストコロニアル批評の諸相

岩田美喜・竹内拓史 編

A 5判 312頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

〈ポストコロニアル批評〉は今や、政治学・社会学・文学など多様な学問領域で様々に使われ、全てを飲み込む茫漠としたことばになってしまっている。本書は、この巨人ガルガンチュワのような概念に新たなカッティングを与えるべく書かれた、人文科学の分野における若手研究者たちの論文集である。西洋演劇のジェンダー・トラブル、〈標準英語〉の政治性、革命思想家と極右ナチス政権の意外な関係、〈琉球〉のイメージと中国文学の間テクスト性、クレオール文学運動とその未来など、〈ポストコロニアル〉を軸に人文科学の多様な学問成果を結集した一冊。



ISBN978-4-86163-170-2
C1095(2011年10月)

修羅とデクノボー—宮沢賢治とともに考える—

滝浦静雄 著 A 5判 308頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

哲学者による宮沢賢治の世界への案内である。初期の短歌から詩および文学、さらには書簡にまでおよぶ賢治の生涯の作品が丹念に分析・解釈され、その核心が、孤高の知を目指す「修羅」とすべてを受け容れる「デクノボー」との間の格闘の所産として捉えられる。「崇高」と「ディオニュソス」という概念を用いて賢治のコスモロジー(=宇宙観)に新たな光を当てていく著者ならではの試みによって、文学的絶頂を極めんとして「崇高」を目指した賢治の営為が、陶酔と没落の「ディオニュソス」の祭祀と不可分であったことが、すなわち賢治文学の輝きが人間の深い悲しみの受容と共にあったことが、明らかになる。著者の賢治解釈を通して読者は同時に哲学の世界にも導かれて行くことであろう。



ISBN978-4-86163-182-5
C3087(2012年2月)

『三合語録』における満洲文字表記 モンゴル語の研究

スチンバト 著 A5判 552頁 定価10,670円(本体9,700円+税)

言語は様々な変化を被って様々な形跡を残しながら独自の歴史を築く。モンゴル語に関して、『元朝秘史』に代表される中世モンゴル語の言語的特徴はほぼ確定されているが、近代に入って、時代的に、また地域的にどのような変化を被って現代に至ったのか、その言語状態の詳細は不明である。本書は、同時代(19世紀前半)に属するモンゴル語の教科書である『三合語録』の満洲文字表記モンゴル語を対象に、各テキストの比較、言語学的検討、文献学的考察といった実証的なプロセスによって、その満洲文字表記の性格と、「口語」の実体を明らかにした基礎研究の一冊。



ISBN978-4-86163-238-9
C3098(2014年2月)

「周縁」のドイツ語文学

—ルーマニア領ブコヴィナのユダヤ系ドイツ語詩人たち—

藤田恭子 著 A5判 480頁 定価7,260円(本体6,600円+税)

現在のウクライナとルーマニアの国境にまたがるように位置する、旧ハプスブルク帝室直轄領ブコヴィナ。当地に生まれ、20世紀の激動を理不尽に負われ、政治的にも文化的にも「周縁」にいることを強いられたパウル・ツェランらユダヤ系詩人たちは、過酷な状況とどのように対峙し、その苦闘をいかに文学的表象へと結晶させていったのか。多重的な意味で「周縁」に位置づけられた彼らの文学世界を照らし、ドイツ語による文学の営みという観点から描かれる新たな地図に、ブコヴィナの存在を書き入れようとする試み。

【第13回日本独文学会学会賞(日本語研究書部門)受賞】



ISBN978-4-86163-276-1
C3098(2017年7月)

ヴィルヘルム・ミュラーの生涯と作品 『冬の旅』を中心に

渡辺美奈子 著 A5判 308頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

シューベルトの連作歌曲『冬の旅』は、暗い情趣をたたえた名品として世に知られるが、その詩を書いた詩人ヴィルヘルム・ミュラー(1794~1827)の名は、ほとんど忘れ去られたままと言っても過言ではない。本書は、作曲家と同様、ナポレオン戦争前後の困難な時代を誠実に生き抜いた詩人の生涯を丹念にたどりながら、伝記的事実がどのように詩句に移し換えられ、さらに美しい歌曲へと昇華されていったかを綿密に読み解く、わが国初の本格的なミュラー研究である。『冬の旅』の背後にある深い真実が、今ようやく明らかとなる。



ISBN978-4-86163-288-4
C3087(2018年2月)

パーニニが言及するヴェーダ語形の研究 —重複語幹動詞を中心に—

尾園 絢一 著 A 5判 274頁 定価4,400円 (本体4,000円+税)

古代インドのパラモン教聖典「ヴェーダ」(紀元前1200年頃～)とその言語(古インドアーリヤ語、サンスクリット)は、インド文献学、インド・ヨーロッパ比較言語学における第1級の資料である。他方、パーニニ(紀元前4世紀)が残した最古のサンスクリット文法は、近代言語学の成立に大きな影響を与えた。本書はインド・ヨーロッパ語比較言語学、ヴェーダ研究、パーニニ文法研究の最新の成果を取り入れ、パーニニが念頭においていた言語は何かという長年の課題に取り組む。重複語幹動詞に焦点を当て、ヴェーダ語形とパーニニ文法の規則とを詳細に照合・検証した労作。



ISBN978-4-86163-314-0
C3095(2018年10月)

一九四〇年代の〈東北〉表象 文学・文化運動・地方雑誌

高橋秀太郎・森岡卓司 編

A 5判 270頁 定価5,500円 (本体5,000円+税)

戦中から戦後へと移り変わる激動の時代であった1940年代。この激動期の〈東北〉には、文化人を含む多くの人たちが行き交うことで生まれた、多彩な文化事業、文学活動が確認できる。本書は、北海道から新潟までの〈東北〉全域を対象とし、各地で発信された、高村光太郎、吉本隆明といった著名な文学者の作品やこれまで詳細がほとんど明らかにされていなかった地方文学雑誌など幅の広い語言説を取り上げ、それらの論述を緻密にたどりながら、1940年代の〈東北〉表象の実質と可能性を明らかにするものである。



ISBN978-4-86163-323-2
C3087(2019年2月)

ナムイ語文法の記述言語学的研究

西田文信 著 A 5判 266頁 定価8,250円 (本体7,500円+税)

本書は中華人民共和国四川省涼山彝族自治州冕寧県連合郷で話されているナムイ語ゾロ(冕寧)方言を対象言語としたショートグラマーである。四川省西部の山岳地帯は川西民族走廊と称され、この地域に分布するチベット=ビルマ系諸言語を川西走廊諸語と呼ぶ。ナムイ語は川西走廊諸語の一つであり話者人口は3,000人とされている。本書はナムイ語の全体像を解明することを目指し、歴史的背景や社会言語学的背景も含め可能な限り多くの現象について触れつつ記述を行った。本書の構成は文法記述、親族名称一覧、テキスト、語彙集となっている。

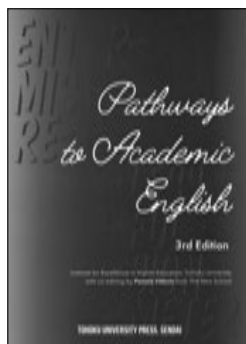


ISBN978-4-86163-340-9
C3081(2020年3月)

日本語初級から学ぶ日本文化

東北大学日本語教材開発グループ 著
B5判 102頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

日本語初級学習者のための教科書。日本語を身につける上で日本文化を学ぶことが重要であるという見地から、日本の社会慣習や伝統文化についての28のトピックを取り上げている。各課では、平易な読解文を提示するとともに、学習者の活発なコミュニケーションを促し、相互の文化交流を可能にするタスクを設けている。日本語初心者は、本編の前の「ウォームアップ」編で、基本語彙を学びつつ読解の準備をすることができる。豊富なカラー図版、「キーワードの漢字」コーナー、Web上の補助教材も、利用者の学習意欲、学習効果を高めるものである。



ISBN978-4-86163-375-1
C3082(2022年3月)

Pathways to Academic English 3rd Edition

東北大学高度教養教育・学生支援機構 編
A4判 120頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

英語を使った考察・発表・執筆の力を確実に身につけるために、大学初年度学習者向けに作成された実践的テキスト。



ISBN978-4-925085-96-0
C3039(2005年2月)

国境を越える名誉と家族

フランス在住モロッコ移民をめぐる「多現場」民族誌

渋谷努 著 A5判 190頁 定価3,520円(本体3,200円+税)

著者は、モロッコからフランスに移民した人達を調査するために、移住先のフランス都市部と出身地のモロッコ農村・都市部で現地調査をおこない、彼らの生活と両者を結ぶ移動の実態とを民族誌的に記述した。さらにグローバル化する現代世界の中の移民とはどのようなものなのか、また「移民」の文化はどのような変容を遂げるものなのかを考察した。

フランスのイスラーム教徒は、イスラーム原理主義との関連で話題とされることが多いが、これまでにはあまり知られていない。本書では、フランスに住むモロッコ移民たちの様々な生活実践を興味深く紹介している。



ISBN978-4-86163-024-8
C3010(2006年4月)

プラトン形而上学の探求

—『ソフィステス』のディアレクティケーと秘教—

松浦明宏 著 A5判 250頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

古代ギリシア哲学者プラトンのアイデア論は西洋哲学全体に大きな影響を及ぼした。だが、そのアイデア論はプラトンの著作に明記されていることを要約したものであり、プラトン自身は自分が最も大切にしていたことを著作の中には書かなかったと述べている。となると、著作に書かれているアイデア論にはどういう意味があり、プラトンは何を最も大切にしていたのが問題になる。本書では、『ソフィステス』に見られるディアレクティケーを手がかりにプラトンの秘教を探求し、プラトンが最も大切にしていたことを明らかにすることを試みる。



ISBN978-4-86163-023-1
C3012(2006年5月)

無私と人称 二人称生成の倫理へ

山本史華 著 A5判 294頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

「私」は自我や自己と同じなのか。「私」は印欧語に翻訳できるのか。「私が無い(無私)」とはどのような事態か。なぜ西田幾多郎、和辻哲郎、森有正らは無私に価値をおくのか。日本語はいかなる特徴をもつ言語で、それらの特徴は無私とどう関係するのか。

本書は、無私からの人称生成/消失という観点から伝統的な自己/他者論を検討し直し、人称論の開拓を目指す。言葉、記憶、死に絡めて人称を論じ、最後は倫理の問題へ。現代の脱人称化した責任を批判し、犯罪に対峙する倫理学を提示する。2003年度日本倫理学会和辻賞受賞論文所収。



ISBN978-4-86163-044-6
C3095(2007年2月)

再啓蒙から文化批評へ

—大江健三郎の1957～1967—

王新新 著 A5判 262頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

大江健三郎は日本人の生存状況の思考に身を置き続けている。彼は戦後日本の社会危機と文化危機の申し子であり、危機を打破し、新生を呼びかける啓蒙者と批評者でもある。本論では、初期大江文学の問題意識及びその根底にあったものに注目し、それを再啓蒙意識、自己啓蒙意識と文化批評意識のようにまとめ、一中国人の日本文学研究者という立場から大江文学を解説しようと試みた。そして、文学の独立性を保ち、時代を表現しながらも時代との緊張関係を保つことができた大江文学の考察を通して、「文以載道」の伝統をもっている中国文学に示唆を与えようとする。



ISBN978-4-86163-047-7
C3022(2007年3月)

中国宋一明代における婚姻の学際的研究

勝山稔 著 A5判 346頁 定価3,960円(本体3,600円+税)

現在日本では一般的な存在となった結婚紹介業。しかし中国では約千年も前から普及し、常軌を逸した高額な紹介料と杜撰な縁組みでトラブルが続発、一国を揺るがす大きな社会問題を生み出していた。人々は紹介業者に対して「銭の亡者」「嘘つき権化」とありとあらゆる罵詈雑言を浴びせながらも、なぜ紹介業者にすがりつき、良縁を無心し続けたのか？本書は、従来歴史研究に使用されなかった白話小説という文芸作品を縦横に駆使し、結婚紹介業(媒婆)を介して当時の婚姻実態を精緻に分析した学際的研究論文集である。



ISBN978-4-86163-045-3
C3036(2007年6月)

民族の幻影—中国民族観光の行方—

高山陽子 著 A5判 306頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

なぜ人は「ほんもの」を求めるのか。

観光地が「ほんもの」と見なされるには、様々な条件が必要である。現代中国においてその基軸となるのは、「歴史文化」と「愛国主義」である。この基軸は固定されているのではなく、「経済発展」「民族風情」などの新しい基軸を取り入れつつ、時代背景によって変化してきた。本書は、この価値観の変遷と、観光地が「ほんもの」になるプロセスを検証する。広大な中国の歴史と民族を、豊富な写真を用いながら読み解く意欲作。



ISBN978-4-86163-046-0
C3087(2007年6月)

金代字書の研究

大岩本幸次 著 A5判 324頁 定価3,960円(本体3,600円+税)

中国古代文化研究という膨大な領域の中において、文字それ自体を著述の対象とする、いわば古代における言語研究ともいべき小学の分野には、研究成果の蓄積がなお十分でない部分も多い。中でも金代の小学資料は特に研究の進展にとぼしい部類に属しており、その検討の必要性をこれまでも指摘されながら、資料的制約も影響して内容のいまだほとんど明らかでないものさえある。本書はそういった未調査の資料も含めて調査・分析を行い、個々の資料の構造や特徴、また資料相互の関連を具体的に明らかにしようとするものである。



ISBN978-4-86163-055-2
C3021(2007年8月)

戦国時代の百姓思想

永井隆之 著 A5判 270頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

本書は、戦国時代の百姓思想に見られる、民衆(一般の人々)の希求した社会像に注目し、日本史上における戦国時代の意義を再評価する試みである。研究史では、戦国時代の民衆が百姓身分を称して希求した社会とは、彼らが村の自治を通して政府の行政を分担することで自身の富と地位を守ることでできる社会と位置づけられてきた。だが、本書が明らかにしたかかるとは、民衆が村の自治から解放され、政府の行政に依存した諸集団に属して、部分利益を確保し、自由な社会生活を送ることができるといった社会であった。いわば、戦国時代の民衆は理想として近現代的な社会を求めていたのである。



ISBN978-4-86163-102-3
C3036(2008年6月)

韓国は如何に日米両国と関わってきたのか 政治経済・科学技術・理工系教育面のアプローチ

趙承勲 著 A5判 220頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

朝鮮戦争後の悲惨な諸状況下から再出発した韓国が、今日では先進国と肩を並べるまでに成長してきた。何が韓国の近代発展を成し遂げさせたのだろうか。本書は、韓国の近代発展過程を日米韓三国の共生関係という視点からその要因を探っている。日米韓三国の政治経済的な側面を前提に、科学技術・理工系教育(留学)を切り口として、韓国の近代発展過程を分かりやすく解説している。韓国は如何に日米両国と関わってきたのか。本書はその功罪を明らかにし、脱冷戦期、東アジア諸国が共利・共栄していく新たな時代を考える際に参考になる書である。

若出版
助成
手成



ISBN978-4-86163-092-7
C3037(2008年7月)

昭和前期地域教育の再編と教員

「常会」の形成と展開

須田将司 著 A5判 318頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

昭和恐慌から戦後改革期に至る激動の昭和前期，そこに政策と地域現実との狭間に自問しながら実践を構築した小学校教員たちの姿があった。1930年代，常会指導者として部落常会・町内常会に出かけた姿。報徳運動と結びつき学校報徳社・児童常会を創出した姿。1940年代の国民学校令下に学校少年団常会を指導した姿。戦前の「学級常会」「母子常会」を戦後新教育「福沢プラン」へと転用していった姿。本書は，これらの断片を常会の形成と展開という一連の流れに位置づけ，地域・学校・子どもをめぐる教育史実に迫った一冊である。

【第23回石川謙日本教育史研究奨励賞(日本教育史学会)受賞図書】



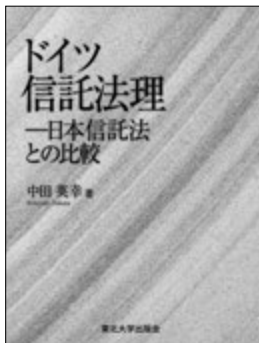
ISBN978-4-86163-099-6
C3037(2008年7月)

日本における単線型学校体系の形成過程

ルーマン社会システム理論による分析

井本佳宏 著 A5判 182頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

日本では久しく教育改革の必要が叫ばれ、教育基本法の改正までもが行われた。しかし教育が劇的に変わる気配は今のところ感じられない。一方で時代の流れという言葉で示される不可逆的・不可避的な変化を教育に関して感じることも少なくない。巷間言われる教育の自主性・自律性とは、人間の思惑を超えた文字通り教育そのものの自律性なのかもしれない。本書ではルーマン社会システム理論の視座から、教育システムの自律的展開の過程として我が国における学校体系の変化を読み解いてゆく。

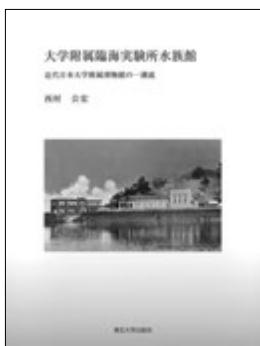


ISBN978-4-86163-103-0
C3032(2008年7月)

ドイツ信託法理—日本信託法との比較

中田英幸 著 A5判 204頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

近年、信託が学会及び実務の注目を集め、平成16年には信託法の全面的改正に至っている。しかし、信託は他の私法制度と異なるものであり、その利用の拡大は他の制度との軋轢を生じさせる。大陸法における信託のあり方を探るため、日本と利用の仕方が類似するドイツ法における信託を研究し、その生成から現代の発展に至るまでの理論及び実務を明らかにした。そこから、大陸法における信託は、受託者への個人的信頼を基礎とした関係を中心となることを主張した。



ISBN978-4-86163-067-5
C3052(2008年10月)

大学附属臨海実験所水族館 近代日本大学附属博物館の一潮流

西村公宏 著 B 5判 304頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

臨海実験所水族館。明治期の三崎に成立し、大正期の浅倉において確立、昭和期に入り瀬戸、厚岸、下田、向島、新舞子、天草など、全国的な展開を見せた大学附属の博物館である。本書では、これらの施設がどのような建築であったのか、また、その背後にはいかなる公開思想が存在したのかを、諸外国の事例も踏まえ、多面的かつ包括的に論じている。近代建築史、大学史のみならず開かれた大学、地域連携など、日本の大学が直面している今日的課題にも示唆を与えてくれる好著である。



ISBN978-4-86163-109-2
C3022(2009年3月)

ローマ帝国とアウグスティヌス —古代末期北アフリカ社会の司教—

長谷川宜之 著 A 5判 274頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

本書は、アウグスティヌスの司教としての活動と役割の解明をつうじて、古代末期社会のあり方に光を投げかける試みである。従来、我が国のアウグスティヌス研究はその神学的・哲学的思想を扱うものが多かった。しかし、本書は社会史の視点からこの偉大なキリスト教徒の実像に迫る。また、ローマ帝国社会の研究として、一人の有能な司教による司教裁判や有力者への請願といった日常の活動と役割に焦点をあて、具体的な叙述をおこなう。1980年代に発見されたアウグスティヌスの書簡などをもとに、彼をとりまく当時の北アフリカの社会状況を描き出す。



ISBN978-4-86163-111-5
C3010(2009年4月)

ヘーゲル 具体的普遍の哲学

吉田達 著 A 5判 216頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

ヘーゲルは人間の有限性を忘れ、まるで神のような視点からすべてを見通す体系を構築した(傲慢な)哲学者なのか? そうではない。彼は、人間の具体的経験につねに忠実であろうとした。それが「具体的普遍」の哲学である。本書は、ヘーゲルの著作のみならず、カント『判断力批判』、プラトン『パイドロス』、さらにはシェリングの1792年の研究帖や『超越論的観念論の体系』を参照することによって、ヘーゲルのいう「具体的普遍」を多角的に浮き彫りにする試み。人間の経験をつらぬく〈ロゴス〉の光と翳をみずえるヘーゲルの思索に迫る。

若出版
手助成



ISBN978-4-86163-154-2
C3036(2011年4月)

介護職の誕生

—日本における社会福祉系専門職の形成過程—

白旗希実子 著 A5判 260頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

現代日本において、新しい職業を必要とする場合、その職業は専門職としての外形を整えなければ、職業足りうる事が難しい。しかし、介護職は専門職化を最終的な目標とはせず、共感的な感情を中核として業務を行うことをその専門性として位置づけた。その結果、介護という職業は、家族の機能に類似するがごとく、介護を行う幅を柔軟に広げ、かつ専門性を高めながらも、従来の専門職モデルとは異なる職業的存在として形成されていった。

本書はこうした介護職の資格制度・専門性・養成制度の形成過程を、各団体の年史・会報等の資料と、数年に亘る社会福祉施設における参与観察のデータによって跡付けたものである。



ISBN978-4-86163-172-6
C3095(2011年9月)

川端康成の方法

二〇世紀モダニズムと「日本」言説の構成

仁平政人 著 A5判 262頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

川端康成に対する高い評価は、戦後において〈日本的・伝統的な作家〉という枠組みとともに成立してきた。このことは、川端をめぐる言説が、今日なおしばしば文化本質主義的な傾向を持ってしまふこととも対応しているだろう。このような状況のもとで等閑視されてきたのは、何よりも川端の文学活動が一貫して二〇世紀モダニズムと深い関わりを有していたということではなかったか。本書は、既成の文学史的評価から離れ、小説と批評双方の詳細な読解を通じて川端文学の方法的な性格を解明するとともに、その「日本」「伝統」言説の論理を新たな視点から分析するものである。

【第29回岡崎義惠学術研究奨励賞受賞】



ISBN978-4-86163-176-4
C3010(2011年12月)

死すべきものの自由—ハイデガーの生命の思考—

信太光郎 著 A5判 206頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

「人間だけが死ぬことができる」。あまりにも有名なハイデガーの命題だが、その問題意識については、これまで曖昧な解釈にゆだねられてきた。人間を本質規定する「死すべきもの」というあり方に、形而上学が長く覆い隠してきた「生命の論理」を探り出すことが、ハイデガーの真の狙いであった。存在、力、時間という各論点をめぐって、形而上学との対決のなかで明らかにされるその論理(ロゴス)は、最終的に人間の「言葉」の可能性を説明するだろう。人間と動物、人間と神という差異へのまなざしのうちに、「言葉をもって生きるもの(ゾーオン・ロゴン・エコノ)」の「自由」を、〈生命性〉の次元に捉えようとするハイデガーの「生命の思考」の展開が、テキストの詳細な読解を通じて明らかにされる。



ISBN978-4-86163-181-8
C3031(2012年1月)

戦争と人道支援—戦争の被災をめぐる人道の政治—

上野友也 著 A 5判 256頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

戦争の被災者は、いつどのように救助されるようになったのか。本書は、赤十字国際委員会の設立から、冷戦終結以降の人道的介入に至るまでの人道支援の歴史を追うことにより、戦争における人道支援がどのように発展してきたのかを解明する。戦争は人間の利害が対立する政治的行為の最たるものである。こうした戦争において、利害を超えて被災者を救済する人道支援が発展してきた条件とはいかなるものであったのか。本書は、戦争が紛争当事者の戦いだけでなく、戦争の被災者を救済するための人道支援機関の戦いであったことも明らかにする。

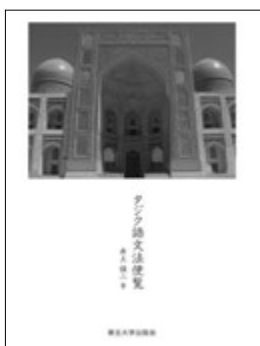


ISBN978-4-86163-174-0
C3021(2012年6月)

奈良仏教と古代社会—鑑真門流を中心に—

富樫進 著 A 5判 326頁 定価3,960円(本体3,600円+税)

本書では鑑真門弟・法進とその庇護者、藤原仲麻呂という2名の人物を中心に、鑑真一門のもたらした護国仏教思想が日本社会に与えた影響を多面的に考察する。法進の著した戒律註釈書を唐仏教「移植」の成果としてとらえ直すとき、そこには稀代の文人政治家・仲麻呂が自らの生き残りを賭して構築した君臣観との接点がかぶり上がる。護国・朝廷の安寧を奈良仏教の本質と考える「国家仏教論」評価に一石を投じると共に、鑑真一門の構築した南都戒壇に大乘菩薩戒という挑戦状を突きつけた平安仏教の旗手・最澄と法進との間に結ばれた確かな紐帯の存在を見きわめる、新たな視点からの古代思想史像構築の試み。



ISBN978-4-86163-195-5
C3087(2012年11月)

タジク語文法便覧

井土慎二 著 A 5判 204頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

かつてソヴィエト連邦を構成していた中央アジアの共和国タジキスタンにおいて現在「国家語」という位置づけを与えられている言語がタジク語である。タジク語は、イランのペルシア語やアフガニスタンのダリー語もその成員である西南イラン語の一員である。本書はタジク語文法の要諦を言語学的に整理した参考書である。

本書では、学習書や入門書とは異なり、タジク語文法の全体像が把握できるようになっている。また、文法項目ごとの章立てや項目間の綿密な相互参照などが施され、学術的利用の便が図られている。

若出版
助成
手助成

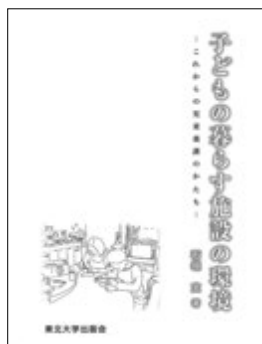


ISBN978-4-86163-197-9
C3040(2012年11月)

鉄の科学史—科学と産業のあゆみ—

初山高仁 著 A 5判 210頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

本書はベックによる大著『鉄の歴史』や中沢護人による『鉄のメルヘン』の成果を継承し発展させたものである。19世紀の後半に登場した大量製鋼法は科学的管理を必要とし、さらには大量の鋼が多用途で使用されることになったことから、用途に適した鉄鋼の性質と製造法を科学的に明らかにする必要性が生まれた。この鉄鋼と関わる諸産業が激変していく中で鉄の科学が進展していく様を詳らかにすることが本書の目的である。そしてこの鉄の科学を通してギブスを代表とする科学者らが産業上の諸問題と関わる姿についても言及し、物理学革命前夜の科学研究の様相をも描き出している。



ISBN978-4-86163-190-0
C3052(2012年12月)

子どもの暮らす施設の環境

—これからの児童養護のかたち

石垣文 著 A 5判 180頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

家庭に代わる生活の場である児童養護施設は、子どもたちの抱える課題の複雑化や多様化に伴い変革が迫られている。本書は、施設空間という側面からそのあり方を考察したものである。まず、子どもたちの日常生活の安定に空間が果たす役割を探索するため、長期にわたり子どもと職員を観察し、「コミュニケーションと行為と空間の関わり」という糸口から生活の様子を描き出すことで、施設空間に求められる要件を考察している。続いて、近年、児童養護施設の地域化の担い手として注目されるグループホームに焦点を当てて全国の整備実態を明らかにし、さらにグループホームが地域と関わる姿を捉えることで、望ましい施設計画像を浮かび上がらせている。



ISBN978-4-86163-191-7
C3039(2012年12月)

贈答の近代—人類学からみた贈与と交換と日本社会

山口睦 著 A 5判 304頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

本書は、近世後期から現代まで、日本社会における贈与行為がどのように変化したのかを、多様な資料から考察する。山形県のある農家に保存されていた200年に亘る贈答記録や従軍日記の分析を中心に、現代山村における農産物の贈与、バレンタインデーやクリスマスを事例として多様な贈与行為を分析する。近代日本社会における贈与行為は、家や共同体における「伝統的贈与」から、個人を中心とする「個人的贈与」へと比重を移した。また、その変化の重要なファクターとなる「国民的贈与」が生成、機能する過程を、戦時下における慰問袋を事例として示す。



ISBN978-4-86163-230-3
C3021(2013年10月)

近代日本と雪害

雪害運動にみる昭和戦前期の地域振興政策

伊藤大介 著 A 5判 234頁 定価3,080円(本体2,800円+税)

雪害運動とは、雪による弊害、すなわち「雪害」の克服を目指す活動である。日本は世界でも有数の豪雪地帯であるが、古くから、人びとは雪を宿命のように考えながら暮らしてきた。しかし、社会の近代化が進み、道路や電線のような施設が整備されるにつれて、雪が生活に与える影響が拡大していく。雪害運動が、昭和戦前期という時期に展開されたのは、そのような社会の動きを背景としていたためである。本書は、山形県選出の国会議員である松岡俊三を中心に進められた雪害運動の実態と、その歴史的意義について、さまざまな資料から明らかにしたものである。



ISBN978-4-86163-236-5
C3091(2014年2月)

日本語文学を読む

李郁蕙 著 A 5判 270頁 定価3,300円(本体3,000円+税)

本書は、日本語文学と台湾文学それぞれの角度から、植民地統治に関わる作品の読み方を提示するものである。第一部は台湾や朝鮮半島、満州、南洋を舞台に日本語で書かれた文学作品を日本語文学として捉え、日本人作家と現地人作家の表現上の異同を比較し、そこに垣間見える意識の解明を試みる。第二部は対象を台湾に絞り、戦前から現代にかけての日本語作品を台湾文学として読み解くことで、文学により表現される周縁・中心の実像を浮き彫りにする。同質性と異質性がつくりだす「日本語イデオロギー」の分析をとおり、日本文学の「外枠」を問う研究成果の集成である。



ISBN978-4-86163-244-0
C3039(2014年8月)

社会主義社会の経験

モンゴル人女性たちの語りから

トゥルムンフ・オドントヤ 著
A 5判 222頁 定価3,520円(本体3,200円+税)

社会主義社会時代(1924-1992)のモンゴルでは、女性たちはどのように生き、どのような思いを抱いていたのか。詳細なインタビュー調査をもとに、「社会主義モンゴル」の実像を人類学の見地から考察。国の政策や国民形成の意向、国民雑誌に表れる社会主義的啓蒙をもとに、モンゴルの女性たちにとって社会主義社会とは如何なる時代だったのか、その経験が現代にどのように残っているのかを浮き彫りにする。

若出版
手助成



ISBN978-4-86163-249-5
C3010(2015年1月)

フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学 『論理学研究』から『イデーン』まで

佐藤駿 著 A 5判 338頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

私たちは世界をどのように経験し、知り、生きるのか。いや、そもそも「意識ならざるもの」が「ある」とはどのようなことなのか。

近代認識論的哲学の問題意識が背後に迫りくるなか、フッサールは独りひたすらに自らの現象学を彫琢していった。志向性理論と意味理論の展開、現象学的方法の理念、そして観念論。出発点となった『論理学研究』から『イデーン I』にいたるフッサール現象学の軌跡をたどり、意識ならざる世界の「存在」を「現象」から理解しようとしたフッサールの思索が描き出す「世界経験の哲学」を明らかにする。



ISBN978-4-86163-253-2
C3010(2015年2月)

原敬と陸羯南

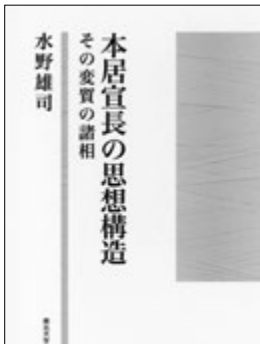
明治青年の思想形成と日本ナショナリズム

鈴木啓孝 著 A 5判 334頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

南部藩の家老の家に生まれた原敬と、津輕藩の下士の家で育った陸羯南。明治九年、同じ司法省法学校第二期生として出会った二人の若者は、それぞれの道を歩み、かたや政党政治家として内閣総理大臣へ、かたや日本新聞社社長兼主筆の国民主義者へと、その立場を変えていく。

両者に共通する、そして相反する思想形成の過程を詳細に追ひ、徹底した史料読解と鋭敏な解釈から、明治中期以降に確立する日本ナショナリズムの基礎構造についての新たな理解を試みる。

【第10回日本思想史学会奨励賞受賞】



ISBN978-4-86163-252-5
C3010(2015年3月)

本居宣長の思想構造 その変質の諸相

水野雄司 著 A 5判 252頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

あるべき「人の心」とは何か。その「心」を手に入れるためには、何をどう学ぶべきか。人の生きる世界の成り立ちと、その世界と人との関わり方に関心を抱き続けた江戸期の国学者・本居宣長。万葉集・新古今・源氏・日本書紀・古事記といった文献にその答えを求め、宣長の思想は揺れ動き変化していった。折り重なる思想構造の中で紡ぎ出された言葉に耳を傾け、宣長の新たな姿を見出す。



ISBN978-4-86163-268-6
C3039(2016年5月)

消え去る差異、生み出される差異

—中国水上居民のエスニシティー—

稲澤努 著 A 5判 302頁 定価3,850円(本体3,500円+税)

なぜ漁業に従事していないのに「漁民」と呼ばれ続ける人がいるのか。

本書は、先行研究の分析と中国広東省汕尾におけるフィールドワークによって、元水上居民である「漁民」の自他境界の消長を分析したものである。

中国南部の水上居民は文献等で「疍(たん)民(みん)」と呼ばれてきた。本書ではまず、そのようなマジョリティによって描かれてきた水上居民イメージの形成と再編について論じた。その上で、近年は陸上がりなどにより彼らと陸上のマジョリティとの目に見える文化的差異が減少しているにもかかわらず、その境界がどのように維持あるいは変遷してきたのかを明らかにした。



ISBN978-4-86163-284-6
C3022(2017年12月)

元大都形成史の研究—首都北京の原型—

渡辺健哉 著 A 5判 332頁 定価4,180円(本体3,800円+税)

元の大都は、13世紀にユーラシア大陸のほぼ全域を支配した、モンゴルによって建設された。本書では政治空間にあたる宮城の建設過程、国家統治に欠かせない官庁の設置場所、住民の生活に必要なインフラの整備等々につき、検討した。とくに、これまでの研究の多くが静態的な分析に止まっている点を批判し、動態的視点を強く意識しながら、整理・考察を加えた点が本書の最大の特徴といえる。



ISBN978-4-86163-292-1
C3022(2018年5月)

ミュンスター宗教改革

1525～34年反教権主義的騷擾、宗教改革・再洗礼派運動の全体像

永本哲也 著 A 5判 452頁 定価6,600円(本体6,000円+税)

1534年2月、ドイツ北西部の一都市ミュンスターは、地上に降りた新しいエルサレムと化した。神聖ローマ帝国において「異端」「反乱者」として死をもって禁じられていた再洗礼派が、ミュンスターの統治権を握ったためである。彼らは間近に迫った世界の終わりを待ちわびながら、財産共有制や一夫多妻制、預言者を頂点とする神権政を市内で導入し、16ヶ月にわたり帝国諸侯の軍隊と黙示録的な戦いを繰り広げた。

しかし、このミュンスター再洗礼派運動は、元々ありふれた都市宗教改革運動として始まった。では、ミュンスターで宗教改革を実現しようとした人々は、いかにして再洗礼派となり、市内で起こった激しい宗派間争いの末、敗北と紙一重の勝利をその手に引き寄せたのか？市内には多様な集団・社会階層に属する人々があり、様々な動機に基づき自らの態度を決めていた。彼らの多様な思想と行動が、複雑にもつれ、絡まりあいながら、ミュンスターの宗教改革運動を思わぬ方向へと導いた。本書は、集団や階層、動機、合意形成という三つの枠組みに整理して、その複雑な過程の全体像を描こうとする一つの試みである。

若出版
手助成



ISBN978-4-86163-287-7
C3031(2018年5月)

近代日本における私生活と政治 与謝野晶子と平塚らいてう —自己探求の思想

小嶋翔 著 A 5判 232頁 定価3,520円(本体3,200円+税)

与謝野晶子と平塚らいてうという、二人の思想家。近代日本に文学・哲学をもって登場し、官学アカデミズムに属することなく、それぞれの問題関心に沿って言論家・社会運動家として活動した。この二人に共通する問題関心が、「私」的な「生活」を生きる個人の自覚だ。両者の「私」は、単に国家とのみ対峙するのではなく、市民社会の内部における価値の闘争を試みようとしたものだった。私生活と政治(私/公)の関係系ではなく、私生活それ自体の政治思想史を題材にした、日本思想史研究に新たな切り口を生む意欲作。



ISBN978-4-86163-298-3
C3039(2018年11月)

旧東欧世界の民族誌 欧州統合時代に生きるトランシルヴァニア牧畜民

杉本敦 著 A 5判 324頁 定価5,280円(本体4,800円+税)

「ゴスポダリエ」と呼ばれるルーマニアの半自給自足農家が、グローバルな市場経済システムの中で、伝統的な生産様式と家族組織をどのように変化させながら継承されていくのか、その姿を丹念に描出した。近年、EUの共通農業政策で排除されつつある中小農家が、地域の自然環境と社会環境に適合した独自の合理性を持つことを、文化人類学の視点から解明する。本書は、EUが東方へ拡大する一方で、テロ、ナショナリズムの高まりなど新たな分断の危機に揺れるヨーロッパを周縁地域から照らし出す試みでもある。



ISBN978-4-86163-297-6
C3010(2018年10月)

ヘーゲル 主体性の哲学 <自己であること>の本質への問い

嶺岸佑亮 著 A 5判 314頁 定価5,280円(本体4,800円+税)

<自己であること>——このあまりにも自明で身近な事柄は、2千5百年もの間にわたって様々な哲学者によって哲学上の根本問題として問われてきた。「汝自己自身を知れ」という、古代ギリシアのデルフォイの言葉が発せられて以来、問うことの営みは途絶えることなく受け継がれている。本書で取り上げるG.W.F.ヘーゲル(1770~1831)もまた、<自己であること>の本質を問い抜いた人物のひとりである。彼のイェーナ期の著作・草稿から、主著である『大論理学』、さらにはベルリン期の宗教哲学講義を丹念にたどることで、有限な存在者の<自己>が無限なものとの関わりにおいてどのようにとらえ返され、確証されるのか、という問題について明らかにする。本書ではこうした問題を、<主体性>というヘーゲル独自の思想から論じる。



ISBN978-4-86163-300-3
C3097(2018年11月)

楚辞「離騷」を読む

—悲劇の忠臣・屈原の人物像をめぐる—

矢田尚子 著 A5判 394頁 定価6,600円(本体6,000円+税)

『楚辞』は、中国詩歌文学の源流として『詩経』と並称される。その収録作品は伝統的に、戦国楚の屈原と結びつけて解釈されてきた。しかし「悲劇の忠臣屈原」の伝説に沿って読み、彼の偉業として称えるだけでは、『楚辞』の全体像をつかむことはできない。本書は、屈原伝説にとらわれずに作品と向き合い、一歩引いた視点から冷静に屈原伝説と『楚辞』との関係をとらえ直そうとするものである。先秦から後漢にかけて、複雑な形成過程を経て成立した作品群の集大成であることを考慮しつつ、『楚辞』に対する多方面からのアプローチを試みた。



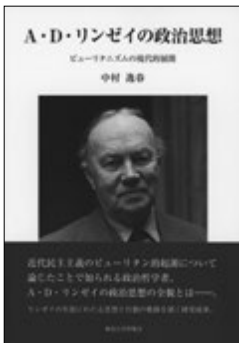
ISBN978-4-86163-334-8
C3021(2020年7月)

「公論」の創生「国民」の誕生

福地源一郎と明治ジャーナリズム

岡安儀之 著 A5判 220頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

文明開化期の日本において福澤諭吉(1835-1901)と並び称されながらも、これまで「御用記者」の代表格として等閑視されてきたジャーナリスト福地源一郎(桜痴、1841-1906)。本書は、彼の言論活動に光を当て、その思想的意義を明らかにするものである。具体的には、福地が『東京日日新聞』の社長兼主筆として健筆を振った明治7年からおよそ10年間の同紙論説記事や他紙を丹念に分析し、「公論」と「国民」の形成という角度から照射することで、明六社や自由民権運動を中心に構築されてきた従来の明治前期思想研究の枠組みに、新たな展望を切り開くものである。



ISBN978-4-86163-364-5
C3031(2022年9月)

A・D・リンゼイの政治思想

ピューリタニズムの現代的展開

中村逸春 著 A5判 198頁 定価4,400円(本体4,000円+税)

近代民主主義思想のピューリタニック起源について説き、独自の民主主義論を提起した二〇世紀英国の政治哲学者A・D・リンゼイ(1879-1952)。その政治的思考は、労使紛争への諸教会の介入、ナチズムの台頭、そして民主化なき産業の国有化といった、現実の諸問題へのコミットメントを通じて深められていった。本書は、リンゼイの政治思想の形成と発展とを丹念にたどりつつ、その知的格闘の軌跡をピューリタニズムの現代的展開という観点から統一的に描き出すものである。

若出版
手助成



ISBN978-4-86163-025-5
C1020(2006年3月)

I 東北—その歴史と文化を探る

花登正宏 編 四六判 186頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

東北大学大学院文学研究科が企画する「人文社会科学講演シリーズ」の第1巻。文学研究科では、従来より、公開講演会やシンポジウムなどを通して教員の研究成果を公開してきた。本シリーズは、講演会の内容を本の形でお届けし、本研究科教員の研究成果をより多くの方々に知っていただくとする、新たな試みである。

本書には、2005年秋に開催した「みやぎ県民大学」で行われた一連の講演を収録した。統一テーマは「東北—その歴史と文化を探る」で、宮城県の後期旧石器文化に関わるもの、宮城県郡山遺跡より古代陸奥国の辺境経営について語ったもの、平安時代初期の東北の仏像の特色について述べたもの、江戸時代の東北の学問のあり方について紹介したものなど幅広い内容を含む。カラーの写真や図版を極力多く取り入れ、親しみやすい読み物に仕上がった。どこからでもよい、興味のあるところから読み始めて欲しい。読者が本書の多彩な内容を通して、東北地方の個性的な歴史と文化の一斑について知的な探求の旅を楽しんでいただけたら幸いである。

II 食に見る世界の文化

千種眞一 編 四六判 222頁 定価1,885円(本体1,714円+税)

ISBN978-4-86163-050-7 C1039(2007年3月)

東北大学文学研究科「人文社会科学講演シリーズ」の第2巻。人間の「食」という行為に付与された文化的意義を多角的に探る。日本、インドネシア・フランス・イギリス・中国を舞台に、近・現代から中世、古代へと縦横に時代を闊歩しながら、講演者が独自の研究の視点や志向で文化の食材に味付けし、得意の手法を駆使して料理した魅力のグルメツアー・ガイドブック。「食の俳句を味わう」、「東南アジアの食と祭り」、「フランスの食・文化」、「飲みものとイギリス文学」、「中国古代の美食と美酒」—多彩なメニューで、豊饒でユニークな文化を訪ねる食の旅へと読者を誘う。

III ことばの世界とその魅力

阿子島香 編 四六判 224頁 定価1,870円(本体1,700円+税)

ISBN978-4-86163-097-2 C1080(2008年4月)

東北大学文学研究科主催の「有備館講座」をもとにした本書は、世界の言語を題材にした5編の講演からなる。日本語五十音の歴史と音声のしくみ、日本古典文法の「けり」の意味、近代詩の言葉の魅力と深い読み方、インド・ヨーロッパ諸語の系統の究明、漢字の注音方法である「反切」の成り立ちなどについて、それぞれの分野の専門家によって判りやすく解説される。「ことば」というものの本質が解き明かされ、発音、文法、詩と表現、言語の歴史、文字表記といった、人間の言語がもつ諸相の意義とそれらの関係がよく理解できる。

IV 東北人の自画像

三浦秀一 編 四六判 182頁 定価1,650円(本体1,500円+税)

ISBN978-4-86163-131-3 C1021(2010年2月)

東北大学大学院文学研究科が企画する「人文社会科学講演シリーズ」の第4巻。慈覚大師円仁や一遍上人ら東北地方にゆかりのある高僧の肖像、平泉中尊寺落慶供養の際に藤原清衡が作成させた願文、柳田国男から先生と尊称された岩手県遠野出身の人類学者である伊能嘉矩(いののかのり)の生涯と学問的業績、昭和初期、政治運動に従事して逮捕された学生たちと交流した東北帝大教授太田正雄(筆名 木下李太郎)の言動などを、専門の立場から紹介、分析する。「東北」ないし「東北人」に関する従来のイメージに、新たな彩りを加える一書。

V 生と死への問い

正村俊之 編 四六判 224頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

ISBN978-4-86163-155-9 C1020(2011年1月)

東北大学大学院文学研究科が企画する「人文社会科学講演シリーズ」の第5巻。古今東西の死生観を西洋美術史、日本思想史、英文学、フランス文学、倫理学の専門家が分析する。文学や美術作品に表現された古代ギリシア人の死生観、墓制の変遷に見出される日本人の死生観、シェイクスピアの悲劇『オセロー』に描かれた女性の生死の様相、フランスの代表的な詩人ポール・ヴァレリーの作品「海辺の墓地」に内在する現在主義的な死生観、「悲しみ」という情緒が開示する現代日本人における生と死の連関。これらのテーマをとおして、世界に存在する多様な死生観が浮き彫りにされる。

VI 男と女の文化史

東北大学大学院文学研究科出版企画委員会 編

四六判 220頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

ISBN978-4-86163-228-0 C1020(2013年3月)

「人文社会科学講演シリーズ」の第6巻。今回のテーマは男と女をめぐる文化史である。日本文化史では、平安の貴族と江戸の遊女という一見対照的な人々に光を当て、アジア文化史においてはそのひとつの華とも言える中国古典詩の作者夫婦を取り上げる。また、ヨーロッパ文化史においては文学と美術という2つの切り口を用意する。さまざまな地域、時代における男と女のあり方を紹介しながら、両者の関係が文化史の展開にいかにか大きな影響を与えたかを考える。本書に登場する男と女は、その常識をくつがえす行動で読者を惹きつけてやまないであろう。

【日本図書館協会選定図書】

VII 「地域」再考—復興の可能性を求めて—

東北大学大学院文学研究科出版企画委員会 編

四六判 202頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

ISBN978-4-86163-241-9 C1020(2014年3月)

好評の人文社会科学講演シリーズの第7巻である本書は、「地域」に着目した六つの論考を収録。地域血縁の関係の弱まりが言われる現代だからこそ、住んでいる場所との関わりが重要であるとの理念から、広い分野領域から「地域」を考える論考を集めた。社会学・行動科学・文化人類学・中国思想中国哲学・考古学・倫理学の研究者による各稿は、一般的な地域論を超え、いま地域を考えるうえでの多様な視点を提示する。地域復興を再考するための、豊かな思考が得られる一冊である。

VIII 文化理解のキーワード

東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会 編

四六判 200頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

ISBN978-4-86163-257-0 C1020(2015年3月)

好評の「人文社会科学講演シリーズ」の第8巻。文化人類学・宗教学・社会学・美学・哲学の五つの観点から、異文化の相互理解につながる発想・解釈・言葉を提示する。2013年5月から2014年10月までに「有備館講座」(宮城県大崎市)と「齋蔵の講座」(宮城県伊具郡丸森町)で行われた東北大学大学院文学研究科による市民公開講座から5回分を書籍化。

IX ニッポン わたしの日本学び

東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会 編
四六判 190頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-294-5 C1020(2017年12月)

「ニッポン学び」と題し、日本および日本文化について、外国人もしくは外国人になったつもり
の視点から、少し距離を置いて考え直してみようという試み。イタリア人哲学者による西田哲学を
とおした日本の美や文化、カナダ人の日本史研究者がみる宮城県の一農村における世界史の普遍的
な一面にはじまり、日本人の中国哲学研究者と日本語学者がそれぞれの目から探る「万葉集」と「古
今和歌集」、そして世界から注目を集める和食をめぐる、日本人心理学者による驚きの主張と、パ
ラエティに富んだ「ニッポン学び」の論考集。

X ハイブリッドな文化

東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会 編
四六判 200頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-322-5 C1020(2019年3月)

2017年度実施の一連の公開講演「第17期有備館講座」・「第10期齋理蔵の講座」の内容を基に企画・
編集された「人文社会科学講演シリーズ」の記念すべき第10作目。近年はエコカーなどでおなじ
みの「ハイブリッド」なる言葉だが、本来は「異なる要素の混淆」や「雑種」を意味し、生物や機
械だけではなく社会文化的事象にも広くあてはまる。本書では、宗教学、日本思想史学、言語学、
心理学、社会学、それぞれ別の観点から、我々の文化に潜んでいる様々な「ハイブリッド」が取り上
げられ、掘り下げて考究される。

XI 未来への遺産

東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会 編
四六判 212頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-338-6 C1020(2020年3月)

考古学・文学・西洋哲学・歴史・語学といった人文学からアプローチする、先人が遺した知の恩恵
をめぐる論考集。

はじめに 浅岡善治

1. ラスコーを生み出した日常生活 阿子島 香
2. 『大塔物語』と室町時代の知 佐倉由泰
3. カントの平和の歴史哲学 城戸 淳
4. ロシア帝国とソ連の「遺産」 浅岡善治
5. 見えない、聞こえない表現から考える「遺産」としての文法 島 越郎

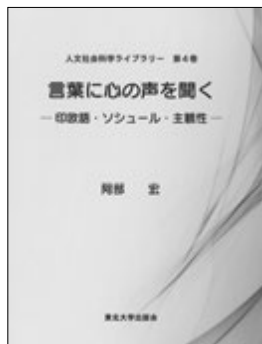
XII 私のモノがたり

東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会 編
四六判 206頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-351-5 C1020(2021年3月)

「もの」「物」「モノ」の意味と、それを語ることで立ち現れる様々な事象について考える、人文社会
学の研究者による論考集。

はじめに 嶋崎 啓

1. 「物の本」と「物語り」 狩野亨吉と夏目漱石 片岡 龍
2. 発見のモノがたり ダーウィン、アインシュタイン、ソシュール 阿部 宏
3. 日本美術の「真物(ホンモノ)」「偽物(ニセモノ)」
研究に立ちふさがる巨大な「壁」のモノがたり 杉本欣久
4. こころのカラクリを探求する だましの手口から見るこころの法則 荒井崇史
5. 「他者指向」の社会のなかで 人の心はモノなのか 小松丈晃



ISBN978-4-86163-258-7
C1310(2015年3月)

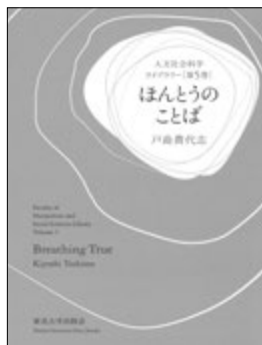
人文社会科学ライブラリー第4巻

言葉に心の声を聞く—印欧語・ソシユール・主観性—

阿部宏 著 四六判 160頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

言葉には、伝達される表面的な情報や辞書的な意味を超えて、それを話す人の心のありかたが反映される。いわば、言葉と心は不可分な関係にある。言葉には、それを話す人間の存在が印づけられ、常にその人の声が響いている。

「言葉の科学」の誕生から今日までの研究史の歩みをわかりやすく解説し、言葉における“心の発見”をたどる。好評の人文社会科学ライブラリーの第4巻。



ISBN978-4-86163-355-3
C3010(2021年3月)

人文社会科学ライブラリー第5巻

ほんとうのことば

戸島貴代志 著 四六判 234頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

人によって語られた言葉がときに当人の何たるかを語るときがある。あの「3・11」での津波の災禍を、「海が牙をむいた」と表現する人もいれば、「自然が伸びをした」と語った人もいた。「牙をむく」や「伸びをする」という言葉そのものが、その語り手自身の海についての暗黙の了解を如実にもの語っており、さらには海をそのように理解するその人の何たるかを、すなわちその人の存在そのものをおのずと言外に語り出している。言葉には存在が宿るのである。本書はそのような立場から、言葉と人との根源的な関わりを思索する挑戦の書である。



ISBN978-4-86163-177-1
C3339(2011年12月)

東北アジア学術読本 1

シベリアとアフリカの遊牧民

—極北と砂漠で家畜とともに暮らす—

高倉浩樹・曾我亨 著

四六判 222頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

シベリアとアフリカという対称的な厳しい環境のなかで人間はどのように生存を可能にするのか、遊牧民であるエヴェンとガブラの伝統文化の魅力をわかりやすく紹介する牧畜人類学入門書。シベリアとアフリカの地域全体像をふまえながら、トナカイやラクダという家畜とともに暮らす人々の生業技術・社会の仕組みを詳らかにする。先住民・少数民族でもある彼らの生活は、市場経済と開発・民族紛争や難民問題といった現代国家の矛盾の最前線に位置している。これらの点をふまつつ人々の生き方の希望と苦悩を描写する。



ISBN978-4-86163-178-8
C3344(2011年12月)

東北アジア学術読本 2

東北アジア 大地のつながり

石渡明・磯崎行雄 著

四六判 102頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

日本海の彼方に広がる朝鮮半島や中国・ロシアの大地と日本列島の地質学的つながりをグローバルな視点から解説する地質学入門書。2009年末に仙台で開催された一般向けの東北大学東北アジア研究センター公開講演会の内容に基づく。日本が大陸から分かれて弧状列島になったのは新第三紀中新世(約2000万年前)のことで、その前の5億年間に形成された日本の古い地層の延長は大陸にある。中国の改革开放やソ連崩壊以後、日本の地質学者による大陸の調査が可能になり、国内の地質の理解も大きく進展した。その成果を多数の図でわかりやすく説明。



ISBN978-4-86163-233-4
C3330(2013年10月)

東北アジア学術読本 3

途絶する交通、孤立する地域

奥村誠・藤原潤子・植田今日子・神谷大介 著

四六判 194頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

東北アジア地域では、厳しい気候や自然災害によって交通が途絶することが少なくない。本書は、ソ連崩壊と気候変動に揺れるシベリアの北極圏の村、台風や波浪の影響を受けやすい沖縄県の離島、そして東日本大震災時の仙台を舞台に、交通の途絶と孤立に対して、人や社会はどのように備え、どう反応するのかを紹介する。気鋭の研究者が、人類学的フィールド調査、社会学的参与観察、土木計画学的考察、ミクロ経済学分析などの多様な手法により、途絶と孤立の様相を明らかにしている。文理融合アプローチの可能性を感じることでできる1冊である。

【日本図書館協会選定図書】



ISBN978-4-86163-250-1
C3339(2014年10月)

東北アジア学術読本 4

食と儀礼をめぐる地球の旅

—先住民文化からみたシベリアとアメリカ—

高倉浩樹・山口未花子 編

四六判 226頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

「食と儀礼」という人間の本質にかかわる文化人類学的知見から、シベリアと南北アメリカに暮らす先住民の生活をとらえ、現代世界にも通じる普遍性を探る。シベリアのトナカイ遊牧民にみられる多様な食の世界、イヌイトたちのタブーと儀礼に基づく食文化、アラスカの捕鯨民による祭典と食、ナスカの地上絵からみえてくる自然環境と儀礼のつながり、アンデス高地の日常食と儀礼食などの事例から、新たな世界理解の視座を示す。2012年10月に開催された日本文化人類学会公開シンポジウム「食と儀礼をめぐる地球の旅 先住民文化からみたシベリアとアメリカ」での発表をもとに、加筆修正して書籍化。



ISBN978-4-86163-263-1
C3325(2015年12月)

東北アジア学術読本 5

世界遺産を学ぶ—日本の文化遺産から—

入間田宣夫・仲野義文・荒武賢一朗 著

四六判 96頁 定価2,200円(本体2,000円+税)

「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」を1992年に締結して以来、我が国でも多くの世界文化遺産登録がなされた。引き続き登録を目指すものも多い中、世界遺産はなぜ重要で、登録されることにどんな意義があるのだろうか。「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」(2011年)、「石見銀山遺跡とその文化的景観」(2007年)、「日光の社寺」(1999年)の三つの国内文化遺産を例に、歴史文化と観光商業が共存する世界遺産の表裏を多角的に検証する。



ISBN978-4-86163-267-9
C3355(2016年3月)

東北アジア学術読本 6

地中レーダーを応用した遺跡探査

—GPRの原理と利用—

佐藤源之・金田明大・高橋一徳 編著

四六判 202頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

地中レーダー (Ground Penetrating Reader : GPR) は、遺跡調査において有効な活用が望める技術である。「発掘による遺跡の破壊防止」「遺跡の分布範囲の予測」「発掘できない遺跡を精密に可視化」など、地中レーダー技術の導入によって得られる成果は大きい。

本書は、地中レーダーを使ったことがない、あまりうまく使えない、どう役に立つのかわからないといった初心者に対して、その技術の仕組みと効果をわかりやすく理解できるように編んだものである。工学的原理の解説と、タイプ別のレーダー計測の説明、実際の遺跡調査を具体例とした応用の仕方まで、地中レーダー技術がもたらす遺跡探査への効果を、余すところなく紹介する。



ISBN978-4-86163-295-2
C3300(2018年3月)

東北アジア学術読本 7 東北アジアの自然と文化

東北大学東北アジア研究センター 編
四六判 192頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

1996年に設立された東北大学東北アジア研究センターの20周年を記念し、同センター発行の「ニューズレター」「うしとら」から選りすぐりの学術エッセーを再録する。「Ⅰ. 自然」では渡り鳥の移動経路、大気汚染、海底火山、鉱物資源など主に理系分野の研究者が筆を振るい、「Ⅱ. 人文」ではロシアにおける日本文学、史料研究、歴史資料保全、多文化共生といった主に文系研究者による成果が語られる。「Ⅲ. 学際」は、同センターの大きな特徴でもある文理融合の研究領域から、東北アジアの未来に発信する最新の知を語る。



ISBN978-4-86163-333-1
C3321(2019年9月)

東北アジア学術読本 8 古文書がつなぐ人と地域

—これからの歴史資料保全活動—

荒武賢一朗・高橋陽一 編
四六判 178頁 定価2,750円(本体2,500円+税)

現代日本の社会的課題である少子高齢化、過疎化、さらには各地を襲う災害から、歴史資料保全活動の重要性は一層増している。地域で受け継がれた資料を守る作業は、研究者のみならず、所蔵者・地域住民・自治体などさまざまな人々の協力によって成り立ってきた。本書は東北地方における歴史資料保全活動の足跡を追いながら「保存から活用へ」というテーマを設定し、その方法を提示している。先人からの継承と資料所蔵者の心理、自治体職員の奮闘、そして成果を社会に発信しようとする新たな挑戦に注目し、「歴史の教訓」を未来に伝える。



ISBN978-4-925085-85-4
C3330(2004年3月)

ジェンダー法・政策研究叢書 全12巻〔辻村みよ子監修〕
第1巻 世界のポジティブ・アクションと男女共同参画

辻村みよ子 編 A5判 360頁 定価2,420円(本体2,200円+税)

本書は、東北大学21世紀 COE プログラム「男女共同参画社会の法と政策」の成果として刊行される『ジェンダー法・政策研究叢書』の第1巻である。この COE 拠点は男女共同参画社会形成のための理論的課題を、「ジェンダー法・政策研究」の視点から解明することをめざしており、本書は、国連・EU・欧米諸国や AA 諸国など世界のポジティブ・アクション（積極的改善措置）の検討を通して、日本の政策にとって有益な示唆を与えている。

第2巻 日本の男女共同参画政策—国と地方公共団体の現状と課題—

辻村みよ子・稲葉馨 編 A5判 394頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-006-4 C3330(2005年3月)

男女共同参画社会基本法が制定されて6年近くの間、国と地方公共団体を中心に積極的な取組みが実施された。制定された男女共同参画推進条例の数は都道府県46、市町村で250以上に及ぶが、反面、バックラッシュの動きも盛んになっている。

本書では、このような日本の男女共同参画政策の現状と課題を明らかにする。内閣府男女共同参画局長・COEメンバー等の諸論文のほか、主な地方公共団体のインタビュー調査結果や主要条例、比較一覧表等の資料を満載した本書は、研究者・学生や政策担当者等に有益な示唆を与えるものとなる。

第3巻 ジェンダー法学・政治学の可能性

—東北大学 COE 国際シンポジウム・日本学術会議シンポジウム—

辻村みよ子・山元一 編 A5判 338頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-009-5 C3330(2005年5月)

本書では、2004年秋に開催された COE 国際シンポジウム「ジェンダー法学・政治学の比較的展望」の成果、および日本学術会議「21世紀の社会とジェンダー」研究連絡委員会との共催シンポジウムの成果を掲載して、世界と日本のジェンダー法学・政治学の現状と課題を検討している。フェミニズム法学の第一人者フランス・オルセン教授をはじめとするアメリカ・フランス・韓国・日本の研究者の議論から、ジェンダーと法、政治をめぐる世界共通の課題と展望を知り、日本の諸課題解明にとって重要な示唆を与えることができる。

第4巻 ジェンダーと教育——理念・歴史の検討から政策の実現に向けて

生田久美子 編 A5判 366頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
 ISBN978-4-86163-019-4 C3330(2005年12月)

本書は、男女共同参画社会を担う「ジェンダー・センシティブな人材の育成」にむけて、基礎理論の提示と政策分析を行なうものである。第一部、第二部では、「知識」論、「ケア(リング)」論、「ジェンダー・センシティブ」等の鍵概念、戦時下やマイノリティー民族のジェンダー観、日本の男女共学など理念・歴史の検討が行なわれている。第三部では、日本の法科大学院教育、諸外国の政策と実践、日本の男女共同参画政策と仙台市におけるNPO活動の事例など、政策と教育現場・市民活動の現代的動向が分析されている。

第5巻 セクシュアリティと法

齊藤豊治・青井秀夫 編 A5判 444頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
 ISBN978-4-86163-030-9 C3330(2006年3月)

第5巻は、ジェンダーの視点を踏まえつつ、生殖医療と性暴力に関する諸問題を総合的に検討しており、多くの理論的政策的な問題提起を含んでいる。本書はまず、人権の基礎理論とのかかわりでセクシュアリティを位置づける。ついで、妊娠中絶および着床前診断など、生殖と医療の諸問題を検討する。後半では、性暴力・性犯罪をめぐる刑事法の問題をあつかう。最近、性暴力に関する従来の通説的見解に疑問が提起されており、本書の各論文は開拓的といつてよい。さらに、韓国やアメリカの研究者が、それぞれの国の現状と課題を報告している。

第6巻 家族 ジェンダーと自由と法

水野紀子 編 A5判 442頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
 ISBN978-4-86163-039-2 C3330(2006年11月)

両性がともに人間らしく生き、子どもを心身ともに健康に育てる方策を模索することは、ジェンダー論の大きな課題のひとつである。性別役割分業をはじめ、社会や法は家族という私的な領域のかかえる問題にどのように関与すべきか。家族に関する本書は、戦後の法学界や実務をリードしてきた斯界の長老から、気鋭の若手研究者まで、それぞれの問題を論じるにふさわしい第一人者を執筆者に得て、原論的・総論的諸論文、国際的・比較法的諸論文、日本家族法を歴史的に考察する諸論文、具体的諸問題の今後の解決を考える諸論文と多角的な成果をおさめた書である。

第7巻 国際法・国際関係とジェンダー

植木俊哉・土佐弘之 編 A5判 376頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
 ISBN978-4-86163-048-4 C3330(2007年2月)

国際社会においてジェンダーはいかなる課題を提示しているか。本書はとりわけ法的・政治的な諸課題につき国際的な視座から多角的に検討する。まず、国際法学の分野(第一部)として、国際法理論、国際人権法、国際人道・刑事法、国際組織法から法的諸課題が検討され、また国際関係・地域研究の分野(第二部)では、国際関係・安全保障理論、人間の安全保障、地域研究という分析視座からジェンダーをめぐる現代的諸課題が考察される。本書は、国際法・国際関係論・国際政治学といった幅広い分野の専門家による最先端の研究成果である。

第8巻 政治参画とジェンダー

川人貞史・山元一 編 A5判 400頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-053-8 C3330(2007年3月)

日本における女性の政治参画は、他の先進諸国と比較して遅れている。女性の政治参画、公務への進出はなぜ求められているのか。それはどのような形で促進されるべきか。これらの問題を考察する上で、女性が現行法制度の中で政治参画への意思決定を現実はどう行っているのかという問題の理論的・実証的分析が不可欠である。本書は、立法、行政、司法への女性の参画に関わるこうした問題群に対し、規範的・実践的な角度からの説明および理論的・実証的観点からの分析を試みる。

第9巻 雇用・社会保障とジェンダー

嵩さやか・田中重人 編 A5判 444頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-060-6 C3330(2007年5月)

男女共同参画社会の実現を目指す動きの中で、雇用・社会保障はもともと重要な政策領域のひとつである。従来の様々な施策にもかかわらず温存されている雇用・社会保障上の男女間の不平等・不均衡に対し、社会や法は今後いかに取り組むべきであろうか。本書は、この重要課題について、学界をリードする第一人者や気鋭の若手研究者、さらには海外の研究者をも執筆者に得て、現在の日本の到達点の分析や学際的視点からのアプローチの模索、比較法的観点からの考察を行う諸論文をおさめた本格的な研究書である。

第10巻 ジェンダーの基礎理論と法

辻村みよ子 編 A5判 404頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-063-7 C3330(2007年9月)

「性差とは何か。」「ジェンダー(社会的・文化的性差)とセックス(生物学的性差)とはどう違うのか。」

この基本的な問いに答えるべく、ジェンダー学、生物学、歴史学、法学、政治学等の代表的研究者が集結した学際的研究の成果を収録。本書は、「法とジェンダー」を考える東北大学COE拠点と日本学術会議(公開講演会「生物学とジェンダー学の対話」)やジェンダー法学会等との連携活動の記録でもあり、また、その基礎理論研究の集大成であるといえる。

第11巻 世界のジェンダー平等 理論と政策の架橋をめざして

辻村みよ子・戸澤英典・西谷祐子 編 A5判 440頁 定価2,420円(本体2,200円+税)
ISBN978-4-86163-077-4 C3330(2008年3月)

世界各国において、ジェンダー平等をめぐる理論と実践はいかなる状況にあるか。本書では、2007年7月に仙台市で開催されたCOE国際シンポジウムでの議論を中心に、国際的視点からジェンダー平等実現の可能性を探る。第一線に立つ理論家、研究者、実務経験者が、ジェンダー平等と国家、政治、契約や家族との関係を検討し、理論と実践との架橋を図る。ジェンダー平等をめぐる今日の状況を理解するのに有益な一冊である。

第11巻（別冊1） Gender & Law in Japan

辻村みよ子・矢野恵美 編 A5判変型 268頁 英文 定価2,200円（本体2,000円+税）
ISBN978-4-86163-064-4 C3330(2007年7月)

本書は、日本のジェンダー（社会的・文化的性差）をめぐる多様な問題の現状と課題を、法と政策の観点から明らかにした英語版テキストである。日本のジェンダー法・政策問題を概括的に扱う第1章をはじめ、政治参画、人身売買、家族法、家制度、雇用・労働、女性に対する暴力、教育など様々な問題について、図表等を用いてわかりやすく概観している。これまでは「ジェンダーと法」に関する教科書は数冊刊行されているが、欧文のものは存在しなかったため、本書は、海外のみならず日本の研究者や学生・市民にとっても貴重な一冊といえよう。

第11巻（別冊2） International Perspectives on Gender Equality & Social Diversity

辻村みよ子 編 A5判変型 272頁 英文 定価2,750円（本体2,500円+税）
ISBN978-4-86163-078-1 C3330(2008年3月)

第12巻 男女共同参画のために—政策提言

辻村みよ子・河上正二・水野紀子 編 A5判 526頁 定価2,420円（本体2,200円+税）
ISBN978-4-86163-073-6 C3330(2008年1月)

ジェンダー法・政策研究叢書の最終巻として、各界の第一人者38名の執筆陣による政策提言とCOE活動のまとめを掲載。第一部では、公法領域について国連婦人の地位委員会日本代表目黒依子教授や猪口邦子元大臣などの論文を集める。第二部では、雇用・家族など私法領域について上野千鶴子・大沢真理・浅倉むつ子・八代尚宏教授らが問題点を指摘。第三部では学術分野の男女共同参画のために後藤俊夫・大隅典子教授らが提言する。最後に5年間の成果と課題がまとめられ、執筆者総数370名に及ぶ叢書・年報の総括にふさわしい内容となっている。

■ The 21st Century COE Program International COE of Flow Dynamics Lecture Series



ISBN978-4-925085-94-6
C3040(2004年11月)

Vol.1 Advances in Molecular and Bio Sciences

圓山重直・川野聡恭 編 A 4判 56頁 英文
定価1,320円(本体1,200円+税)

2003年11月に仙台で開催された第3回「スローダイナミクスと複雑系」国際シンポジウム(主催:東北大学流体科学研究所)での西澤前東北大学長とノーベル賞受賞者2名の特別講演を、21世紀COE「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」レクチャーシリーズ第1巻として発行する。分子生物学における計測技術や応用機器に関する最先端の話題を平易に理解することができる。本書は、バイオ・ナノ流体科学の将来を展望する上で非常に興味深く、専門家のみでなく、学生や一般市民向けの入門書として適している。

Vol.2 Dynamic Behavior of Condensed Matter from Comprehensive Views of Flow Dynamics

Eugene zaretsky 著 圓山重直・佐宗章弘 編 B 5判 156頁 英文 定価3,248円(本体2,953円+税)

ISBN978-4-86163-010-1 C3353(2005年4月)

野球のボールをバットで打つとき、バットからボールへの運動量交換は「波」を通じてなされる。これは、気体中を伝わる衝撃波の挙動と本質的には同じものであり、そこには媒質の種類にとらわれない、共通の物理がある。本書は、固体中の衝撃波現象について、その分野の専門家が、流体力学者のためにわかりやすく、なじみやすい表現を用いて著したものである。本書の根幹となる、固体の衝突の問題における波動解析、状態方程式、そして破壊に至るメカニズムは、固体物理の初学者にも十分理解できる内容である。本書を通して流体力学の一つの広がりを体得できるとともに、実践的な実験法、計測法、数値解析法、さらにはセラミックスの衝撃破壊挙動など最新の研究内容にも触れ、専門家にとっても読みごたえのある内容で構成されている。

Vol.3 A wake Integration Method for Airplane Drag Prediction [品切]

楠瀬一洋 著 圓山重直・佐宗章弘 編 B 5判 144頁 英文 定価2,750円(本体2,500円+税)

ISBN978-4-86163-015-6 C3353(2005年6月)

航空機設計に於いて正確な空力(揚力及び抵抗力)計算は最も重要な出発点である。航空機設計の成功はどれだけ抵抗を減らすかにかかっていると言っても過言ではない。航空機の抵抗は、形状抵抗(profile drag)及び造波抵抗(wave drag)、誘導抵抗(induced drag)に分類される。形状抵抗と造波抵抗は機体の形状に決定されるので、洗練された機体を設計することによって大幅に削減され得る。しかし誘導抵抗は、航空機の揚力発生に起因しているため、その削減には自ずから限度がある。そのため航空機設計者は、抵抗削減にあたり、各種抵抗の内訳、とくに誘導抵抗の占める割合を正確に知る必要がある。これに対し、ここに紹介するWake Integration Methodは、物体後流を用いた空力解析法(far-field drag expression)で、航空機設計者の必要とする抵抗内訳を正確に計算することを可能にし、その点に大きな意義がある。

Vol.4 Lateral and Directional Flight Dynamics and Controllability of Winged Reentry Vehicles: Lessons Learned

米本浩一 著 B 5 判 132頁 英文 定価3,190円 (本体2,900円+税)
ISBN978-4-86163-038-5 C3353(2006年8月)

日本で計画されていた宇宙往還技術試験機 HOPE-X の開発経験に基づき、その再突入飛行特性と横方向の制御性について解析的な観点から論じるとともに、尾翼の空力設計論について言及した研究図書である。

Vol.5 Aerodynamic Design of Supersonic Biplane: Cutting Edge and Related Topics [品切]

楠瀬一洋他 著/圓山重直・大林茂 編 B 5 判 260頁 英文 定価5,500円 (本体5,000円+税)
ISBN978-4-86163-061-3 C3353(2007年6月)

本書は、東北大学21世紀 COE プログラム「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」の教育研究活動を通じて提案された超音速複葉翼理論について、これまでの成果をまとめたものである。この理論では、古典的なブーゼマン翼の概念を応用して2枚の翼を用いて衝撃波を干渉させることで、造波抵抗を低減しつつソニックブームを根本的に削減することができる。次世代超音速機開発における最大の壁では航空機が音速を超えて飛行する際に発生するソニックブーム問題とされており、大型機にも応用可能な革新的空力形状を提案する本理論はソニックブーム問題解決の大きな糸口となることが期待される。

Vol.6 Statistical Physics of Complex Fluids

圓山重直・徳山道夫 編 B 5 判 350頁 英文 定価5,720円 (本体5,200円+税)
ISBN978-4-86163-068-2 C3353(2008年1月)

本書は、東北大学21世紀 COE プログラム「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」の教育研究活動の中で行われた複雑流体に関する集中講義の内容をまとめたものである。複雑流体は、非線形な問題を取り扱っており、いまだ、基礎理論が確立されていない。しかし、近年の実験技術の進歩により、ようやく詳細な実験結果を得ることが可能となり、同時に新たな理論やシミュレーションも展開されつつあり、今後の新素材などへの応用が期待される分野である。本書では、3人の実験家と1人に理論家が、ガラス転移近傍の流体力学的相互作用、ソフトマターにおけるジャミング、分光学によるソフトマターの特徴付け、荷電コロイド分散系における相変化など、それぞれの専門のトピックスについて、各自の視点より基礎から最新に成果までを報告し、今後の複雑流体の学理構築への一助となることが期待される。

Vol.7 Mathematical Modeling of Mass Transport in Complex Media

圓山重直・橋田俊之 編 B 5判 236頁 英文 定価5,500円 (本体5,000円+税)
ISBN978-4-86163-079-8 C3353(2008年3月)

本書は、東北大学21世紀 COE プログラム「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」の教育研究活動を通じて提案された、複雑媒体内における物質移動現象のキャラクタリゼーションに関するものである。地球環境問題と関連して、地殻の利用は最重要課題の一つと考えられており、不均質で複雑媒体である地殻内の物質移動は中核的な話題として位置づけられている。本書では、非整数階微分を用いた物質移動の数学的モデルとその物理学的意義について説明するとともに、いくつかのフィールドデータによりモデルの妥当性を検証し、さらにその応用と展望について解説している。

Vol.8 The Earth Simulator

圓山重直・橋田俊之 編 B 5判 134頁 英文 定価3,080円 (本体2,800円+税)
ISBN978-4-86163-080-4 C3353(2008年3月)

本書は、東北大学21世紀 COE プログラム「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」の教育研究活動の一環として実施された、地球シミュレータに関する一連の講義に基づくものである。まず、地球シミュレータ設置経緯とその構成・性能について説明され、大気・海洋ならびに固体地球の数値シミュレーション法と主な研究成果についてそれぞれ記載されている。マイクロな個々の現象とそれらの相互作用に基づく新しい大規模シミュレーションの方法論に関する解説がされ、新規な計算科学分野の書籍としても活用されることが期待される。

Vol.9 Nano-Mega Scale Flow Dynamics in Energy Systems

圓山重直 編 B 5判 278頁 英文 定価5,500円 (本体5,000円+税)
ISBN978-4-86163-094-1 C3353(2008年3月)

本書は、東北大学21世紀 COE プログラム「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」の教育研究活動の一環として実施された、エネルギーシステムに関するナノ・メガスケール熱・物質移動現象について解説している。まず、熱流動システムについてのスケール効果について概説し、燃料電池のナノスケール物質移動、MEMS (マイクロ電気機械システム) へも応用可能な燃焼現象、燃焼のマイクロ過程、メガスケール地下流動計測、二酸化炭素貯留における多様なスケールの流動と制御、地層亀裂におけるメガスケール流動を詳細に解説している。

Vol.10 Nano-Mega Scale Flow Dynamics in Highly Coupled Systems

圓山重直・小原拓 編 B 5判 204頁 英文 定価5,500円 (本体5,000円+税)
ISBN978-4-86163-075-0 C3353(2008年2月)

壁面など異種の物体から強い干渉を受ける流れは、熱流動現象のあらゆる応用につながる基礎現象である。実現象のスケールはナノメートルからメートルまで広い範囲に及び、また、現象発現のメカニズムにおいても、量子力学から原子分子の古典力学・統計力学を経て流体・固体の連続力学に至る全てのスケールが重大な影響を持つ。本書は、東北大学21世紀 COE プログラム「流動ダイナミクス国際研究教育拠点」において様々なスケールにおける強干渉流動の研究に携わった研究者が、基礎から応用までそれぞれの立場で流動ダイナミクスについて評述するものである。

Vol.11 Nano-Mega Scale Flow Dynamics for Advanced Aerospace Technology

圓山重直・中橋和博 編 B 5判 220頁 英文 定価5,500円 (本体5,000円+税)
ISBN978-4-86163-085-9 C3353(2008年3月)

本書は、航空宇宙に関連した流体実験および数値計算の最先端技術について、本分野の専門家が大学院生や流体工学者のために著したものである。分子センサーを用いた測定技術、高速エンジンのための燃焼実験技術、非構造格子を用いた数値流体力学、多分野最適設計への応用、人工衛星の惑星大気突入における高温流計算等を取り上げており、これらを通して流体実験法、数値解析法、最適化技術等の実践的かつ最新の研究内容にも触れることができ、専門家にとっても読みごたえのある内容で構成されている。

Vol.12 Nano-Mega Scale Flow Dynamics in Complex Systems

圓山重直・西山秀哉 編 B 5判 282頁 英文 定価5,500円 (本体5,000円+税)
ISBN978-4-86163-081-1 C3353(2008年3月)

材料プロセス、環境浄化、医療およびエネルギー変換システムに見られる流動は、複雑系である。本書は、複雑な構造を有する過冷却液体、微粒子やラジカルを含んだプラズマ流、溶融界面との干渉を伴うアーク流、微小気泡とその機能性、ターボ機械のキャビテーション、磁性流体二相流や極低温二相流等を対象としている。混相流体工学、機能性流体工学の立場から複雑流動や機能性に特化して、ナノ・マイクロスケールの要素とマクロスケールのシステム性能を関連づけて、基礎方程式やモデリング、数値解法や計算結果、実験方法から先進的応用までの最新の研究内容を先鋭的な筆タッチでまとめたものである。

Vol.13 Role of Water in the Research on Energy and Environment

圓山重直・田路和幸 編 B 5判 208頁 英文 定価5,500円 (本体5,000円+税)
ISBN978-4-86163-086-6 C3353(2008年3月)

エネルギー問題は、地球温暖化を背景に最も重要な問題になった。環境汚染や破壊などエコロジーを中心として環境問題は、環境規制や先進国の努力により克服できる部分が多い。しかしながら、エネルギー問題は、先進国のみならず発展途上国の経済活動や社会生活と密接に結びつくため、経済と社会生活の持続発展を担保しつつエネルギー問題を克服する技術開発が必要となる。本書は、この視点にたつて、社会生活、経済活動の発展の中からエネルギーフローを考慮した物質循環による潜在的なクリーンエネルギーを発掘する技術、すなわち太陽エネルギー利用と環境技術における水の役割を紹介している。

書名索引

あ

ICT で実現する大学教育改革	品切れ
アイヌと縄文人の骨学的研究	71
Awake Surgery ガイドライン	73
蒼い軌跡	77
青葉山植物園ガイドブック 植物園に行こう	58
朝風にオールをとりて	24
アジアにおけるジェンダー平等	30
アスベスト	57
アダム・スミスの資本主義の精神から	36
阿部次郎とその家族	88
アリストテレス「存在論」への導き	21
アリストテレスの時間論	31

い

イギリス国民教育に関わる国家関与の構造	42
今を生きる	1. 人間として 5
	2. 教育と文化 5
	3. 法と経済 5
	4. 医療と福祉 6
	5. 自然と科学 6

う

ヴィルヘルム・ミュラーの生涯と作品	90
牛と日本人	品切れ
海を学ぼう	54
ウランの化学 (I)	82
ウランの化学 (II)	82

え

A・D・リンゼイの政治思想	105
エール大学対校エイト物語	84
エネルギーを考える	76

お

オイゲン・ヘリゲル小伝	26
大阪府立中之島図書館蔵『昇平宝筏』	25
男と女の文化史	108
オリバー・クロムウェルとイギリス革命	品切れ
音韻処理の脳半球機能差	68

か

開業医の光感受性でんかん研究	71
外国人非集住地域のエスニック・コミュニティと多文化教育実践	品切れ
介護職の誕生	98
回想 東北帝国大学	89
科学技術の内と外	81
化学者たちのセレンディビティー	56
学士課程教育のカリキュラム研究	52
学習者の誤った知識をどう修正するか	品切れ
学習障害児の内発的動機づけ	品切れ
覚せい剤精神病と麻薬依存	品切れ
学生による授業評価の現在	43
「書く力」を伸ばす	50
学都仙台の近代	26
カシタス湖の戦い	84
ガス星雲と活動銀河核の天体物理学	53
家族	115
「家族」と「個人」の相克	27
形と空間のなかの私	85
学校を考えるっておもしろい!!	40
株式会社法の基礎理論	38
カルチュラル・ミSEDyカーション	品切れ
加齢医学 / エイジング・ファイン	69
川端康成の方法	98
官営製鐵所から東北帝國大學金属工學科へ	24
環境制約下におけるイノベーション	36
「環境」の基本的な考え方	63
がん検診判断学	69
韓国道徳科教育の研究	46
韓国は如何に日米両国と関わってきたのか	95
感性学	19
カントからヘルダーリンへ	18
がんの治療を阻む生体のしくみ	72
がんの予防	70

き

消え去る差異、生み出される差異	103
企業間コラボレーション戦略	34

記号を読む	品切れ
寄生性原虫コクシジア	56
北上山地に日本更新世人類化石を探る	55
キャリア形成支援の方法論と実践	46
弓聖 阿波研造	86
旧東欧世界の民族誌	104
弓道教室講話	86
教育・学習過程の検証と大学教育改革	48
教育の条件	品切れ
教科学習の心理学	品切れ
共感と感応	18
共生社会へ	52
共生のリテラシー	15
教養と学問	3
漁業科学とレジャーシフト 川崎健の研究史	80
近世武士道論	品切れ
金代字書の研究	95
近代日本と雪害	101
近代日本における私生活と政治 与謝野晶子と平塚らいてう	104
近代日本の民衆キリスト教	17
く	
杭基礎の耐震問題に関連して	76
空間と形に感応する身体	86
グスタフ・ゼン 葉緑体の変形と定位運動	61
グローバル経済と東北の工業社会	28
グローバル社会における高度教養教育を求めて	46
グローバル二酸化炭素リサイクル	63
君子未然に防ぐ	品切れ
け	
芸術の始まる時、尽きる時	17
血痕鑑定と刑事裁判	33
研究・教育のシナジーとFDの将来	41
研究倫理の確立を目指して	50
健康診断医からみた健康管理 Q & A	72
現象学入門	21
原子炉物理入門	54
現代と日本農村社会学	27

現代農政の財政分析	36
建築遺産 保存と再生の思考	78
元大都形成史の研究	103
こ	
公衆衛生の責任	67
酵素資源余話	59
高大接続改革にどう向き合うか	51
高大接続関係のパラダイム転換と再構築	48
高等学校学習指導要領 VS 大学入試	49
高等教育の大衆化と私立大学経営	品切れ
高度情報化時代の「学び」と教育	45
高炉を支えた操業技術と原燃料	品切れ
「公論」の創生「国民」の誕生	105
呼吸器外科学	65
国際会議 (AQVEC) アブストラクト	品切れ
国際会議 (AQVEC) プロシーディング	品切れ
国際金融の法と実務	37
国際法・国際関係とジェンダー	115
国防保安法の歴史的考察と特定秘密保護法の現代的意義	37
心の科学史	品切れ
心の豊かさをつくる技術知	品切れ
個人主義から〈自分らしさ〉へ	品切れ
個性の輝くコミュニケーション	75
国境を越える名誉と家族	93
言葉に心の声を聞く	110
ことばの世界とその魅力	107
子どもの暮らす施設の環境	100
個別大学の入試改革	52
古文書がつなぐ人と地域	113
雇用・社会保障とジェンダー	116
コンポスト科学	61
さ	
再啓蒙から文化批評へ	94
斎藤報恩会と東北帝国大学	14
『西遊記』資料の研究	88
材料工学のための移動現象論	75
材料電磁プロセッシング	75

『三合語録』における満洲文字表記モンゴル語の研究	90
山菜採りの社会誌	23
産地組織のマネジメント	35
し	
G・H・ミードの社会理論	28
ジェンダーの基礎理論と法	116
ジェンダーと教育	115
ジェンダー平等と多文化共生	29
ジェンダー法学・政治学の可能性	114
システィーナ礼拝堂天井画	85
死すべきものの自由	98
自然科学総合実験 2022	64
自然観の変遷と人間の運命	20
シックハウス症候群を防ぐには	77
質的知覚論の研究	22
自分一私がわたしを創る一	39
自分一わたしを拓く一	39
自分Ⅲ一わたしから私たちへ	39
自閉症とアスペルガー症候群 対応ハンドブック	71
シベリアとアフリカの遊牧民	111
『資本論』第Ⅱ部の成立と新メガ	33
社会科学領域における学習者の不十分な認識とその修正	品切れ
社会主義社会の経験	101
社会的責任学入門	品切れ
謝罪の研究 釈明の心理とはたらき	品切れ
「周縁」のドイツ語文学	90
住宅における熱・空気環境の研究	78
種子生物学	品切れ
種痘法に見る医の倫理	66
修羅とテクノボー	89
障害者のリハビリと福祉	67
情報技術と社会	9
昭和初期の経済更生運動と農村計画	品切れ
昭和前期地域教育の再編と教員	96
食と儀礼をめぐる地球の旅	112
食に見る世界の文化	107
植物バイオテクノロジーの基礎知識	63

植民地時代の文化と教育	49
女性百年	28
白いスタジアムと「生活の論理」	32
新岩手県鉱山誌	品切れ
人口減少社会に対応したまちづくり法制	38
震災からの問い	3
信じることと知ること	16
人体はすべて機械化できる?	70
新訂 学習指導要領は国民形成の設計書	44
人文学の生まれるところ	11
人文学の要諦	3
新聞原典史料『アヴィーン』『レラツィオン』	31
人文社会科学の未来へ	14
人文社会情報科学入門	12
す	
髄液細胞診	65
水産遺伝育種学	80
スイスと日本の近代化学	60
数学の苦手な人が書いた寄り道統計学	59
数理学教育の現代的展開	51
せ	
政治参画とジェンダー	116
聖書の鉱物誌	品切れ
生死を考える	4
生態システムと人間	57
生と死への問い	108
生の倫理と世界の論理	19
生物フォトンによる生体情報の探求	12
西洋近代における分権的統合 その歴史的課題	25
西洋美術への招待	品切れ
世界遺産を学ぶ	112
世界漕艇物語	品切れ
世界のジェンダー平等	116
世界のポジティブ・アクションと男女共同参画	114
責任ある研究のための発表倫理を考える	51
セクシュアリティと法	115
一九四〇年代の〈東北〉表象	91

戦国時代の百姓思想	95	多様性と異文化理解	4
戦時下の帝国大学における研究体制の形成過程	45	男女共同参画のために	117
全人的心理学	15	ち	
戦争と人道支援	99	地域医療システム構築	68
戦争の哲学	22	「地域」再考	108
仙台基督教育児院史からよむ 育児院と学校	43	地下資源文明から生命文明へ	79
仙台高等工業学校創立百周年記念誌	23	父 阿部次郎	1
“善玉”としてのヒスタミン	73	地中レーダーを応用した遺跡探査	112
線描の芸術	2	知的障害者とともに大学で学ぶ	47
そ		知の地平	10
贈答の近代	100	中国宋～明代における婚姻の学際的研究	94
ゾウリムシの遺伝学	53	聴覚と言語の世界	15
続 東北大生の皆さんへ	8	超並列電子ビーム描画装置の開発	81
続 若き研究者の皆さんへ	7	つ	
楚辞「離騷」を読む	105	つながりの文化人類学	30
た		津波の恐怖	2
大学教員の能力	50	て	
大学における学生相談・ハラスメント相談・キャリア支援	41	帝国の基層	品切れ
大学における共通通知のありか	10	鉄の科学史	100
大学における授業の改善をめざして	40	と	
大学における初年次少人数教育と「学びの転換」	41	ドイツ信託法理	96
大学における「学びの転換」と学士課程教育の将来	44	ドイツ法理論との対話	35
大学における「学びの転換」と言語・思考・表現	42	道元「正法眼蔵」現成公案 略解	21
大学における「学びの転換」とは何か	42	東北アジア 大地のつながり	111
大学入試と高校現場	49	東北アジアの自然と文化	113
大学入試における共通試験	51	東北人の自画像	107
大学入試における「主体性」の評価	52	東北—その歴史と文化を探る	107
大学附属臨海実験所水族館	97	東北大学100年 学び究めて	11
体験と認識	16	東北大学出版会創立10周年記念誌「宙」	10
大衆消費社会の食料・農業・農村政策	品切れ	東北大学における理化学ガラス機器の開発	55
太平洋戦争史秘録 隠された大震災	58	東北大学の学風を創った人々	24
台湾社会の形成と変容	品切れ	東北大生の皆さんへ	7
竹を吹く人々	品切れ	東北における産学官連携	12
多元的文化的論理	88	東洋数学史への招待	57
タジク語文法便覧	99	都市機能の高度化と地域対応	27
多文化共生社会の構築と大学教育	47	都市を描く	85
玉蟲左太夫「航米日録」を読む	品切れ	途絶する交通、孤立する地域	111

トマス・アクィナスにおける神の似像論	20
トリウム、プルトニウムおよび MA の化学	82

な

菜の花サイエンス	79
ナムイ語文法の記述言語学的研究	91
奈良仏教と古代社会	99

に

21世紀肺癌診療の展望	65
日蓮における宗教的自覚と救済	20
日中対照 デジタル信号処理入門	78
日本医学教育史	72
日本語初級から学ぶ日本文化	92
日本語文学を読む	101
日本植物種子図鑑 改訂版	品切れ
日本における単線型学校体系の形成過程	96
日本における地域間計量モデル分析の系譜	34
日本の国園	品切れ
日本の省エネルギー技術の中国地域暖房への活用 日中対訳	80
日本の男女共同参画政策	114
乳製品の世界外史	76
人間における悪	16

ね

燃焼現象の解析	品切れ
---------	-----

の

農学生命科学を学ぶための入門生物学	62
農学の知を復興に生かす	62
農地政策と地域農業創生	37

は

バーニニが言及するヴェェーダ語形の研究	91
ハイデガーにおける循環と転回	18
ハイテク・クラスターの形成とローカル・イニシアティブ	品切れ
ハイブリッドな文化	109
パウル・クレーの芸術	品切れ
はじめての物理数学	58
母親の心理学	品切れ
原敬と陸羯南	102
パワフル粘菌	品切れ

反証主義	品切れ
------	-----

ひ

東日本大震災からのスタート	14
東日本大震災後の子ども支援	47
東日本大震災と大学教育の使命	48
被災地から考える日本の選挙	31
百科繚覧 Vol.1	13
百科繚覧 Vol.2	13

ふ

ファカルティ・ディベロップメントを超えて	43
風土が育む日本の技術知	54
フォンターネの詩	87
藤野先生と鲁迅	品切れ
豚肉の生産科学	64
フッソールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学	102
プラトン形而上学の探求	93
文学的思考へのいざない	87
文科系のための自然科学総合実験	品切れ
文化理解のキーワード	108
分子疫学入門	73

へ

ヘーゲル 具体的普遍の哲学	97
ヘーゲル 主体性の哲学	104

ほ

放射光科学入門	55
放射線医学臨床実習書	67
法則の適用を阻む「判断の不確定性」とその低減方略	品切れ
放牧と敷き草刈り	17
放浪文学論	1
ポストコロナル批評の諸相	89
細谷真雄 ニーチェ特殊講義	19
骨が語る奥州戦国九戸落城	品切れ
ほんとうのことば	110

ま

マイクロサット開発入門	77
「学びの転換」を楽しむ	品切れ
まなびの杜〈東北大学〉知的探検のススメ	9

まなびの杜〈東北大学〉知的探検のススメ Vol. II … 9	
み	
ミケランジェロの世界像 …… 84	
ミュンスター宗教改革 …… 103	
未来への遺産 …… 109	
ミルクの文化誌 …… 53	
民族の幻影 …… 94	
みんなの熱科学 …… 61	
む	
無私と人称 …… 93	
め	
明治期民事裁判の近代化 …… 34	
も	
本居宣長の思想構造 …… 102	
ものがたり 東北大学の至宝 …… 11	
や	
柳田國男と東北大学 …… 32	
山の民の地域システム …… 25	
ゆ	
油性抗癌剤を用いた肝細胞癌の治療 …… 品切れ	
夢の行方 …… 40	
ゆらぎからのメッセージ …… 56	
ゆらぎの科学と技術 …… 品切れ	
よ	
吉田松陰の思想と行動 …… 品切れ	
ヨーロッパワイン文化史 …… 26	
り	
力学入門 …… 62	
る	
ルール学習と提示事例 …… 45	
れ	
レオナルド・ダ・ヴィンチの世界像 …… 品切れ	
歴史学の遠近 …… 1	
ろ	
ローマ帝国とアウグスティヌス …… 97	
ロケットターボポンプの研究・開発 …… 79	
鲁迅と仙台 …… 23	

鲁迅の仙台時代 …… 87
ロボティクスの幾何学的基礎 第2版 …… 81
わ
若き研究者の皆さんへ …… 7
我が航跡 …… 33
わたしの日本学び …… 109
私のモノがたり …… 109

欧文書

A	
Advances in Molecular and Bio Sciences …… 118	
Aerodynamic Design of Supersonic Biplane: Cutting Edge and Related Topics …… 119	
A Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families …… 30	
A wake Integration Method for Airplane Drag Prediction …… 118	
C	
Carcinoma of the Pancreas and Biliary Tract …… 66	
Channeling the Forces of Nature …… 59	
D	
Dynamic Analysis of Earthquake Resistant Structures …… 品切れ	
Dynamic Behavior of Condensed Matter from Comprehensive Views of Flow Dynamics …… 118	
E	
EEG Atlas of Photosensitive Epilepsy …… 69	
F	
Fusion of the West and the East, Harmony of Human and Technology …… 74	
G	
Gender Equality in Asia …… 29	
Gender Equality in Multicultural Societies …… 29	
Gender & Law in Japan …… 117	

H

- History of National Curriculum Standards
Reform in Japan 44

I

- International Perspectives on
Gender Equality & Social Diversity 117

L

- Lateral and Directional Flight Dynamics and
Controllability of Winged Reentry Vehicles:
Lessons Learned 119
Learning Therapy 品切れ

M

- Mathematical Modeling of Mass Transport in
Complex Media 120

N

- Nano-Mega Scale Flow Dynamics for Advanced
Aerospace Technology 121
Nano-Mega Scale Flow Dynamics in Complex
Systems 121
Nano-Mega Scale Flow Dynamics in Energy
Systems 120
Nano-Mega Scale Flow Dynamics in Highly
Coupled Systems 120
New Frontiers in Social Cognitive Neuroscience 70

P

- Paintings of Bamboo Flutes:
A History and Genealogy of Shakuhachi
Performance 品切れ
Pathways to Academic English 92
Photoc Driving Response 68

R

- Recent Advances in Biomagnetism 66
Regime Shift–Fish and Climate Change– 60
Role of Water in the Research on Energy and
Environment 121

S

- SOCIAL CAPITAL
AND CIVIL SOCIETY IN JAPAN 35
Statistical Physics of Complex Fluids 119

T

- The Earth Simulator 120
THERMODYNAMIC DATA FOR
STEELMAKING 品切れ
TOHOKU UNIVERSITY SURVIVAL
JAPANESE 13
Topics in Finite or Infinite Dimensional
Complex Analysis 60

U

- Understanding interfacial reaction kinetics in
Fe-C-O system 83
URBAN GEOGRAPHY OF POST-GROWTH
SOCIETY 品切れ

著訳編者名索引

あ

青井秀夫	35, 115
阿子島香	107
足立佳菜	40
足立達	53, 76
阿部兼也	87
阿部宏	110, 135
荒井克俊	80
荒武賢一朗	112, 113
有松唯	136

い

生田久美子	115, 136
池上尚克	81
池上良正	17
池沢幹彦	26, 86
池谷和信	23
石岡丈昇	32
石垣文	100
石川哲	77
石川洋	58, 62
石田幸平	16
石田秀輝	59, 79
石渡明	111
泉武夫	136, 137
磯崎行雄	111
磯部彰	25, 88
一鳥英治	59, 137
一條玲香	47
井土愼二	99
伊藤公久	136
伊藤大介	101
伊藤豊彰	61, 62
伊藤幸博	63
稲澤努	103
稲葉馨	5, 114
稲場文男	12
井之口希秀	135
異分野新素材研究会	77
井本佳宏	96
入間田宣夫	112
岩崎哲郎	40
岩崎智彦	54
岩田美喜	89
岩手大学大学教育総合センター	136

う

ヴィルヘルム・ヴェント	16
植木俊哉	115
植田今日子	111
上田元	25
上野友也	99
上原章寛	82
ウェルナー・マルクス	21
内山勝	81
梅木達郎	1

え

江刺正喜	81
SKK 同窓会仙台高等工業学校創立百周年記念誌編集委員会	23
遠藤宏美	44

お

王新新	94
大泉一貫	135
大井英之	81
大岩本幸次	95
大内清昭	66, 135
大海原宏	80
大河原忠藏	87
大沢真理	29
大谷尚之	35
大友展也	31
大林茂	119
大平千枝子	1, 88
大淵憲一	137
大村道明	61, 62
岡田有司	52
岡本信明	80
岡安儀之	105
奥井誠	37
奥村誠	111
尾坂芳夫	54, 135
尾崎彰宏	5
尾園絢一	91
小田中聰樹	37
小田基	135
小田泰子	66
音部治幹	82
小原拓	120
小原豊志	25
帯刀益夫	69

か	
角田毅	37
片岡博尚	61
片瀬一男	40
片山知史	80
勝山稔	94
加藤諭	26
加藤尚武	15
加藤道代	47
金田明大	112
金山喜則	62
狩野敦	70, 72
河北新報社編集局	11
上條謙二郎	79
神谷大介	111
鴨池治	6
刈部博	66
河上正二	117
川崎健	60, 80
川島隆太	70, 135
川住隆一	47
川人貞史	116
川野聡恭	118
河村和徳	31
川村宣元	16
川村秀忠	135
神崎秀嗣	46
岩石鉱物科学編集委員会	57
菅野智則	26
き	
北柴大泰	62
北辻章浩	82
北村晴朗	15
城戸健一	78
木下悦二	33
木下喬	21
木村拓也	46
桐島陽	82
桐原健真	136
く	
串本剛	52
グスタフ・ゼン	61
楠瀬一洋	118, 119
工藤昭彦	37
国久荘太郎	34
栗城真也	66
クリストファー・ドッド	136
クリストファー・ヒル	135
栗原隆	10, 11, 17, 18, 19, 85, 86
栗原康	57
栗山進一	73
こ	
小泉英明	135
越宏一	2
小河原誠	136
越田信義	81
小島明	81
小嶋翔	104
小嶋大造	36
高選圭	31
小谷誠	66
後藤嘉也	18
小林敬子	59
小林大志	82
小林隆	32
Colleen Crum	34
是澤紀子	78
今野裕昭	27
さ	
齊藤豊治	115
齋藤雅典	62
坂井建雄	72
榊原章浩	84, 136
榊原佐和子	52
櫻井映子	135
座小田豊	5, 19, 20
佐々木公明	34
佐々木隆之	82
佐々木千佳	85
佐々木康	83
笹田博通	88
佐宗章弘	118
佐竹正延	69
佐藤研一	88
佐藤源之	112
佐藤繁	55
佐藤淳	136
佐藤駿	102

佐藤透	22	須田将司	96
佐藤利明	27	スチンバト	90
佐藤直由	27	スティール若希	30
佐藤修彰	82	ステファン・キースリング	84
佐藤春彦	135	SMANCS 動注療法検討会	135
佐藤光源	135		
佐藤利三郎	12	せ	
澤田純明	55	関内隆	5
三瓶弘喜	25	関根明伸	46
		関本英太郎	12
し		関豊	136
J. M. Selig	81	セツポ・サジャマ	21
ジェーン・R・マーティン	136	瀬戸一夫	18
信太光郎	98	先崎彰容	136
篠澤和久	31	そ	
柴田明德	136	曾我亨	111
渋谷努	93		
渋谷寿	56	た	
島崎薫	13	高倉浩樹	111, 112
島田明夫	38	高田敏文	5
島田昱郎	135	高田文子	44
島田睦雄	68	鷹野致和	135
清水雅夫	135	高橋維一郎	135
清水慶昭	12	高橋一徳	112
ジャッキー・スティール	29	高橋秀太郎	91
周立剛	78	高橋剛夫	68, 69, 71
「女性百年」刊行委員会	28	高橋英博	27, 28
白旗希実子	98	高橋滯子	135
進藤聡彦	136	高橋美能	47
す		高橋陽一	113
陶久利彦	35	高谷紀夫	30
菅田正徳	81	高山陽子	94
菅原良	46	滝浦静雄	89
須川敏幸	60	瀧川渉	55
杉浦元亮	70	竹内拓史	89
杉田泰一	19	嵩さやか	116
杉村義広	76	武田共治	27
杉本敦	104	武田志乃	82
勝呂元	61	竹間芳明	136
鈴木岩弓	32	田澤薫	43
鈴木啓一	64	タッド・ホールデン	135
鈴木啓孝	102	田中重人	30, 116
鈴木宏哉	59	田中輝和	33
鈴木学	40	田中英道	84, 136, 137
鈴木善弘	135	田中真理	47
		谷口尚司	75

谷口順彦	80	徳山道夫	119
谷澤直人	24	土佐弘之	115
田村眞一	53	戸澤英典	116
ち		戸島貴代志	110
千種眞一	107	百々幸雄	55, 71, 136
中国地域暖房省エネルギー研究会	80	ドナルド・E・オスターブロック	53
趙承勲	95	鳥山欽哉	62, 63
つ		な	
月浦崇	70	永井隆之	95
辻村みよ子	29, 30, 114, 116, 117	中井裕	56, 61, 62
辻元早苗	86	中里信和	66
津田恒之	135	中嶋英介	137
土屋了介	65	中嶋正道	80
堤憲太郎	60	中田英幸	96
堤純	136	仲田祐	65
坪田光平	137	仲野義文	112
と		中橋和博	121
田路和幸	121	永渕正昭	15, 67
東北大学出版会	10	中村逸春	105
東北大学医学部「地域貢献作業班」代表伊藤恒敏	68	中村正三	65
東北大学学際科学フロンティア研究所「百科総覧」編集委員会	13	中村維男	9
東北大学教養教育院	3, 4	永本哲也	103
東北大学大学院教育情報学研究部	45	中山至大	135
東北大学大学院電気・情報系および電気通信研究所	75	南条正巳	62
東北大学工学部教務委員会	76	南部松夫	135
東北大学高等教育開発推進センター	41, 42, 43, 44, 48, 49, 50, 136	に	
東北大学高度教養教育・学生支援機構	50, 51, 52, 92	新岡嵩	135
東北大学災害科学国際研究所	14	新妻弘明	81
東北大学自然科学総合実験テキスト編集委員会	64	新山雄三	38
東北大学植物園	58	西尾剛	62
東北大学生態適応 GCOE チーム PEM	136	西谷祐子	116
東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会	108, 109	西田秀穂	135
東北大学大学院文学研究科出版企画委員会	108	西田文信	91
東北大学超小型衛星開発チーム	77	西出優子	35
東北大学東北アジア研究センター	113	西野徳三	63
東北大学菜の花プロジェクト	79	西村公宏	97
東北大学日本語教材開発グループ	92	西村貞二	1
東北大学文科系のための自然科学総合実験テキスト編集委員会	137	西村直子	17
東北大学文学部	14	西山秀哉	121
トゥルムンフ・オドントヤ	101	新田義之	24
富樫進	99	二平章	80
徳川直人	28	仁平説子	71
		仁平政人	98

日本 Awake Surgery 学会	73
日本海洋学会『海を学ぼう』編集委員会	54
日本化学研究会「東北大学における理化学ガラス機器の開発」編集委員会	55
日本鉄鋼協会材料電磁プロセッシング研究グループ	75

ぬ

貫和敏博	65
沼崎一郎	30, 137
沼田裕之	135

の

野崎義和	47
野村啓介	26
野村俊一	26, 78

は

芳賀京子	85
芳賀半次郎	36
橋田俊之	120
橋本功二	63
長谷川宜之	97
羽田貴史	46
初山高仁	100
花登正宏	107
花輪公雄	7, 8
濱口哲	10
早川祥賢	21
早坂啓造	33
林屋礼二	34
原口尚彰	16
原研二	88
原田夏子	89
原田隆吉	89

ひ

樋口晟子	27
久道茂	6, 67, 69
樋地正浩	34
細谷昂	27
日野正輝	6, 136
日野光兀	24, 136
平川直弘	54
樋渡宏一	53

ふ

フィリップ・ウッド	37
Philip Flavin	137

福岡正博	65
福岡路	136
藤田恭子	90
藤田賢	87
藤野先生と魯迅刊行委員会	136
伏見陽児	40, 45
藤村重文	65
藤原潤子	111
藤原松三郎先生数学史論文刊行会	57
ブラッド・アラン・ルイス	84
古川柳蔵	36, 79

ほ

細谷純	135
細谷昂	27
堀勝義	72

ま

前田和司	32
前田靖男	136
麻柄啓一	136
正村俊之	108
松山雄三	88
松井一麿	42
松浦明宏	93
松崎克彦	60
松下慶太	46
マッティ・カンピネン	21
松村和則	32
「まなびの杜」編集委員会	9
間宮啓壬	20
圓山重直	118, 119, 120, 121
圓山翠陵	61

み

三浦秀一	107
水野紀子	115, 117
水野雄司	102
水原克敏	5, 39, 40, 44
三谷鳩子	20
南谷忠志	135
嶺岸佑亮	104
宮口裕	81

む

武笠俊一	27
村井則子	135

め

目黒謙一 74

も

本村昌文 12

『ものがたり 東北大学の至宝』編集委員会 11

森岡卓司 91

森芳三 135

諸岡道比古 16

や

八木順一郎 75

八木美保子 39, 44

矢島忠正 24

矢田尚子 105

谷内一彦 73

矢野恵美 117

矢萩喜徳郎 86

山内英生 66

山口一良 135

山口未花子 112

山口睦 100

山下文男 2, 58, 135

山田章吾 67

山元一 114, 116

山本史華 93

山本光璋 135

山家智之 70

ゆ

Eugene zaretsky 118

湯浅塾道 31

よ

横田晋務 47

横地徳広 22

吉田和哉 77

吉武清實 52

吉田達 97

吉野博 6, 77, 78, 80, 136

吉葉恭行 12, 14, 45

吉本高志 66

吉原賢二 56

米澤彰純 136

米澤晋彦 14

米田穰 136

米本浩一 119

り

李郁蕙 101

ろ

鲁迅・東北大学留学百周年史編集委員会 23

Ronald K.Ireland 34

わ

若山映子 85

涌井昭 66

渡辺健哉 103

渡邊紀子 39

渡辺誠 55

渡邊雅之 82

渡辺美奈子 90

渡邊良朗 80

渡部昌平 46

渡部信一 45

渡部留美 13

輪田稔 19

渡利夏子 39

品 切 図 書

- 心の科学史 高橋滯子著 (1999年10月)
- 昭和初期の経済更生運動と農村計画 森芳三著 (1998年9月)
- 油性抗癌剤を用いた肝細胞癌の治療 大内清昭・佐藤春彦監修・SMANCS 動注療法検討会編 (1998年9月)
- 心の豊かさをつくる技術知 尾坂芳夫著 (1998年10月)
- 玉蟲左太夫「航米日録」を読む 小田基著 (2000年2月)
- 聖書の鉱物誌 島田昱郎著 (2000年1月)
- 教科学習の心理学 細谷純著 (2001年1月)
- 記号を読む一言語・文化・社会 タッド・ホールデン、阿部宏編 (2001年1月)
- パウル・クレーの芸術—その画材と技法と— 西田秀穂著 (2001年6月)
- 高炉を支えた操業技術と原燃料 山口一良著 (2001年7月)
- 牛と日本人—牛の文化史の試み 津田恒之著 (2001年9月)
- 学習障害児の内発的動機づけ—その支援方略を求めて 川村秀忠著 (2002年2月)
- 母親の心理学—母親の個性・感情・態度 村井則子著 (2002年5月)
- 大衆消費社会の食料・農業・農村政策 大泉一貫著 (2002年9月)
- 君子未然に防ぐ—地震予知の先駆者 今村明恒の生涯 山下文男著 (2002年8月)
- オリバー・クロムウェルとイギリス革命 クリストファー・ヒル著・清水雅夫訳 (2003年3月)
- 新岩手県鉱山誌 南部松夫・高橋維一郎著 (2003年4月)
- 種子生物学 鈴木善弘 著 (2003年9月)
- Learning Therapy 川島隆太・小泉英明 (2003年11月)
- 覚せい剤精神病と麻薬依存 佐藤光源・櫻井映子 (2004年1月)
- 日本植物種子図鑑 改訂版 中山至大・井之口希秀・南谷忠志著 (2004年4月)
- 燃焼現象の解析 新岡嵩著 (2004年4月)
- ゆらぎの科学と技術 山本光璋・鷹野致和著 (2004年9月)
- 教育の条件—人間・時間・言葉— 沼田裕之著 (2004年11月)

品 切 図 書

- レオナルド・ダ・ヴィンチの世界像 田中英道著 (2005年3月)
- 学習者の誤った知識をどう修正するかール・バー修正ストラテジーの研究 麻柄啓一編集代表 (2006年10月)
- 藤野先生と鲁迅 藤野先生と鲁迅刊行委員会 (2007年3月)
- 「学びの転換」を楽しむ 東北大学高等教育開発推進センター編 (2007年3月)
- 国際会議 (AQVEC) アブストラクト 吉野博 (2007年10月)
- 国際会議 (AQVEC) プロシーディング (I～III) 吉野博 (2007年10月)
- 骨が語る奥州戦国九戸落城 百々幸雄・竹間芳明・関豊・米田穰著 (2008年3月)
- 社会科学領域における学習者の不十分な認識とその修正 麻柄啓一・進藤聡彦編 (2008年3月)
- 吉田松陰の思想と行動―幕末日本における自他認識の転回 桐原健真著 (2009年6月)
- 法則の適用を阻む「判断の不確定性」とその低減方略 教授学習心理学からのアプローチ 佐藤淳著 (2009年8月)
- 世界漕艇物語 クリストファー・ドッド著/榊原章浩訳 (2009年9月)
- Dynamic Analysis of Earthquake Resistant Structures 柴田明德著・訳 (2010年3月)
- THERMODYNAMIC DATA FOR STEELMAKING 日野光元・伊藤公久編 (2010年3月)
- 高等教育の大衆化と私立大学経営「助成と規制」は何をもたらしたのか 米澤彰純著 (2010年3月)
- 個人主義から〈自分らしさ〉へ 福沢諭吉・高山樗牛・和辻哲郎の「近代」体験 先崎彰容著 (2010年5月)
- 反証主義 小河原誠著 (2010年10月)
- 社会的責任学入門―環境危機時代に適応する7つの教養 東北大学生態適応GCOEチームPEM (2011年6月)
- ハイテク・クラスターの形成とローカル・イニシアティブ 福嶋路著 (2013年2月)
- ICTで実現する大学教育改革―フランス・カナダ・日本の事例から 岩手大学大学教育総合センター編 (2013年4月)
- 竹を吹く人々 泉武夫著 (2013年3月)
- URBAN GEOGRAPHY OF POST-GROWTH SOCIETY 日野正輝・堤純 他著 (2015年3月)
- 帝国の基層 西アジア領域国家形成過程の人類集団 有松唯著 (2015年12月)
- カルチュラル・ミスエデュケーション―「文化遺産の伝達」とは何なのか― ジェーン・R・マーティン著/生田久美子監訳 (2008年11月)
- パワフル粘菌 前田靖男著 (2006年2月)

品 切 図 書

文科系のための自然科学総合実験 東北大学文科系のための自然科学総合実験テキスト編集委員会編 (2008年3月)

日本の国菌—コウジキンが支える社会と文化— 一島英治著 (2017年12月)

西洋美術への招待 田中英道監修 (2002年9月)

Paintings of Bamboo Flutes: A History and Genealogy of Shakuhachi Performance
泉武夫, Translation: Philip Flavin (2016年11月)

外国人非集住地域のエスニック・コミュニティと多文化教育実践
—フィリピン系ニューカマー親子のエスノグラフィー— 坪田光平著 (2018年6月)

謝罪の研究 釈明の心理とはたらき 大淵憲一著 (2010年03月)

台湾社会の形成と変容～二元・二層構造から多元・多層構造へ～ 沼崎一郎著 (2014年3月)

近世武士道論 山鹿素行と大道寺友山の「武士」育成 中嶋英介著 (2019年11月)

※ () は発行年月です。

科研費出版助成のご相談を承ります

独立行政法人日本学術振興会「科学研究費補助金（研究成果公開促進費「学術図書」）」の申請について、東北大学出版会では随時ご相談を承っております。

○申請の際の「見積書」を作成します。

応募予定の原稿をお持ちのうえ、ご相談ください。申請に必要な見積書等を作成いたします。
(例年11月が受付締切ですので、9月中旬までご相談ください。)

○製作のお手伝いをします。

採択後は、東北大学出版会スタッフが入稿・編集チェック・校正等の製作過程のお手伝いをします。

○東北大学出版会の刊行物として発行します。

東北大学出版会の図書コードを付して発行し、大手取次店を通して主要書店・ネットショップでの販売を行ないます。また、各種刊行情報への登録・発信や新聞・学会誌への広告出稿を通して、御著作を広く宣伝いたします。

「東北大学出版会若手研究者出版助成」のお知らせ

東北大学出版会では平成16年度より「東北大学出版会若手研究者出版助成」を行っております。

ご自身の研究成果の単行本化・刊行をお考えの皆様のご応募をお待ちしております。

○著者負担はございません。

出版に関わる諸経費については、東北大学出版会が負担します。著者買取等、著者の金銭的負担はございません。

○内容の向上・充実を目指します。

採択作品は、レフェリーからの査読コメントが得られます。採択後に推敲・検討できる機会もありますので、より充実した内容への修正が可能です。実際の製作・進行では、東北大学出版会スタッフが入稿・編集チェック・校正等のお手伝いをします。

○東北大学出版会の刊行物として発行します。

東北大学出版会の図書コードを付して発行し、大手取次店を通して主要書店・ネットショップでの販売を行ないます。また、各種刊行情報への登録・発信や新聞・学会誌への広告出稿を通して、御著作を広く宣伝いたします。

※応募資格・要項など、詳しくは東北大学出版会ホームページをご覧ください。



東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1番1号 東北大学構内

(学内便番号：A36 内線番号：3342)

電話 022-214-2777

FAX 022-214-2778

URL：<https://www.tups.jp>

E-mail：info@tups.jp



東北大学出版会

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1番1号 東北大学構内

TEL:022-214-2777 FAX:022-214-2778

<https://www.tups.jp>